

第5章 介護給付等対象サービス基盤の充実

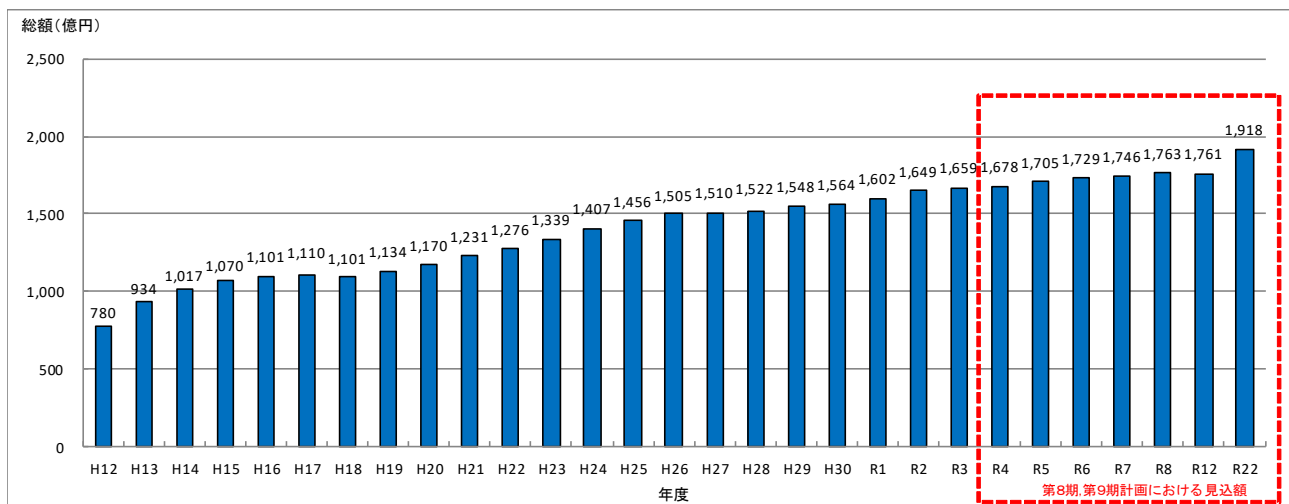
介護保険財政の安定的な運営や公平・公正な要介護認定の確保により、介護保険制度の持続可能性の確保に努めるとともに、介護サービスの質の確保・向上や多様な介護サービスの提供ができるようにするための施策を推進します。

第1節 介護保険制度運営の現状

【現状・課題】

- 本県の要支援及び要介護認定者は、高齢化の進行、特に後期高齢者の増により年々増加しています。
令和4年度末現在の第1号被保険者における要介護認定者数は、99,582人となっています。これは、介護保険制度開始時（平成12年度末約5.6万人）と比較すると約1.8倍となります。
- 介護給付費についても増加傾向にあり、令和3年度は約1,659億円となっており、平成12年度の約780億円と比較すると2.1倍となっています。
また、第1号被保険者1人当たりの介護サービス給付額については、居宅サービスが全国平均より低くなっていますが、地域密着型サービスと施設サービスが全国平均を大きく上回っており、総額としても全国平均より高くなっています。
- 団塊の世代の全員が75歳以上になる令和7年度には、介護給付費は1,746億円を超過するものと見込んでおり、介護保険制度の持続性を確保するためには、増大する介護給付費の適正化に向けた取組が重要となっています。

【図表5-1-1】介護給付費総額の推移（H12～R3年度実績，R4年度以降推計）



[介護保険事業状況報告，見える化システム]

【図表5-1-2】 サービス区分別第1号被保険者1人当たりの介護給付費（年額）

| 年度 | 第1号被保険者数 (人) | 居宅サービス | | 地域密着型サービス費 | | 施設サービス費 | |
|-----------------|-----------------|---------------|---------------------|---------------|---------------------|---------------|---------------------|
| | | 給付費 (千円) | 1人当たり 給付費 (円) | 給付費 (千円) | 1人当たり 給付費 (円) | 給付費 (千円) | 1人当たり 給付費 (円) |
| 平成12年度 | 409,116 | 27,189,953 | 66,460 | | | 50,292,502 | 122,930 |
| 平成24年度 | 459,823 | 57,747,788 | 125,587 | 21,155,970 | 46,009 | 51,472,077 | 111,939 |
| 平成27年度 | 487,809 | 63,235,224 | 129,631 | 25,554,494 | 52,386 | 50,900,293 | 104,345 |
| 平成30年度 | 507,755 | 56,409,215 | 111,095 | 36,528,310 | 71,941 | 52,044,644 | 102,500 |
| 令和元年度 | 513,542 | 57,711,666 | 112,380 | 37,632,023 | 73,279 | 53,142,838 | 103,483 |
| 令和2年度 | 518,333 | 58,877,898 | 113,591 | 38,451,784 | 74,184 | 55,399,915 | 106,881 |
| 令和3年度 | 522,158 | 60,106,958 | 115,113 | 38,820,542 | 74,346 | 55,677,294 | 106,629 |
| (参考)全国 令和3年度 | 35,886,884 | 4,960,396,752 | 138,223 | 1,692,485,587 | 47,162 | 3,193,823,415 | 88,997 |

(注) 1 第1号被保険者数は各年度末時点

2 各年3月～翌年2月サービス分（平成12年度は4月からの11ヶ月分）

[介護保険事業状況報告]

【施策の方向】

- 要介護認定者等の状態等に応じた適切な介護サービスを提供するため、サービス基盤の計画的な整備に努めるとともに、持続可能な介護保険制度の構築のため、介護給付の適正化の取組を推進します。

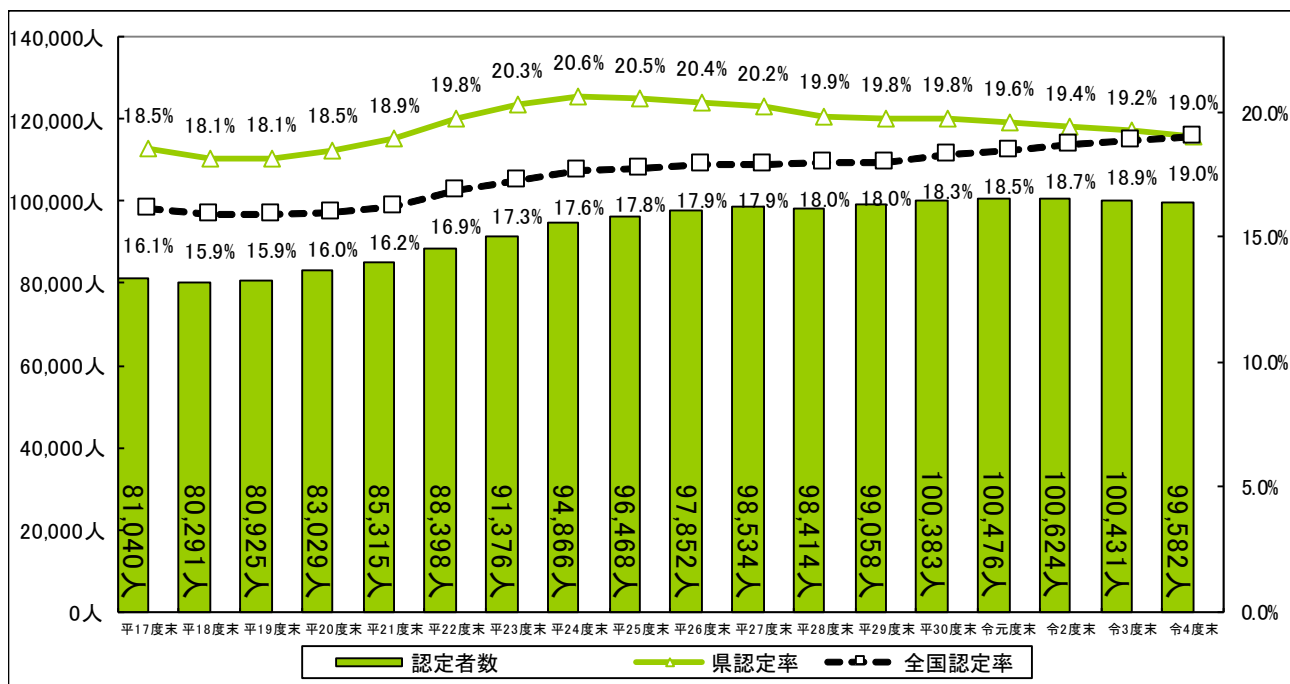
第2節 介護保険制度の適正な運営

1 公平・公正な要介護（要支援）認定の確保

【現状・課題】

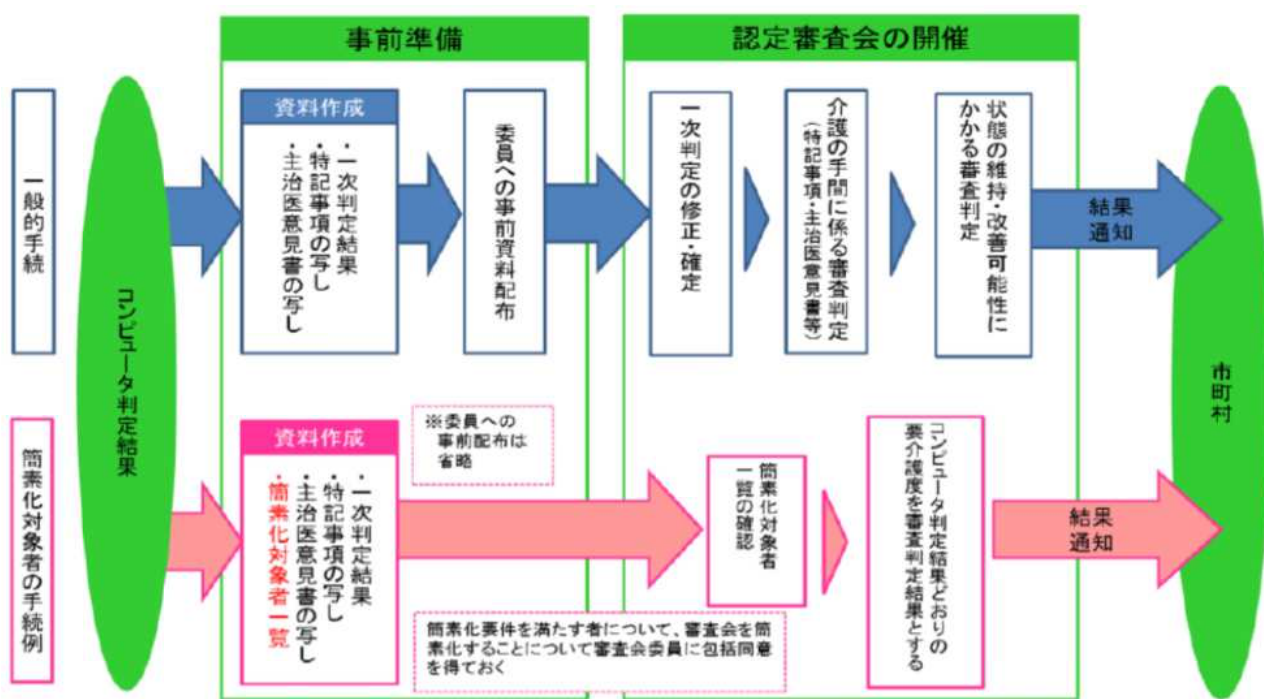
- 要介護（要支援）認定は、介護サービスを利用する上での入口であり、介護保険制度の根幹をなす、大変重要なものです。
- 介護サービスを必要とする高齢者等が心身の状態に合ったサービスを受けるためには、まず適切な要介護認定が行われる必要があります。
- 市町村においては、今後ますます要介護（要支援）認定申請件数の増加が見込まれる中、全国一律の基準に基づき、公平・公正かつ適切な要介護（要支援）認定を実施していく必要があります。
- 市町村における要介護認定の実施状況は、申請受付から認定までのすべての手続きを単独で実施する市町村がある一方、手続の一部を地域の複数の市町村で構成する一部事務組合で行うところがあるなど実施体制に相違があるほか、審査判定を行う認定審査会の委員の構成や合議体で審査判定する件数、簡素化導入状況（県内17認定審査会のうち令和5年8月時点で、11認定審査会で簡素化導入済み）なども一様となっていないため、要介護認定の平準化の取組が重要となっています。
- 高齢者の増加に伴い、認定者数も増加することが見込まれることから、認定審査会委員等の事務負担を軽減し、速やかな要介護認定事務を実施することが課題となっています。

【図表5-2-1】要介護（要支援）認定者数・認定率の推移



[県高齢者生き生き推進課調べ]

【図表5-2-2】認定審査会簡素化の例



※上記は簡素化方式の一例であり、法令上の基本原則を踏まえつつ、各自治体において簡素化方法を決定して差し支えない。

[厚生労働省資料一部抜粋]

【施策の方向】

- 要介護認定に関する各種データを保険者とともに確認し、認定のばらつき等については要因分析を行い、改善策を講じるなど公平・公正かつ適切な認定につながる取組を推進します。

■各論 第5章 第2節■

- 要介護認定事務等を担当する職員，認定調査員，介護認定審査会委員及び主治医に対し，知識，技能を修得及び向上させるための研修を行い，精度管理に努めているところであり，今後も引き続き能力向上のための研修や県下全域における審査判定業務の情報・意見交換を行う等，要介護認定の平準化に向けた取組を推進します。
- 認定有効期間の延長や状態安定者に係る二次判定の手続きの簡素化に加えて，認定審査会についてICTを活用して実施することで，認定事務の処理件数の増に伴う事務職員等の負担軽減や効率化が図られ，要介護認定業務が遅延なく適正に進められるよう，引き続き，助言・支援します。

2 第1号被保険者の保険料

【現状・課題】

- 第8期計画期間における第1号保険料標準月額額の県平均額は6,286円であり，第1期計画期間中の県平均額3,116円の約2.0倍となっています。
- 第9期計画期間における介護給付費の第1号保険料による負担の割合は，第8期計画期間中と同様に，23%になります。
介護給付費が増加しているため，第1号保険料も每期増額となっています。
- 要介護認定者等の割合が急激に増加する後期高齢者数は，地域ごとに異なるため，地域の実情に応じて，第1号保険料の算定を行う必要があります。

【図表5-2-3】第1号被保険者の介護保険料の状況（月額） （単位：円）

| 区分 | 第1期 (平成12～ 14年度) | 第2期 (平成15～ 17年度) | 第3期 (平成18～ 20年度) | 第4期 (平成21～ 23年度) | 第5期 (平成24～ 26年度) | 第6期 (平成27～ 29年度) | 第7期 (平成30～ 令和2年度) | 第8期 (令和3～ 令和5年度) |
|------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|------------------------|
| 県平均 | 3,116 | 3,814 | 4,120 | 4,172 | 4,946 | 5,719 | 6,138 | 6,286 |
| 全国平均 | 2,911 | 3,293 | 4,090 | 4,160 | 4,972 | 5,514 | 5,869 | 6,014 |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

【施策の方向】

- 介護給付見込額の適正な算出を行うとともに，介護保険財政の運営状況に基づき，各保険者における第1号保険料の設定が地域の実情に応じ，適正なものとなるよう助言します。

3 保険者機能強化推進交付金等の実効性を高めるための，評価指標等の見直しを踏まえた取組の充実

【現状・課題】

- 保険者機能強化推進交付金は，平成30年度に創設され，介護保険事業計画の進捗管理，介護給付費適正化に関する取組など，地域包括ケアの構築に向けた基盤整備の推進を図るものと位置付けられています。また，介護保険保険者努力支援交付金は，令和2年度に創設され，介護予防・健康づくり等の地域包括ケアに関する取組の充実を図るものとして位置付けられています。
- 県と市町村は，介護保険事業(支援)計画の実績に関する評価を行い，その結果について公表するよう努めています。

- 市町村が取組に関する自己評価を実施するに当たって、実施状況や成果などをアウトプットで評価し、この取組のアウトカムとの関連性を明らかにしていくことが必要です。

【施策の方向】

- 市町村が、自らの取組にかかる保険者機能強化推進交付金等の評価結果を踏まえつつ、課題の解決に向けた取組内容の改善や、取組内容のさらなる充実等に活用するよう支援します。
- 保険者機能強化推進交付金等が、高齢者の自立支援、重度化防止等に係る実態や課題把握、関係者への共有、検証、改善といったプロセスを確立し、保険者機能の更なる強化につながるよう助言を行うとともに伴走型支援の実施等に取り組みます。

4 県介護保険財政安定化基金の運営

【現状・課題】

- 市町村が通常の実行を行ってもなお生じる保険料未納や、介護給付費の見込みを上回る伸び等による財源不足について、市町村において一般会計からの繰入れを行うことなく、介護保険財政を安定的に運営するため、国、県、市町村の3者の拠出により、県に介護保険財政安定化基金を設置し、資金の貸付・交付を行っています。
- 第8期計画期間中に貸付の実績はなく、各市町村における介護保険財政は概ね安定的な運営となっています。
また、令和5年度末時点での基金残高は2,655,488千円となっています。

【図表5-2-4】 県介護保険財政安定化基金の積立等の状況 (単位：千円)

| 区 分 | 第1期 (平成12～ 14年度) | 第2期 (平成15～ 17年度) | 第3期 (平成18～ 20年度) | 第4期 (平成21～ 23年度) | 第5期 (平成24～ 26年度) | 第6期 (平成27～ 29年度) | 第7期 (平成30～ 令和2年度) | 第8期 (令和3～ 5年度) |
|-------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|----------------------|
| 基金積立金 | 4,113,872 | 2,077,410 | 1,753,733 | 297,020 | 138,455 | 666,960 | 3,240 | 1,877 |
| 貸付額 | 1,696,858 | 79,500 | 0 | 110,000 | 657,716 | 0 | 0 | 0 |
| 交付額 | 52,752 | 6,261 | 0 | 76,824 | 3,717,172 | 0 | 0 | 0 |
| 基金残高 | 2,364,263 | 4,355,912 | 6,109,645 | 6,219,842 | 1,983,410 | 2,650,370 | 2,653,611 | 2,655,488 |

(注) 第5期交付額には、法改正による取崩に伴う国・県への返納金を含む。(平成24年度)

[県高齢者生き生き推進課調べ]

【施策の方向】

- 各市町村における介護保険財政が安定的に維持されるよう、県介護保険財政安定化基金を適切に管理し、財政収支に不均衡が生じた市町村に対する必要な資金の貸付・交付事業を実施します。

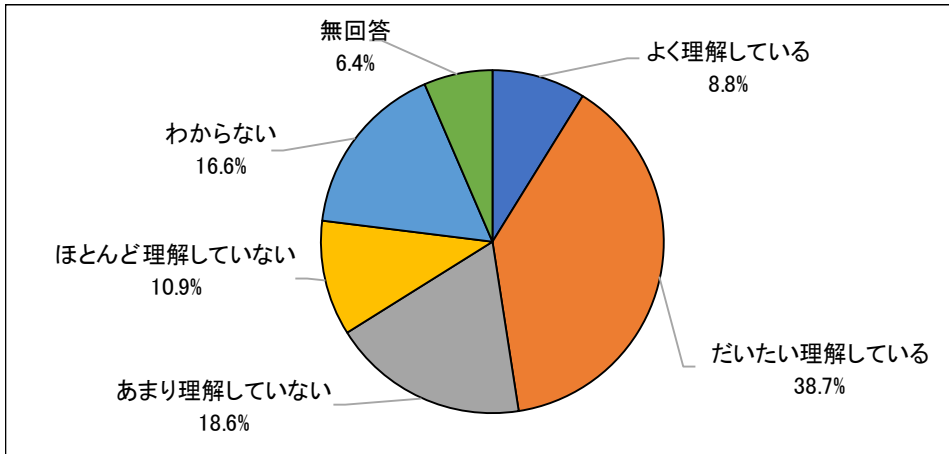
5 介護保険制度に対する理解の促進

【現状・課題】

- 介護保険制度は、介護が必要な人や家族の負担を社会全体で支え、介護が必要となっても住み慣れた地域で、できる限り自立した生活を送るために創設された制度です。これまでも市町村等と連携して、介護保険制度の趣旨や仕組み、介護サービス事業者に関する情報などについて広報活動を実施しています。

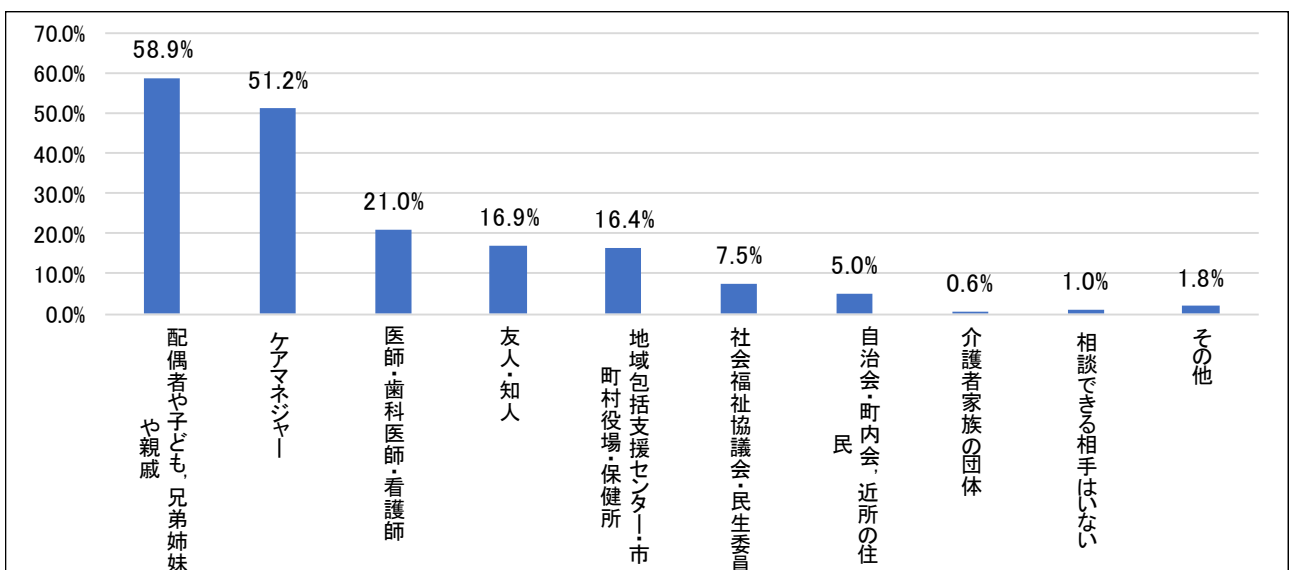
- 介護保険料の仕組みについての一般高齢者、在宅要介護（要支援）者の理解度は、「あまり理解していない」「ほとんど理解していない」「わからない」と回答している方が約半数程度いることから、制度の円滑な運営に向けた周知が必要となっています。
- 介護に関する相談先について、高齢者等実態調査結果によると、「地域包括支援センター等」が約16%に留まっている状況であることから、適切な介護サービス等の利用促進を図るため、相談窓口の周知が重要となっています。

【図表 5-2-5】 介護保険料の仕組みについての理解度



[高齢者等実態調査（一般高齢者・在宅要介護（要支援）者）]

【図表 5-2-6】 介護についての相談相手（複数回答）



[高齢者等実態調査]

【施策の方向】

- 利用者が真に必要な過不足のないサービスを受けられるように、介護に関する情報の提供や相談への対応を市町村等と連携して行うとともに、介護保険制度の趣旨や給付と負担の仕組み等について積極的に広報活動を行い、介護保険制度の円滑な運営につなげられるよう努めます。

第3節 多様な介護サービスの提供

1 介護サービス事業所の指定状況

【現状・課題】

- 介護サービス事業所の県の指定状況は、平成12年の制度開始当初は1,878事業所でしたが、利用者数の増加等に伴うサービス事業者の増加や、市町村への指定権限の移譲などを経て、令和5年4月1日現在では、2,675事業所（対平成12年度比約142.4%）となっています。
- 高齢単身世帯，高齢者夫婦のみ世帯及び認知症高齢者の増加や，医療・介護双方のニーズを有する高齢者の増加など高齢者を取り巻く状況の変化に伴い，介護サービスに対するニーズは多様化しています。
- 介護サービス基盤については，県介護保険事業支援計画に基づき，地域の実情に応じた整備を進めています。

■ 各論 第5章 第3節 ■

【図表5-3-1】介護サービス事業所の指定状況（各年度4月1日現在）

| サービスの種類 | H12年度(A) | H18年度 | R5年度(B) | | | 増減 (B-A) | R5年度(みなし指定) | | | 対H12比 (B/A) |
|-----------------|--------------|-------|--------------|-----------|---------------|-------------|--------------|-------|--------|----------------|
| | | | 県分鹿児島 市除く | 鹿児島市 分 | 計 | | 県分鹿児島市除 く | 鹿児島市分 | 計 | |
| 居宅 | | | | | | | | | | |
| 訪問介護 | 262 | 415 | 291 | 158 | 449 | 187 | | | | 171.4% |
| 訪問入浴介護 | 78 | 87 | 25 | 10 | 35 | △43 | | | | 44.9% |
| 訪問看護 | 125 | 116 | 117 | 96 | 213 | 88 | 859 | 677 | 1,536 | 170.4% |
| 訪問リハビリテーション | | 6 | 29 | 11 | 40 | 40 | 825 | 665 | 1,490 | 皆増 |
| 居宅療養管理指導 | | 4 | 10 | 5 | 15 | 15 | 1,665 | 1,228 | 2,893 | 皆増 |
| 通所介護 | 160 | 283 | 231 | 102 | 333 | 173 | | | | 208.1% |
| 通所リハビリテーション | 191 | 204 | 5 | 6 | 11 | △180 | 234 | 115 | 349 | 5.8% |
| 短期入所生活介護 | 123 | 141 | 150 | 50 | 200 | 77 | | | | 162.6% |
| 短期入所療養介護 | 10 | 11 | 6 | 3 | 9 | △1 | 81 | 26 | 107 | 90.0% |
| 特定施設入居者生活介護 | 2 | 19 | 42 | 16 | 58 | 56 | | | | 2900.0% |
| 福祉用具貸与 | 57 | 162 | 70 | 49 | 119 | 62 | | | | 208.8% |
| 特定福祉用具販売 | | 77 | 70 | 48 | 118 | 118 | | | | 皆増 |
| 小計① | 1,008 | 1,525 | 1,046 | 554 | 1,600 | 592 | 3,664 | 2,711 | 6,375 | 158.7% |
| 施設 | | | | | | | | | | |
| 介護老人福祉施設 | 122 (7,281床) | 137 | 122 | 47 | 169 (10,244床) | 47 | | | | 138.5% |
| 介護老人保健施設 | 66 (5,043床) | 74 | 68 | 20 | 88 (6,381床) | 22 | | | | 133.3% |
| 介護療養型医療施設 | 213 (3,181床) | 143 | 6 | 0 | 6 (157床) | △207 | | | | 2.8% |
| 介護医療院 | | | 22 | 7 | 29 (1,186床) | 29 | | | | 皆増 |
| 小計② | 401 | 354 | 218 | 74 | 292 | △109 | | | | 72.8% |
| 小計③(①+②) | 1,409 | 1,879 | 1,264 | 628 | 1,892 | 483 | 3,664 | 2,711 | 6,375 | 134.3% |
| 介護予防サービス | | | | | | | | | | |
| 介護予防訪問介護 | | 347 | 0 | 0 | 0 | △347 | | | | - |
| 介護予防訪問入浴介護 | | 64 | 17 | 10 | 27 | △37 | | | | - |
| 介護予防訪問看護 | | 14 | 114 | 94 | 208 | 194 | 861 | 676 | 1,537 | - |
| 介護予防訪問リハビリテーション | | 2 | 29 | 9 | 38 | 36 | 825 | 664 | 1,489 | - |
| 介護予防居宅療養管理指導 | | 2 | 9 | 5 | 14 | 12 | 1,666 | 1,225 | 2,891 | - |
| 介護予防通所介護 | | 222 | 0 | 0 | 0 | △222 | | | | - |
| 介護予防通所リハビリテーション | | 166 | 6 | 6 | 12 | △154 | 232 | 115 | 347 | - |
| 介護予防短期入所生活介護 | | 122 | 142 | 46 | 188 | 66 | | | | - |
| 介護予防短期入所療養介護 | | 4 | 5 | 2 | 7 | 3 | 80 | 26 | 106 | - |
| 介護予防特定施設入居者生活介護 | | 17 | 38 | 14 | 52 | 35 | | | | - |
| 介護予防福祉用具貸与 | | 102 | 70 | 49 | 119 | 17 | | | | - |
| 特定介護予防福祉用具販売 | | 77 | 70 | 48 | 118 | 41 | | | | - |
| 小計④ | | 1,139 | 500 | 283 | 783 | △356 | 3,664 | 2,706 | 6,370 | - |
| 合計(③+④) | 1,409 | 3,018 | 1,764 | 911 | 2,675 | - | 7,328 | 5,417 | 12,745 | 189.9% |

市町村指定

| サービスの種類 | H12年度 | H18年度(E) | R5年度(F) | | | 増減 (F-E) | 対H12比 (F/E) |
|------------------------|-----------|----------|--------------------|-----------|--------------|-------------|----------------|
| | | | 鹿児島市 以外の市 町村 | 鹿児島市 分 | 計 | | |
| 認知症対応型通所介護 | | 37 | 39 | 22 | 61 | 24 | 164.9% |
| 小規模多機能型居宅介護 | | 1 | 97 | 29 | 126 | 125 | 12600.0% |
| 認知症対応型共同生活介護(グループホーム) | 29 (300床) | 288 | 263 | 129 | 392 (5,930床) | 104 | 136.1% |
| 地域密着型特定施設入居者生活介護 | | 1 | 12 | 3 | 15 | 14 | 1500.0% |
| 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 | | 0 | 38 | 7 | 45 (1,095床) | 45 | 皆増 |
| 夜間対応型訪問介護 | | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 皆増 |
| 定期巡回・随時対応型訪問介護看護(H24~) | | | 8 | 13 | 21 | - | 皆増 |
| 看護小規模多機能型居宅介護(H24~) | | | 13 | 11 | 24 | - | 皆増 |
| 地域密着型通所介護(H28~) | | | 198 | 188 | 386 | - | 皆増 |
| 小計⑤ | 29 | 327 | 668 | 403 | 1,071 | - | 327.5% |
| 居宅介護支援事業⑥ | 469 | 577 | 427 | 179 | 606 | 29 | 105.0% |
| 総合事業 | | | | | | | |
| 訪問型サービス(独自) | | | 258 | 134 | 392 | - | - |
| 訪問型サービス(独自・定率) | | | 53 | 50 | 103 | - | - |
| 訪問型サービス(独自・定額) | | | 6 | 0 | 6 | - | - |
| 通所型サービス(独自) | | | 379 | 254 | 633 | - | - |
| 通所型サービス(独自・定率) | | | 70 | 53 | 123 | - | - |
| 通所型サービス(独自・定額) | | | 18 | 0 | 18 | - | - |
| 介護予防ケアマネジメント | | | 43 | 17 | 60 | - | - |
| 小計⑦ | | | 827 | 508 | 1,335 | - | - |
| 合計(⑤+⑥+⑦) | 498 | 904 | 1,922 | 1,090 | 3,012 | - | 333.2% |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

【図表5-3-2】介護保険施設の整備（定員数）状況（累計数）

| 区分 | H11年度 | 第7期 | | 第8期 | |
|-----------|--------|--------|--------|--------|---------|
| | | R2年度末 | R3年度末 | R4年度末 | R5年度末見込 |
| 介護保険施設 計 | 15,505 | 18,823 | 18,933 | 19,063 | 19,028 |
| 介護老人福祉施設 | 7,281 | 11,134 | 11,284 | 11,339 | 11,389 |
| 介護老人保健施設 | 5,043 | 6,381 | 6,381 | 6,381 | 6,379 |
| 介護療養型医療施設 | 3,181 | 243 | 164 | 157 | 14 |
| 介護医療院 | — | 1,065 | 1,104 | 1,186 | 1,246 |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

【施策の方向】

- 高齢者の実態やニーズの的確な把握を行うとともに、市町村の介護保険事業計画や地域の実情を踏まえ、高齢者ができる限り住み慣れた自宅や地域で安心して自立した生活が送れるよう在宅サービスの充実を図り、自宅等での生活が困難となった要介護者に対しては、施設系・居住系サービスを整備するなど、効果的な基盤整備を進めます。
- 今後の介護サービス基盤の整備に当たっては、中長期的な地域の人口構造の変化等を踏まえた介護ニーズの見通し等について、介護サービス事業者を含め、介護サービス基盤整備のあり方を議論し、地域の実情に応じて介護サービス基盤を計画的に確保していくよう、市町村に対して助言を行うなど支援を推進します。
- 事業所の指定に当たっては、市町村と連携を図りながら、指定基準に基づく適切かつ厳格な指定事務を実施します。

2 介護サービスの利用状況

【現状・課題】

- 本県の令和4年10月（1か月）のサービス利用者数は約9万2千人で、うち居宅サービスの利用者が約5万7千人、地域密着型サービスの利用者が約1万8千人、施設サービスの利用者が約1万7千人となっています。
- 第1号被保険者1人あたりの年間給付額は29万6千円と、全国平均を2万2千円上回っています。また、全国と比較して、施設サービスの給付費が高い状況となっています。
- 居宅及び地域密着型サービスの利用状況については、令和3年度において、最も利用が多いのは福祉用具貸与、次いで通所リハビリテーション、居宅療養管理指導などの順となっています。平成12年度と比較して、特定施設入居者生活介護、認知症対応型共同生活介護の伸び率が著しく高くなっています。
- 本県の第1号被保険者1人当たり給付月額については、通所リハビリテーション、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、認知症対応型共同生活介護、地域密着型特定施設入居者生活介護、介護医療院等等において、全国を大きく上回る状況となっています。

【図表5-3-3】 サービス区分別受給者数の推移

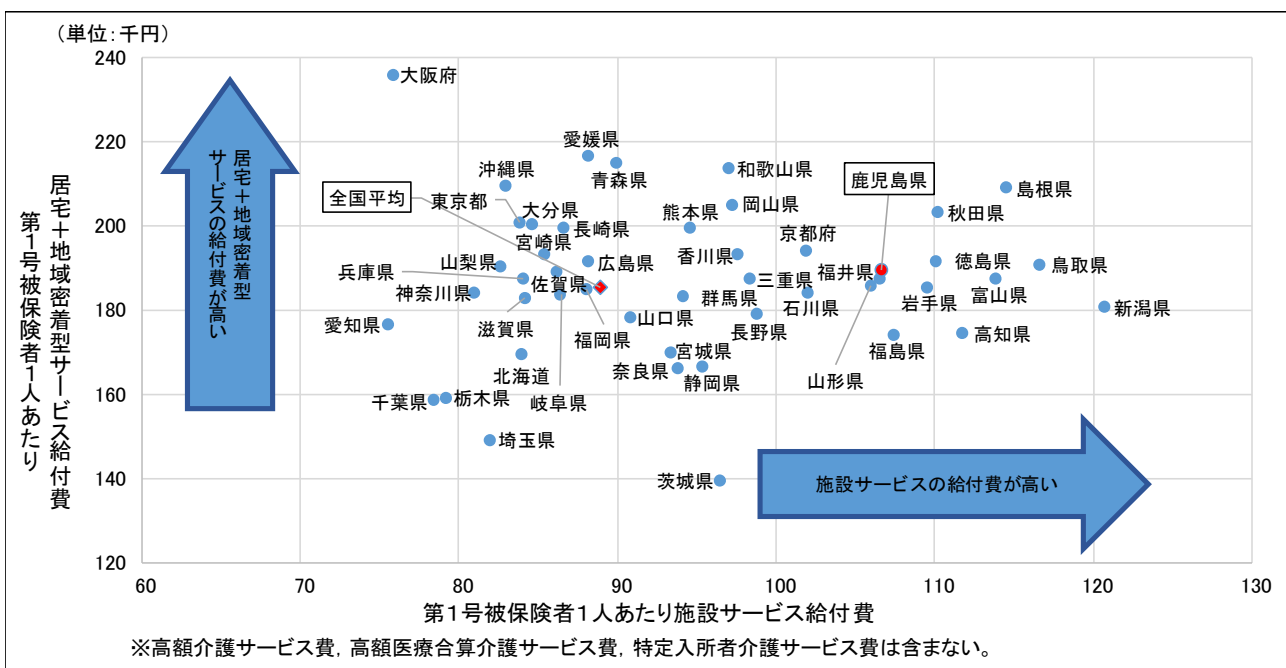
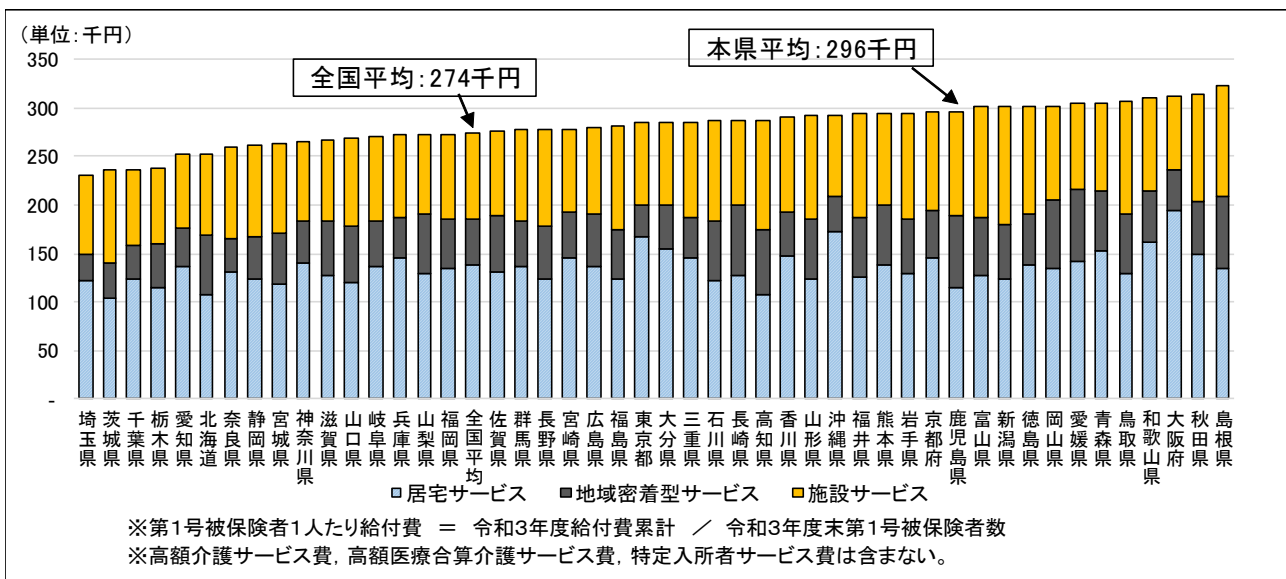
| 年度 | 受給者数計 | 居宅サービス受給者数 | | 地域密着型サービス受給者数 | | 施設サービス受給者数 | |
|-----------------|-----------|------------|-------|---------------|-------|------------|-------|
| | | 数 | 割合 | 数 | 割合 | 数 | 割合 |
| 平成12年度 | 50,356 | 35,823 | 71.1% | | | 14,533 | 28.9% |
| 平成27年度 | 84,636 | 57,922 | 68.4% | 10,245 | 12.1% | 16,469 | 19.5% |
| 平成30年度 | 89,300 | 55,022 | 61.6% | 17,674 | 19.8% | 16,604 | 18.6% |
| 令和3年度 | 90,912 | 56,219 | 61.8% | 17,828 | 19.6% | 16,865 | 18.6% |
| 令和4年度 | 92,232 | 57,464 | 62.3% | 18,118 | 19.6% | 16,650 | 18.1% |
| (参考)全国 令和4年度 | 6,032,648 | 4,167,834 | 69.1% | 908,253 | 15.1% | 956,561 | 15.9% |

(注) 1 各年度10月サービス分

2 平成28年4月に、小規模な通所介護事業所が地域密着型通所介護事業所に移行

[介護保険事業状況報告]

【図表5-3-4】 第1号被保険者1人あたり給付費



[令和3年度介護保険事業状況報告年報]

【図表5-3-5】居宅・地域密着型サービス種類別利用件数の推移 (単位：件/月)

| サービス種類 | 平成12年度 | 平成27年度 | 平成30年度 | 令和3年度 | 対H12年度比 (R3/H12) |
|--------------|--------|--------|--------|--------|---------------------|
| 訪問介護 | 12,089 | 17,732 | 11,393 | 11,809 | 97.7% |
| うち介護予防 | | 6,280 | 1 | 0 | - |
| 訪問入浴介護 | 972 | 509 | 426 | 437 | 45.0% |
| うち介護予防 | | 2 | 0 | 2 | - |
| 訪問看護 | 4,316 | 4,665 | 5,760 | 6,788 | 157.3% |
| うち介護予防 | | 550 | 744 | 906 | - |
| 訪問リハビリテーション | 377 | 1,928 | 2,464 | 2,999 | 795.5% |
| うち介護予防 | | 229 | 274 | 392 | - |
| 通所介護 | 12,361 | 25,640 | 13,351 | 13,043 | 105.5% |
| うち介護予防 | | 7,546 | 4 | 0 | - |
| 通所リハビリテーション | 16,493 | 15,948 | 16,356 | 17,589 | 106.6% |
| うち介護予防 | | 4,685 | 4,924 | 5,937 | - |
| 福祉用具貸与 | 2,789 | 25,978 | 30,293 | 34,173 | 1225.3% |
| うち介護予防 | | 5,854 | 7,070 | 8,318 | - |
| 短期入所サービス | 956 | 4,890 | 4,872 | 4,132 | 432.2% |
| うち介護予防 | | 154 | 194 | 114 | - |
| 居宅療養管理指導 | 3,746 | 7,498 | 11,920 | 15,781 | 421.3% |
| うち介護予防 | | 426 | 664 | 874 | - |
| 認知症対応型共同生活介護 | 295 | 5,591 | 5,738 | 5,714 | 1936.8% |
| うち介護予防 | | 17 | 30 | 24 | - |
| 特定施設入居者生活介護 | 66 | 1,636 | 1,735 | 1,864 | 2824.0% |
| うち介護予防 | | 165 | 180 | 154 | - |
| 福祉用具購入 | 499 | 677 | 668 | 712 | 142.7% |
| うち介護予防 | | 236 | 229 | 220 | - |
| 住宅改修 | 386 | 794 | 792 | 736 | 190.8% |
| うち介護予防 | | 337 | 337 | 310 | - |

(注) 各年3月～翌年2月サービス分(平成12年度は4月からの11ヶ月分) [介護保険事業状況報告]

【図表5-3-6】居宅・地域密着型サービス種類別費用額の推移 (単位：費用額/月, 千円)

| サービス種類 | 平成12年度 | 平成27年度 | 平成30年度 | 令和3年度 | 対H12年度比 (R3/H12) |
|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------------------|
| 訪問介護 | 497,672 | 717,941 | 611,229 | 665,028 | 133.6% |
| うち介護予防 | | 118,444 | 33 | 0 | - |
| 訪問入浴介護 | 51,356 | 34,341 | 30,060 | 31,000 | 60.4% |
| うち介護予防 | | 112 | 0 | 89 | - |
| 訪問看護 | 161,962 | 186,151 | 228,091 | 268,647 | 165.9% |
| うち介護予防 | | 16,809 | 22,031 | 26,169 | - |
| 訪問リハビリテーション | 8,473 | 74,223 | 96,658 | 115,773 | 1366.4% |
| うち介護予防 | | 8,156 | 9,434 | 13,981 | - |
| 通所介護 | 418,231 | 1,887,703 | 1,238,264 | 1,296,208 | 309.9% |
| うち介護予防 | | 218,726 | 81 | 0 | - |
| 通所リハビリテーション | 1,024,164 | 1,136,740 | 1,118,286 | 1,142,903 | 111.6% |
| うち介護予防 | | 160,220 | 175,204 | 216,056 | - |
| 福祉用具貸与 | 32,694 | 328,686 | 383,282 | 451,780 | 1381.8% |
| うち介護予防 | | 41,368 | 49,763 | 63,738 | - |
| 短期入所サービス | 101,412 | 445,620 | 434,249 | 412,445 | 406.7% |
| うち介護予防 | | 5,783 | 7,241 | 4,958 | - |
| 居宅療養管理指導 | 29,873 | 57,873 | 86,874 | 112,535 | 376.7% |
| うち介護予防 | | 3,394 | 4,992 | 6,443 | - |
| 認知症対応型共同生活介護 | 67,357 | 1,470,958 | 1,544,857 | 1,588,914 | 2358.9% |
| うち介護予防 | | 3,915 | 7,168 | 5,980 | - |
| 特定施設入居者生活介護 | 14,260 | 300,619 | 332,676 | 374,074 | 2623.2% |
| うち介護予防 | | 12,942 | 14,832 | 13,046 | - |
| 福祉用具購入 | 11,176 | 18,191 | 17,947 | 19,637 | 175.7% |
| うち介護予防 | | 5,910 | 5,819 | 5,656 | - |
| 住宅改修 | 35,726 | 61,574 | 59,215 | 51,090 | 143.0% |
| うち介護予防 | | 26,188 | 25,459 | 21,939 | - |

(注) 各年3月～翌年2月サービス分(平成12年度は4月からの11ヶ月分) [介護保険事業状況報告]

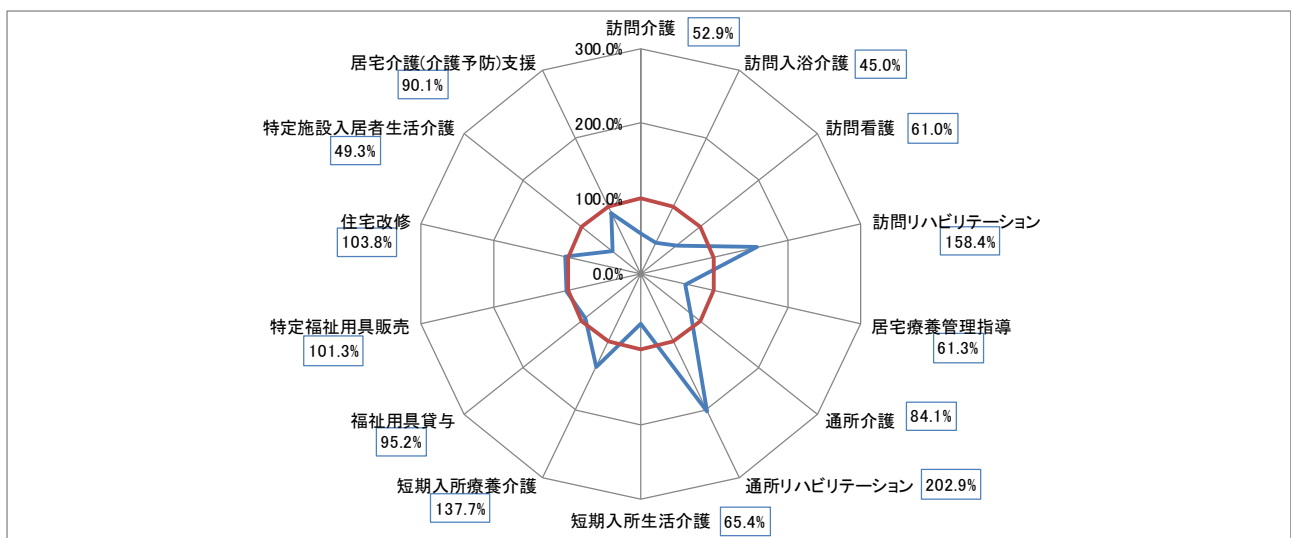
【図表5-3-7】サービス種類別第1号被保険者1人当たり給付月額（介護給付と予防給付の合計）
（全国を100%とした場合の本県の割合）（単位：円）

| | サービス種類 | 県 | 全国 | 本県の割合 |
|-------|------------------|--------|--------|--------|
| 居宅 | 訪問介護 | 1,136 | 2,146 | 52.9% |
| | 訪問入浴介護 | 53 | 117 | 45.3% |
| | 訪問看護 | 457 | 750 | 60.9% |
| | 訪問リハビリテーション | 197 | 124 | 158.9% |
| | 居宅療養管理指導 | 192 | 313 | 61.3% |
| | 通所介護 | 2,218 | 2,637 | 84.1% |
| | 通所リハビリテーション | 1,955 | 964 | 202.8% |
| | 短期入所生活介護 | 573 | 876 | 65.4% |
| | 短期入所療養介護 | 132 | 96 | 137.5% |
| | 福祉用具貸与 | 772 | 811 | 95.2% |
| | 特定福祉用具販売 | 33 | 33 | 100.0% |
| | 住宅改修 | 87 | 84 | 103.6% |
| | 特定施設入居者生活介護 | 634 | 1,285 | 49.3% |
| | 居宅介護(介護予防)支援 | 1,152 | 1,279 | 90.1% |
| 小計 | 9,591 | 11,515 | 83.3% | |
| 地域密着型 | 地域密着型介護老人福祉施設 | 571 | 494 | 115.6% |
| | 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 | 272 | 145 | 187.6% |
| | 夜間対応型訪問介護 | 0 | 7 | 0.0% |
| | 認知症対応型通所介護 | 154 | 166 | 92.8% |
| | 小規模多機能型居宅介護 | 869 | 591 | 147.0% |
| | 認知症対応型共同生活介護 | 2,725 | 1,518 | 179.5% |
| | 地域密着型特定施設入居者生活介護 | 139 | 45 | 308.9% |
| | 看護小規模多機能型居宅介護 | 167 | 118 | 141.5% |
| | 地域密着型通所介護 | 1,299 | 845 | 153.7% |
| 小計 | 6,196 | 3,930 | 157.7% | |
| 施設 | 介護老人福祉施設 | 4,812 | 4,146 | 116.1% |
| | 介護老人保健施設 | 3,286 | 2,776 | 118.4% |
| | 介護医療院 | 681 | 377 | 180.6% |
| | 介護療養型医療施設 | 107 | 117 | 91.5% |
| 小計 | 8,886 | 7,416 | 119.8% | |
| 計 | 24,673 | 22,861 | 107.9% | |

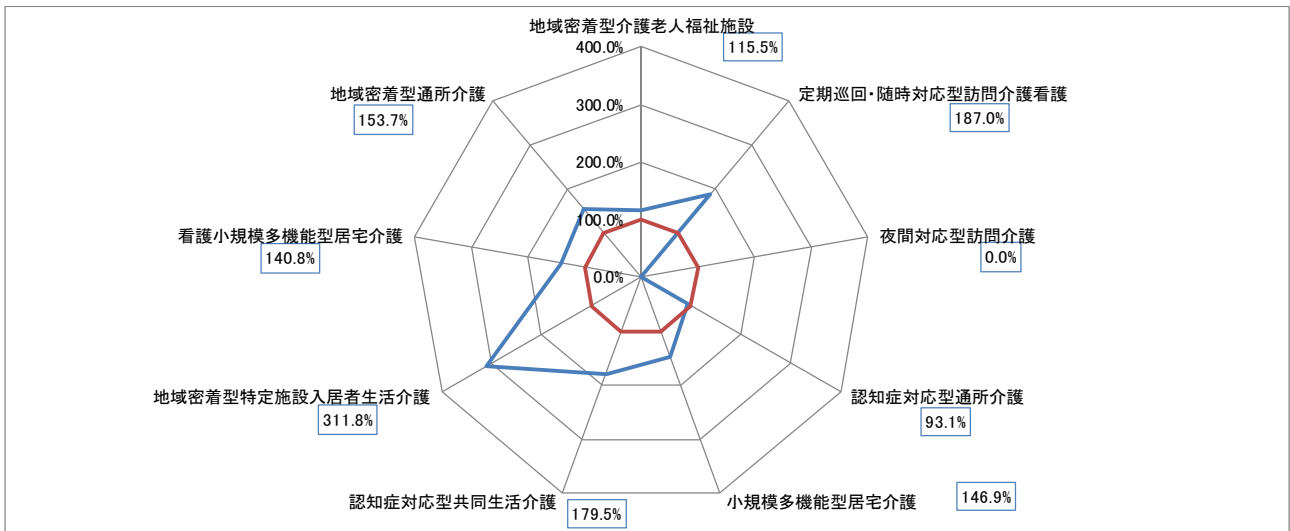
(注) 令和2年3月～令和3年2月サービス分（令和3年度年報） [介護保険事業状況報告]

【図表5-3-8】サービス種類別第1号被保険者1人当たり支給費（介護給付と予防給付の合計）
（全国を100%とした場合の本県の割合）

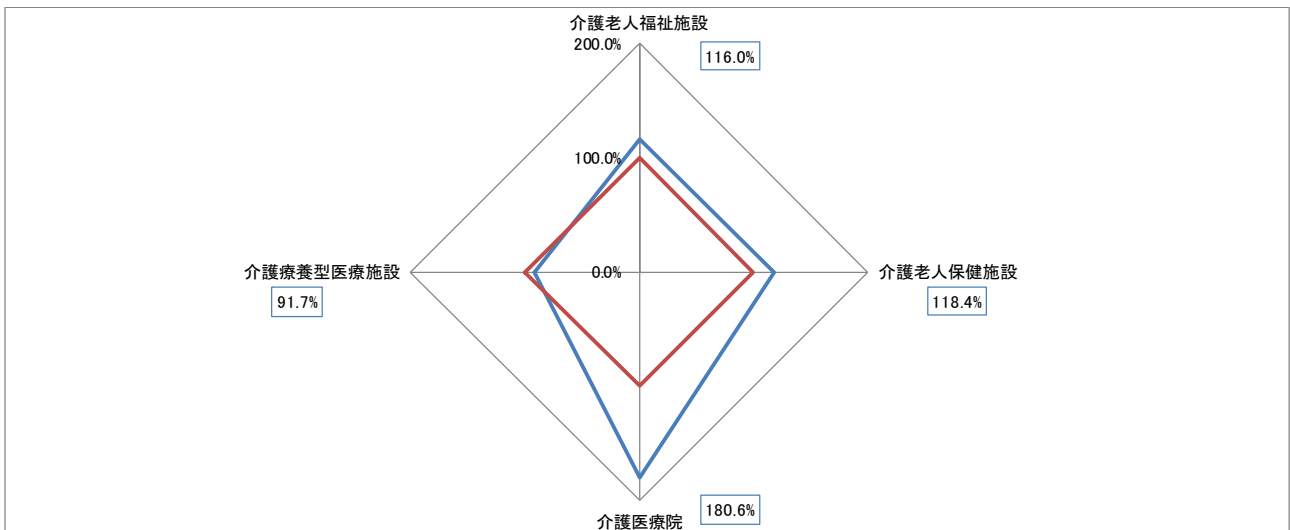
(居宅サービス)



(地域密着型サービス)



(施設サービス)



(注) 令和2年3月～令和3年2月サービス分 (令和3年度年報)

[介護保険事業状況報告]

3 介護予防・日常生活支援総合事業

【現状・課題】

- 平成26年の介護保険法改正から一定期間が経過していることから、総合事業については、従前相当サービスやそれ以外のサービスの内容、効果について検証し、担い手確保や前回見直した内容の適切な推進も含め、第9期介護保険事業計画期間中に集中的に取り組むことが重要とされています。また、地域共生社会の実現という観点からも、総合事業の多様なサービス等において地域住民の主体的な参画を促進していくことが必要です。
- 令和5年4月現在の指定状況は、第一号訪問事業が501事業所、第一号通所事業が774事業所となっています。

【施策の方向】

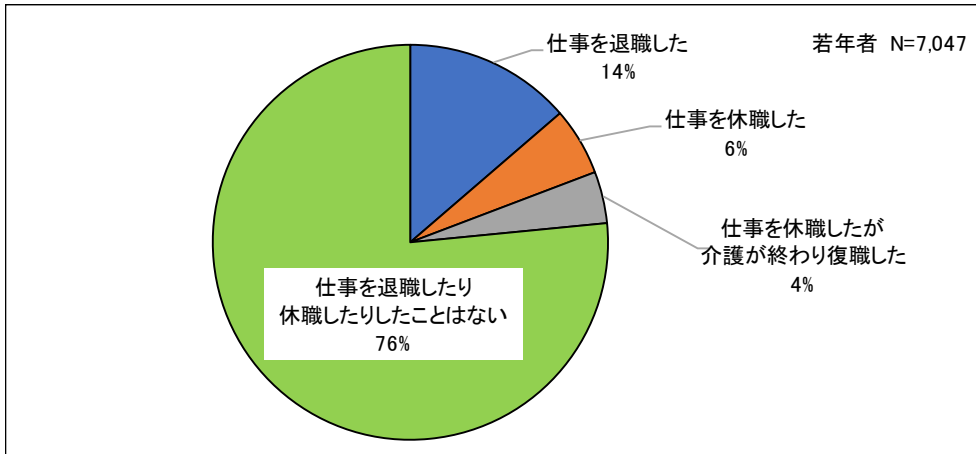
- 地域の実情に応じた介護予防・日常生活支援総合事業の充実化に向けて、研修会の開催や好事例の情報提供、広域的調整、職能団体等との調整、体制整備に対する助言等を行い、市町村における多様な担い手による多様なサービス提供基盤整備の取組を支援することにより、総合事業の推進を図ります。

4 中重度者等の在宅生活を支える複合的在宅サービス等の基盤と家族介護者支援

【現状・課題】

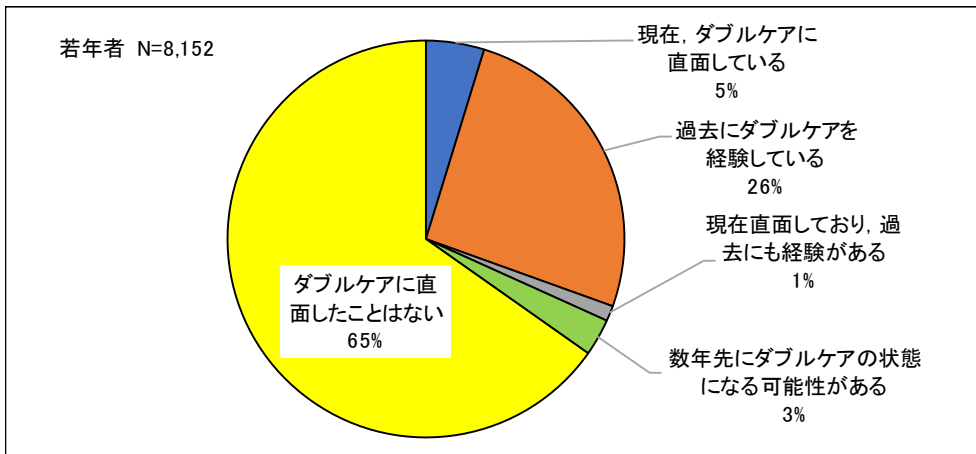
- 単身又は夫婦のみの高齢者世帯及び認知症の人の増加、働きながら要介護者等を在宅で介護している家族等の就労継続や負担軽減に資すると考えられている中重度者等の在宅生活を支える定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護及び看護小規模多機能型居宅介護(複合型サービス)等については、サービス基盤が整備されていない地域があるなど、指定及び利用状況が低調となっています。
- 高齢者と障害児者が同一の事業所で介護保険と障害福祉両方のサービスを受けられる共生型サービスの活用を促すなど、65歳に到達した障害のある被保険者の円滑な介護サービス利用に配慮する必要があります。
- 高齢者等実態調査結果によると、介護による退職・休職を経験した人が20%、介護と子育てを同時に担う「ダブルケア」の経験をした人が32%となっており、家族介護者を取り巻く社会環境も大きく変化してきていることから、高齢者本人の支援とともに、「家族介護者の生活・人生の質の向上」の視点も含めた支援や取組が求められています。
- 祖父母や親の介護を担う子ども、いわゆる「ヤングケアラー」の教育・就労問題などを抱えている世帯や自ら支援につながるのが難しい世帯等、地域の家族介護者が抱える生活課題は多様化しており、多機関の関わり・支援が必要となっています。

【図表5-3-9】介護による退職等やダブルケアの経験の有無
(介護による退職・休職経験)



[高齢者等実態調査]

(ダブルケアの経験)



[高齢者等実態調査]

【施策の方向】

- 介護離職ゼロの実現に向け、働きながら要介護者等を在宅で介護している家族等の就労継続の支援や負担軽減を図るため、引き続き市町村と連携して定期巡回・随時対応型訪問介護看護、看護小規模多機能型居宅介護等のサービス基盤について、県民や事業者への周知等による理解促進など普及・定着を図るとともに、地域医療介護総合確保基金を活用して整備を支援します。
また、これらのサービスの市町村が行う広域利用の調整を支援します。
- 高齢者の状態に応じた支援や介護技術のさらなる向上を図るとともに、共生型サービスの適切な運用による障害のある高齢者等の円滑なサービス移行等や、地域共生社会の実現に向け、地域包括ケアシステムの深化・推進により、障害のある高齢者など生活上の困難を抱える方への包括的支援体制の推進を図ります。
- 多様な介護問題を抱えている家族介護者に対し必要な支援を行うため、市町村や地域包括支援センターにおいて、介護支援専門員や民生委員等からの気づきの情報を早期に把握し、子育て・障害福祉・学校教育等の関係部署や関係機関、専門職等との連携による相談支援体制の充実が図られるよう、市町村への情報提供や助言等に努めます。
また、家族の介護問題で、自ら支援につながる事が難しいヤングケアラーといった若い世代や、教育機関をはじめとする関係機関に対しても、相談窓口等に係る周知を図ります。

5 離島等におけるサービス確保

【現状・課題】

- 介護サービスの確保が困難な離島や中山間等の過疎地域においては、採算性等の関係から介護サービスを提供する民間事業所の参入が難しい状況となっています。
- 既に、民間事業所が参入している地域でも、提供できる介護サービスの種類が少ないために、地域の住民のニーズに合った介護サービスの確保が難しい現状があります。
- 住民の中には、要介護状態となった場合に住み慣れた地域を離れ、介護サービス基盤が整備された地域に移り住んでいるケースも見られます。

【施策の方向】

- 介護サービスの確保が現状では困難となっている離島や中山間等の過疎地域においても、対象地域における現状分析や介護保険の理解を深めるための住民向けの説明会等の開催支援を行うことで介護予防事業等との連携による対応を推進するとともに、市町村等と連携を図りながら、地域の特性を踏まえた介護サービスが確保されるよう支援していきます。
- 民間事業所の参入が促進されるよう、財政支援の仕組みについて、県開発促進協議会等を通じて引き続き国に要望していきます。

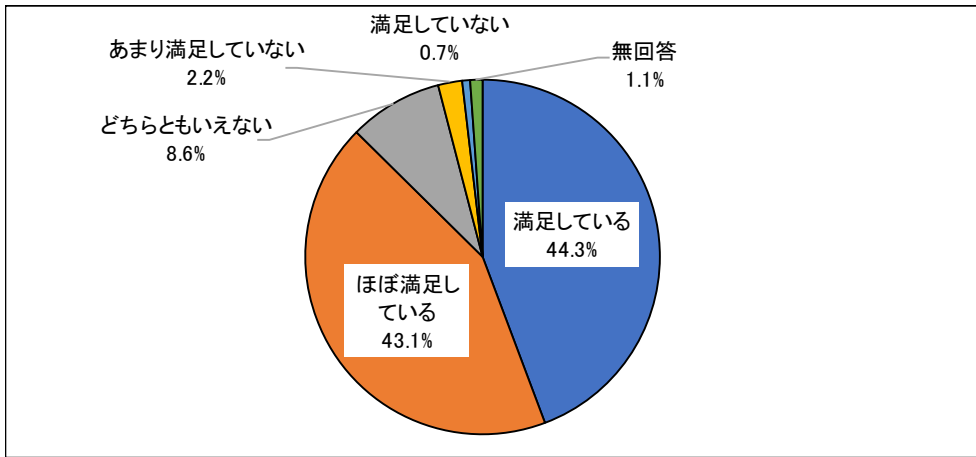
6 利用者及び介護者の満足度

【現状・課題】

- 介護保険サービスの利用者の満足度については、「満足している」と「ほぼ満足している」と回答した人が合わせて87.4%となっています。
満足している点としては、「事業所や施設の職員の対応が良い」(57.9%)、「介護者(家族など)の心身の負担が軽くなった」(40.6%)、「在宅で自立して生活できるように手助けしてくれる」(32.8%)、「人と会ったり外出したりする機会が増えた」(32.0%)、「自分のことは自分でできるよう手助けしてくれる」(30.1%)などとなっています。
- 不満を感じている点としては、「経済的負担が大きい」(8.6%)、「利用したいサービスがあるが十分受けられない」(5.9%)、「サービス内容やケアプランがよくわからない」(5.6%)、「使いたいサービスがない」(4.1%)、「サービス利用の際の手続きが面倒である」(4.1%)などとなっています。
- 介護者の満足度については、「満足している」と「ほぼ満足している」と回答した人が合わせて56.6%となっています(無回答が27.9%)。
満足している点としては、割合の高い順に、「心身の負担が軽減された」(61.2%)、「自由に使える時間を持てるようになった」(31.1%)、「心の余裕が生まれたり、気持ちが明るくなった」(26.1%)などとなっています。
- 不満を感じている点としては、「まだ利用したいサービスがあるが、サービスが十分受けられない」(17.2%)、「経済的負担が大きくなっている」(16.9%)、「回数や時間が希望するものと異なる」(14.7%)、「本人の心身の状態の維持・軽度化につながっていない」(11.3%)などとなっています。

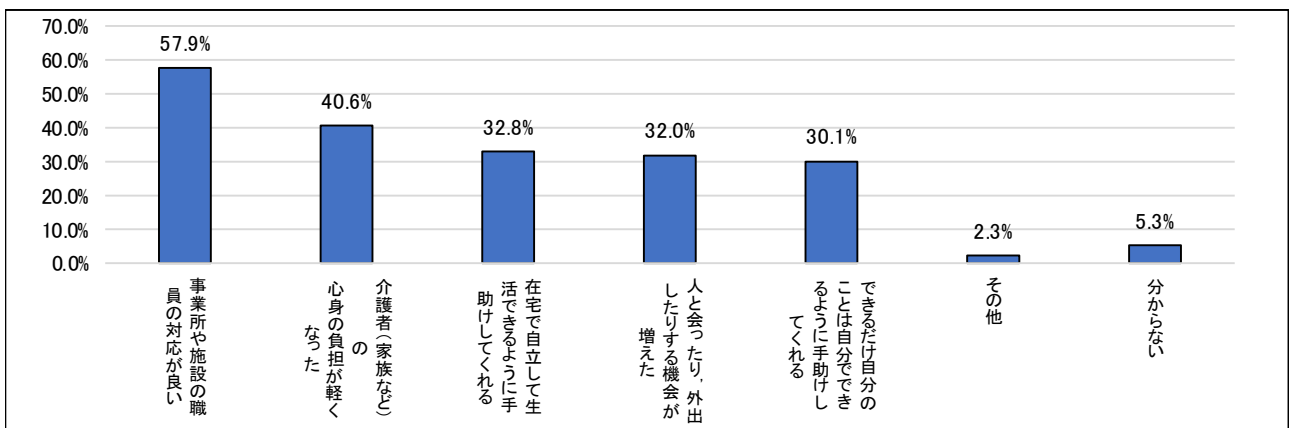
○ 利用者の約6割は「特に不満はない」としているものの、利用者や介護者の中には、サービスの内容や相談先に関する情報の不足、経済的負担の増大について不安を感じている人もいることから、各市町村の介護保険担当窓口や地域包括支援センターでの対応の充実を図りながら、必要な方が必要なサービスを利用できるよう、こうした情報の提供を行うとともに、低所得者に対する経済的負担の軽減のための制度の周知に努める必要があります。

【図表5-3-10】利用している介護保険サービスの満足度（利用者）



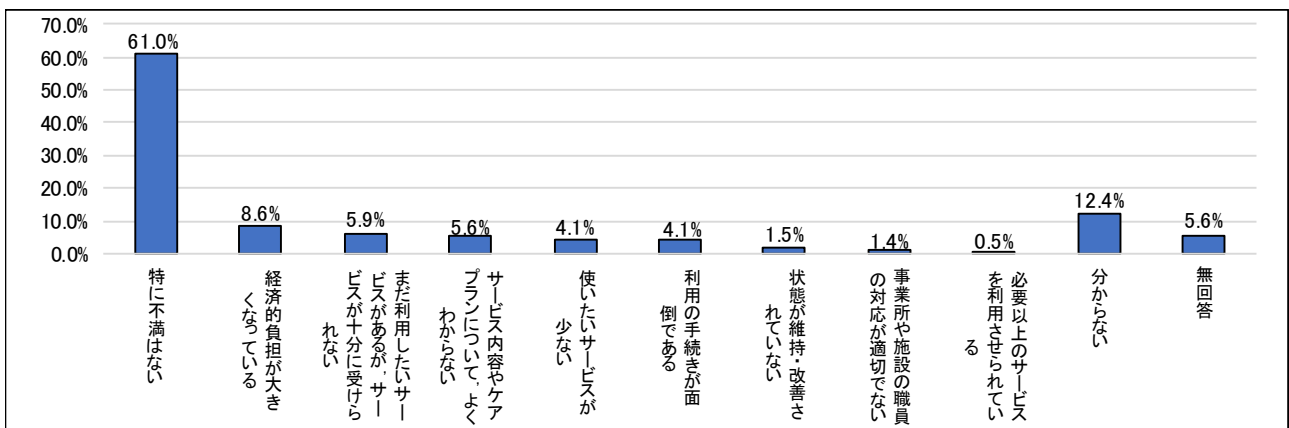
[高齢者等実態調査]

【図表5-3-11】利用している介護保険サービスで満足な点（利用者）（複数回答）



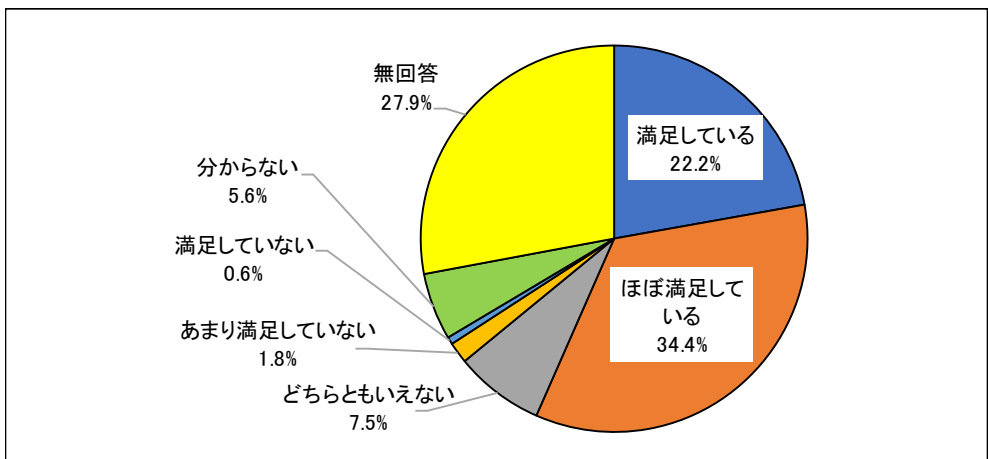
[高齢者等実態調査]

【図表5-3-12】利用している介護保険サービスで不満な点（利用者）（複数回答）



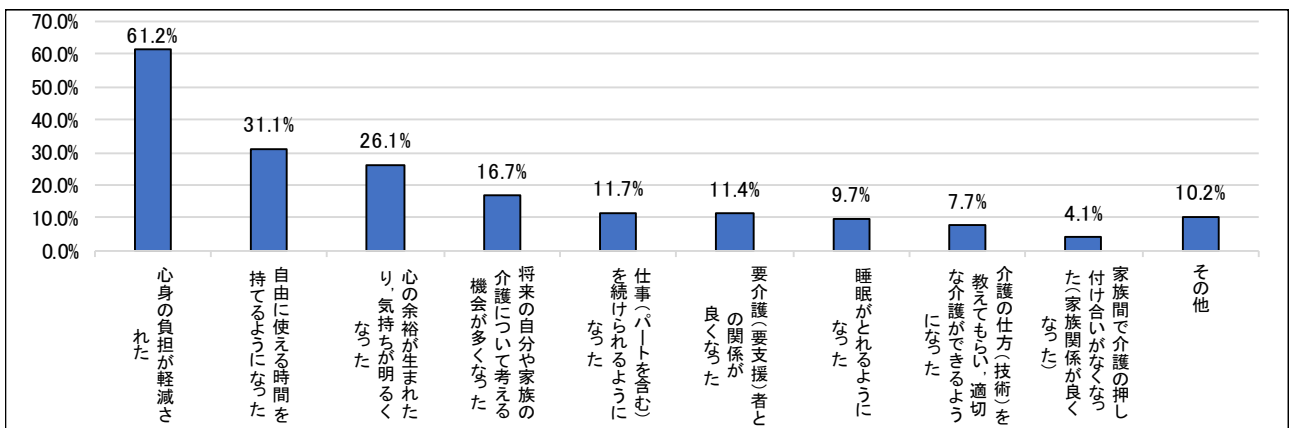
[高齢者等実態調査]

【図表5-3-13】利用している介護保険サービスの満足度（介護者）



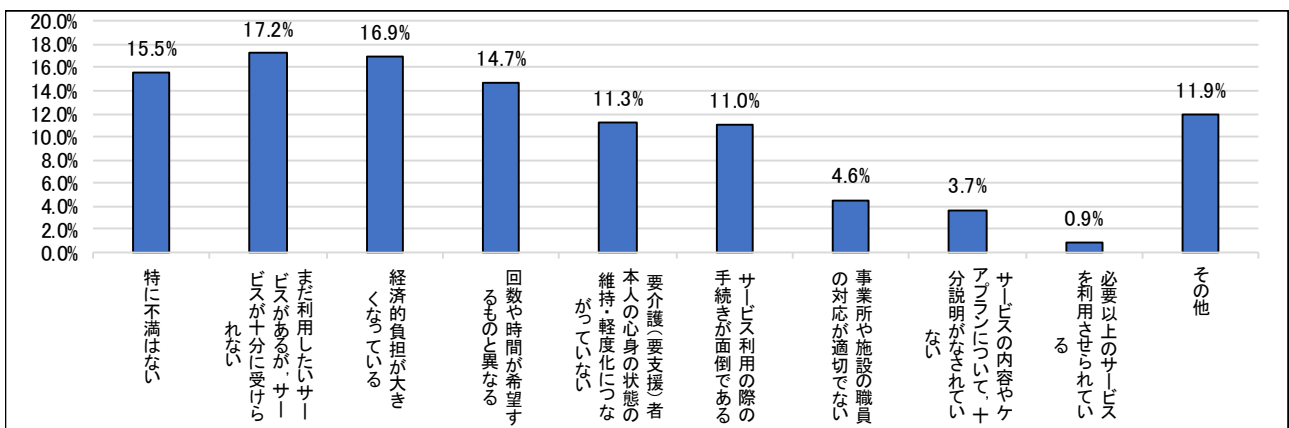
[高齢者等実態調査]

【図表5-3-14】利用している介護保険サービスで満足な点（介護者）（複数回答）



[高齢者等実態調査]

【図表5-3-15】利用している介護保険サービスで不満な点（介護者）（複数回答）



[高齢者等実態調査]

【施策の方向】

- 利用者が必要なサービスを利用できるよう、市町村等と連携して、サービスの内容や相談先に関する情報の提供を行います。
- 利用者の経済的負担の軽減を図るため、高額介護サービス費、高額医療合算介護サービス費及び特定入所者介護サービス費に関することや、社会福祉法人等による生計困難者等に対する利用

者負担軽減制度等について、市町村等と連携して、制度の理解・普及や活用の促進を図ります。

第4節 介護サービスの質の確保・向上

1 介護サービスの提供に係る質の向上

ア 介護サービス事業者

【現状・課題】

- 介護保険利用者の増加に伴い介護サービス事業者数が大幅に増加してきており、サービスの提供等に当たっては運営基準等を遵守するとともに、サービス従事者の知識・介護技術の向上など、質の確保・向上が重要な課題となっています。

【施策の方向】

- サービス事業者が利用者の意思を尊重し、利用者本位の適切なサービスを提供するよう指導するとともに、指定更新時に指定事業者の人員・設備基準の遵守状況を確認するなど適切かつ厳格な事業者指定に取り組みます。
- 法令遵守を徹底させるため、集団指導、運営指導及び業務管理体制確認検査等を効果的に実施します。
- 介護サービス従業者の資質向上を図る各種研修を実施します。
- 介護サービス事業者に対し、サービスの提供やサービス基盤の整備に際しては運営基準等の遵守を指導するとともに、サービス従事者の知識・介護技術の向上のため、事業者の自主的な取組を含め、研修等の機会の確保に努めます。
- 介護サービス事業者における、介護サービス情報の公表や第三者評価を活用した自己評価の実施など、質の向上に向けた取組を促進します。
- 事業所において、災害や感染症が発生した場合であっても、必要な介護サービスが継続的に提供できる体制の構築の促進に努めます。
- 介護現場の安全性の確保、リスクマネジメントの推進については、市町村から報告された事故情報の分析や活用を行うとともに、各市町村においても、事故情報の分析や活用が適切に行われるよう、必要な助言などの支援を行います。

イ 介護支援専門員（ケアマネジャー）

【現状・課題】

- 介護支援専門員は、公平・公正・中立な立場で、要介護者等からの相談に応じ、利用者や家族の希望や心身の状況を踏まえた介護サービス計画を作成するとともに、計画に沿って適切な介護サービスが利用できるよう介護サービス事業者等との連絡調整を行うことから、介護保険制度の適切かつ円滑な運営を推進する上で要となる職種であり、制度の理解や定着、在宅介護サービスの拡充などの点で、大きな役割を担っています。

■各論 第5章 第4節■

- 介護支援専門員がその役割を十分に果たせるよう、サービス需要の増加に応じた養成が求められるとともに、資質や専門性の向上、活動を支援するための取組が重要です。

【施策の方向】

- 介護支援専門員が、公平・公正・中立の立場で、利用者や家族の希望、利用者の心身の状況等に応じた適切な介護サービス計画を作成することができるよう、効果的な現任研修の実施に努めます。
また、現任研修を受講しやすいように、ICTを活用した効率的な研修の実施に努めます。
- 地域包括ケアシステムの中で、地域ケア個別会議の実施等により、医療職をはじめとする多職種と連携・協働しながら、自立支援に資するケアマネジメントを推進し、専門性や資質の向上を図ります。
- 介護支援専門員がその役割を十分に果たせるよう、各地域の介護支援専門員をサポートする指導者を養成するとともに、地域包括支援センターを主体とした連携体制の構築に努めます。

ウ 苦情・相談処理体制

【現状・課題】

- 介護保険制度の定着とともに、今後ますます介護ニーズが多様化する中で、利用者が安心してサービスを受けることができるよう、介護サービスの利用などに関する相談対応や苦情処理を円滑に行う体制の整備が重要です。
- 利用者等からの相談や苦情が迅速かつ適切に処理されるよう、県や市町村、県国民健康保険団体連合会、介護サービス事業者などの相互の連携による重層的な苦情・相談処理体制がとられています。

【施策の方向】

- 介護保険の保険者（市町村等）が行った保険給付等に関する処分に対する不服申立の審理・裁決を行う介護保険審査会を運営するとともに、被保険者からの苦情・相談に対応します。
- サービスに関する利用者等からの様々な苦情・相談については、迅速かつ適切に対応するため、県や市町村、県国民健康保険団体連合会、介護サービス事業者などの相互の連携により、苦情・相談処理体制の充実を図り、サービスの質の確保・向上に努めます。

エ 地域包括支援センター

【現状・課題】

- 地域包括支援センターは、地域住民の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援するため、市町村が実施する地域支援事業の包括的支援事業等を一体的に実施する役割を担う機関として設置されています。
- 県内に63か所が設置され（令和5年4月現在）、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員等の3職種のチームアプローチにより、介護予防ケアマネジメント業務、総合相談支援業務、権利擁護業務、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務などを行っています。

- 地域包括支援センターや市町村では、介護に取り組む家族等を支援するため、電話や窓口での相談対応のほか、介護者交流会や介護教室等の開催により、精神的負担軽減や介護に関する知識、技術習得への支援を行っていますが、今後も更に家族等からの相談の増加や内容の複雑化が想定されるところです。

また、介護離職防止の観点からも相談支援の強化が求められています。

【施策の方向】

- 地域包括支援センターが地域包括ケアシステムの中核的な役割を果たすために必要な機能強化が図られるよう、市町村への情報提供や助言等、必要な支援を行います。
- 夜間・早朝の窓口（連絡先）の設置など、介護に取り組む家族等に対する相談体制の充実のため、市町村への情報提供や助言等、必要な支援を行います。

オ 市町村、関係機関・団体等の取組

【現状・課題】

- 介護保険制度の円滑な運営を確保するため、平成29年度の介護保険制度改正において、データに基づく課題分析や、自立支援、介護予防・重度化防止に向けた取組と目標の設定等が制度化され、さらなる保険者機能の強化が図られたところです。市町村は、地域の実情に応じた取組やその達成状況の評価等により、効果的かつ効率的にサービスを提供できるよう保険者としてより主体性を発揮した制度運営を行っていくことが求められています。
- 関係機関・団体等は、利用者ニーズに即したサービスが効果的・効率的に提供されるよう、会員の資質向上など会員に対する情報提供等に努める必要があります。

【施策の方向】

- 市町村が地域の実情に応じ、主体性を発揮しながら介護保険制度を円滑に運営していけるよう、各種会議等を通じて情報提供を行っていくほか、技術的な助言を継続的に実施します。

2 介護サービス情報の公表制度の推進

【現状・課題】

- 利用者等が適切かつ円滑に介護サービス事業所を選ぶための情報をインターネットなどで入手することができるよう、「介護サービス情報の公表制度」が介護保険法に基づき平成18年度から導入されました。
- 介護サービス事業者は、提供するサービスの内容や運営状況に関する情報を県へ報告することが義務付けられ、県は、国が管理する公表システムを活用して、介護サービス事業所が報告した情報を公表しています。
- 平成27年11月からは、市町村が地域包括支援センター及び生活支援体制等サービスの情報について、公表するよう努めることとされました。
- 利用者の選択に資するという観点から、介護事業者の財務状況の公表が重要とされています。
- 情報公表制度は、介護サービスの質の向上、利用者の権利擁護等の観点から、サービス選択に

必要な情報を公表する制度であり、利用者等に活用される制度として定着させることが何より重要です。

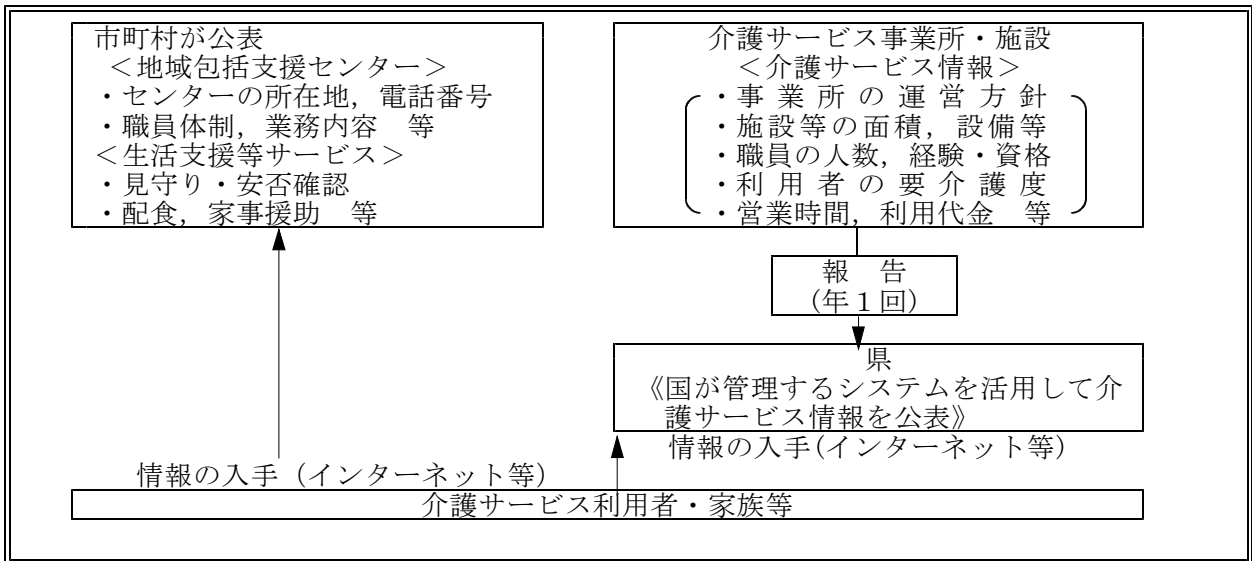
なお、本制度の令和4年度までの公表実績は次のとおりとなっています。

【図表5-4-1】介護サービス情報の公表状況

| 区 分 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|---------|---------|---------|---------|
| 対象サービス数 | 28サービス | 28サービス | 28サービス |
| 公表事業所数 | 3,771か所 | 3,767か所 | 3,788か所 |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

【図表5-4-2】介護サービス情報の公表制度の仕組み



[県高齢者生き生き推進課作成]

【施策の方向】

- 情報公表制度の積極的な活用が図られるよう、県のホームページ等を通じて、利用者等に対し、制度の普及啓発に努めます。
- 情報公表制度の円滑な実施に当たっては、介護サービス事業者の理解を得ながら、情報の正確性を保つ必要があることから、介護サービス事業者に対し、集団指導等を通じて、財務状況の公表の重要性を含めた制度の趣旨・目的等を周知します。
- 市町村が地域包括支援センターの業務や生活支援サービス内容を地域住民に幅広く周知する必要があることから、保険者指導を通じ情報公表制度の積極的活用を促します。

3 福祉サービス第三者評価事業等の推進

ア 福祉サービス第三者評価事業等

【現状・課題】

- 利用者本位の質の高い福祉サービスを提供するためには、事業者が自ら提供するサービスを点検し改善するとともに、当事者以外の第三者が客観的にそのサービスを評価し、その評価の内容について利用者がサービスを選択する際の情報として提供することが求められています。

- 県では、社会福祉施設等の提供する福祉サービスの質を、公正・中立な第三者評価機関が専門的かつ客観的な立場から評価する福祉サービス第三者評価事業を実施し、その推進機関として、評価機関の認証や評価調査者の研修、評価結果の公表等を行っています。
- 社会的養護施設（児童養護施設等）については、3年に1回の受審義務がありますが、その他の事業者は、第三者評価受審は任意であるため、受審事業者数は全国的に低調となっています。
- 第三者評価の目的や意義についての広報に努め、制度の普及を促進する必要があります。

【施策の方向】

- 評価機関及び評価調査者の質の向上に向けて、研修を実施するとともに、関係団体と連携し、制度の普及啓発や受審促進に向けた取組に努め、福祉サービスの質の向上に継続して取り組みます。
- 第三者評価制度を県内に定着させるため、受審済証の交付、各種団体への説明及び県ホームページによる広報など、制度の普及啓発と受審促進に向けた取組に努め、福祉サービスの質の向上を図ります。

イ 地域密着型サービスの外部評価

【現状・課題】

- 現在外部評価の対象となっている地域密着型サービスの認知症グループホームは、自らその提供するサービスの質の評価を行うとともに、定期的に外部の者による評価を受け、その結果を公表し、常にその改善を図る必要があります。
- 県は外部評価を推進する機関として、適正に外部評価が実施されるよう評価を実施する評価機関の選定や評価方法等の手続等を定めるとともに、県ホームページ等により制度の周知を図っています。

【施策の方向】

- 適正な外部評価を推進し、認知症グループホームのサービスの質の評価の客観性を高め、サービスの質の改善を促進します。
- 県ホームページ等による制度の周知のほか、認知症グループホームの指導監督を行う市町村と連携し、外部評価の適正な実施に努めます。

第5節 福祉用具・介護技術等の普及

【現状・課題】

- 高齢化の進行等に伴い、本県では更に高齢者の増加が予想されることや介護保険制度の見直しにより、今後、在宅介護を必要とする方が増加し、福祉用具の利用が増加することも見込まれる状況にあります。
- 介護職の身体的負担を軽減するため、新たな介護技術の普及や介護ロボットなどの導入が必要になっています。

【施策の方向】

- 県介護実習・普及センターにおいて、高齢者介護の実習等を通じて、県民への介護知識、介護技術の普及を図るとともに、福祉用具やバリアフリー住宅の展示・相談対応を行い、福祉用具等の普及を図ります。
- 介護する側とされる側、双方に安全で、身体的負担の少ない快適なケアを実現するため、ノーリフトケアなどの新たな介護技術の普及や、介護ロボットなどの技術の導入を促進します。

※ 県介護実習・普及センターの取組

県介護実習・普及センターは、かごしま県民交流センター内に設置されている県民の介護に関する知識や技術の習得を支援するための中核的な施設で、福祉用具等の展示・相談対応のほか、介護に関する情報収集・提供や、介護知識・技術の習得等のための各種講座・研修を実施しています。

○ 県介護実習・普及センターの施設構成と事業内容

| 施設構成 | 事業内容 | |
|---------|---------------|---|
| 福祉用具展示室 | 介護に関する情報収集・提供 | 介護関連の図書・DVD等の貸出、介護に関する相談対応 |
| | 介護知識・技術等の普及 | 県民向け講座、介護専門職向け研修、福祉体験教室（車いす体験、高齢者疑似体験等） |
| モデルハウス | 福祉用具等の普及 | 福祉用具・介護ロボット・バリアフリーモデルハウスの展示、福祉用具等に関する相談対応 |

第6節 介護サービスの種類と量の見込み等

1 市町村計画を踏まえたサービスの見込量等

【現状・課題】

○ サービスの種類

市町村の要介護認定によって、介護が必要とされた要介護（要支援）者には、介護の必要の程度に応じた介護サービスが提供されます。そのサービスには居宅要介護（要支援）者に対して提供される居宅介護サービス・介護予防サービス・地域密着型（介護・介護予防）サービス、介護保険施設入所者に対して提供される施設サービスがあります。

【図表5-6-1】サービス体系

| | 都道府県・政令市・中核市が指定・監督を行うサービス | 市町村が指定・監督を行うサービス |
|------|---|--|
| 介護給付 | <p>◎居宅介護サービス</p> <p>【訪問サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○訪問介護（ホームヘルプサービス） ○訪問入浴介護 ○訪問看護 ○訪問リハビリテーション ○居宅療養管理指導 ○特定施設入居者生活介護 ○福祉用具貸与 ○特定福祉用具販売 <p>【通所サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○通所介護（デイサービス） ○通所リハビリテーション <p>【短期入所サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○短期入所生活介護（ショートステイ） ○短期入所療養介護 <p>◎施設サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護老人福祉施設 ○介護老人保健施設 ○介護医療院 | <p>◎地域密着型介護サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定期巡回・随時対応型訪問介護看護 ○夜間対応型訪問介護 ○地域密着型通所介護 ○認知症対応型通所介護 ○小規模多機能型居宅介護 ○認知症対応型共同生活介護（グループホーム） ○地域密着型特定施設入居者生活介護 ○地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 ○複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護） <p>◎居宅介護支援</p> |
| 予防給付 | <p>◎介護予防サービス</p> <p>【訪問サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護予防訪問入浴介護 ○介護予防訪問看護 ○介護予防訪問リハビリテーション ○介護予防居宅療養管理指導 ○介護予防特定施設入居者生活介護 ○介護予防福祉用具貸与 ○特定介護予防福祉用具販売 <p>【通所サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護予防通所リハビリテーション <p>【短期入所サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護予防短期入所生活介護（ショートステイ） ○介護予防短期入所療養介護 | <p>◎地域密着型介護予防サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護予防認知症対応型通所介護 ○介護予防小規模多機能型居宅介護 ○介護予防認知症対応型共同生活介護（グループホーム） <p>◎介護予防支援</p> |

この他、居宅介護（介護予防）住宅改修、介護予防・日常生活支援総合事業がある。

○ 介護サービス見込量

市町村は、介護給付等対象サービスの給付の実績を分析かつ評価し、高齢者の実態や、要介護者等の介護給付等対象サービスの利用に関する意向等を把握した上で、サービス種類ごとの量を見込んでいます。

市町村における、令和6年度から令和8年度までと令和12年度、令和22年度の介護給付等対象サービス見込量を集計した県全体の介護サービスの種類ごとの見込量は次のとおりです。

(1) 介護サービス利用者数

【図表5-6-2】 1月あたりの利用見込者数 (単位：人)

| 区分 | サービスの種類 | 令和6年度見込 | 令和7年度見込 | 令和8年度見込 | 令和12年度見込 | 令和22年度見込 |
|-----|------------------------------------|---------|---------|---------|----------|----------|
| 在宅系 | 居宅・地域密着型サービス (居住系サービスを除く) | 40,422 | 40,667 | 41,006 | 41,976 | 46,105 |
| | 介護予防・地域密着型介護予防サービス (居住系サービスを除く) | 13,035 | 13,133 | 13,231 | 13,486 | 14,454 |
| 居住系 | 認知症対応型共同生活介護 (グループホーム) | 5,802 | 5,886 | 5,948 | 5,957 | 6,524 |
| | 特定施設入居者生活介護 (有料老人ホーム等) | 2,272 | 2,288 | 2,295 | 2,305 | 2,480 |
| 施設系 | 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) | 10,914 | 10,997 | 11,077 | 10,765 | 11,552 |
| | 介護老人保健施設 | 6,065 | 6,012 | 6,011 | 6,051 | 6,471 |
| | 介護医療院 | 1,260 | 1,356 | 1,369 | 1,391 | 1,510 |
| 合計 | | 79,770 | 80,339 | 80,937 | 81,931 | 89,096 |

(2) 介護サービス見込量

【図表5-6-3】居宅・地域密着型・施設サービス等（年間）

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 訪問介護（回数） | 2,517,336 | 2,529,947 | 2,528,977 | 2,601,671 | 2,879,214 |
| (2) 訪問入浴介護（回数） | 26,903 | 27,542 | 28,165 | 26,244 | 28,613 |
| (3) 訪問看護（回数） | 631,610 | 658,813 | 686,896 | 651,134 | 715,349 |
| (4) 訪問リハビリテーション（回数） | 443,465 | 447,920 | 453,210 | 475,901 | 533,228 |
| (5) 居宅療養管理指導（人数） | 140,796 | 141,816 | 142,596 | 149,988 | 167,808 |
| (6) 通所介護（回数） | 1,847,222 | 1,866,148 | 1,883,033 | 1,927,475 | 2,133,955 |
| (7) 通所リハビリテーション（回数） | 1,162,472 | 1,188,858 | 1,214,749 | 1,162,204 | 1,266,012 |
| (8) 短期入所生活介護（日数） | 430,757 | 436,237 | 442,109 | 429,695 | 467,869 |
| (9) 短期入所療養介護（日数） | 74,824 | 74,756 | 75,206 | 75,811 | 80,033 |
| (10) 特定施設入居者生活介護（人数） | 21,120 | 21,276 | 21,336 | 21,336 | 22,932 |
| (11) 福祉用具貸与（人数） | 324,504 | 327,708 | 329,676 | 338,232 | 374,148 |
| (12) 特定福祉用具販売（人数） | 6,480 | 6,564 | 6,648 | 6,636 | 7,080 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人数） | 14,544 | 15,072 | 15,948 | 15,348 | 17,508 |
| (2) 夜間対応型訪問介護（人数） | 120 | 132 | 228 | 228 | 288 |
| (3) 認知症対応型通所介護（回数） | 88,014 | 90,253 | 91,646 | 89,856 | 101,380 |
| (4) 小規模多機能型居宅介護（人数） | 26,808 | 27,216 | 27,696 | 27,360 | 29,316 |
| (5) 認知症対応型共同生活介護（人数） | 69,300 | 70,308 | 71,052 | 71,160 | 77,928 |
| (6) 地域密着型特定施設入居者生活介護（人数） | 4,248 | 4,260 | 4,284 | 4,380 | 4,776 |
| (7) 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人数） | 12,768 | 12,768 | 12,756 | 12,576 | 13,092 |
| (8) 看護小規模多機能型居宅介護（人数） | 7,176 | 7,584 | 8,568 | 8,616 | 9,372 |
| (9) 地域密着型通所介護（回数） | 988,499 | 993,331 | 998,922 | 1,036,724 | 1,149,150 |
| 3 住宅改修（人数） | 4,992 | 4,992 | 5,040 | 5,268 | 5,628 |
| 4 居宅介護支援（人数） | 451,080 | 453,204 | 455,808 | 467,736 | 514,572 |
| 5 施設サービス | | | | | |
| 介護老人福祉施設（人数） | 118,200 | 119,196 | 120,168 | 116,604 | 125,532 |
| 介護老人保健施設（人数） | 72,780 | 72,144 | 72,132 | 72,612 | 77,652 |
| 介護医療院（人数） | 15,120 | 16,272 | 16,428 | 16,692 | 18,120 |

【図表5-6-4】介護予防サービス等（年間）

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 介護予防訪問入浴介護（回数） | 94 | 94 | 94 | 94 | 94 |
| (2) 介護予防訪問看護（回数） | 76,757 | 79,135 | 81,559 | 78,893 | 83,486 |
| (3) 介護予防訪問リハビリテーション（回数） | 60,278 | 61,237 | 61,735 | 63,516 | 69,458 |
| (4) 介護予防居宅療養管理指導（人数） | 8,280 | 8,460 | 8,628 | 8,940 | 9,600 |
| (5) 介護予防通所リハビリテーション（人数） | 72,529 | 74,029 | 75,565 | 75,793 | 81,253 |
| (6) 介護予防短期入所生活介護（日数） | 10,747 | 10,602 | 10,602 | 10,194 | 10,302 |
| (7) 介護予防短期入所療養介護（日数） | 1,104 | 1,121 | 1,127 | 1,016 | 1,122 |
| (8) 介護予防特定施設入居者生活介護（人数） | 1,896 | 1,920 | 1,920 | 1,944 | 2,052 |
| (9) 介護予防福祉用具貸与（人数） | 107,256 | 107,844 | 108,180 | 109,740 | 117,924 |
| (10) 特定介護予防福祉用具販売（人数） | 2,767 | 2,815 | 2,803 | 2,791 | 2,899 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 認知症対応型通所介護（回数） | 942 | 942 | 942 | 822 | 822 |
| (2) 小規模多機能型居宅介護（人数） | 3,600 | 3,624 | 3,684 | 3,720 | 3,960 |
| (3) 認知症対応型共同生活介護（人数） | 324 | 324 | 324 | 324 | 360 |
| 3 住宅改修（人数） | 3,888 | 3,948 | 3,972 | 4,068 | 4,236 |
| 4 介護予防支援（人数） | 152,820 | 153,972 | 155,088 | 158,112 | 169,488 |

【施策の方向】

○ 必要入所（利用）定員総数の設定

必要入所（利用）定員総数とは、介護保険施設・居住系サービスの見込量をもとに、利用に必要な施設の定員を表しているものであり、その範囲内での施設の整備を進めます。

(1) 必要入所（利用）定員総数設定の基本的な考え方

必要入所（利用）定員総数は、市町村が見込んだ介護保険施設・居住系サービスの見込量に各施設の利用率等を勘案して、年度ごと、高齢者保健福祉圏域ごとに設定するものです。

(2) 必要入所定員総数等

① 介護老人福祉施設

ア 介護老人福祉施設（入所定員30人以上）

【図表5-6-5】必要入所定員総数（単位：人）

| 圏域 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|-------|--------|--------|--------|
| 鹿児島 | 3,474 | 3,474 | 3,474 |
| 南薩 | 1,195 | 1,195 | 1,195 |
| 川薩 | 1,031 | 1,031 | 1,031 |
| 出水 | 497 | 497 | 497 |
| 始良・伊佐 | 1,192 | 1,192 | 1,192 |
| 曾於 | 590 | 590 | 590 |
| 肝属 | 1,064 | 1,064 | 1,064 |
| 熊毛 | 400 | 400 | 400 |
| 奄美 | 1,032 | 1,032 | 1,032 |
| 県計 | 10,475 | 10,475 | 10,475 |

イ 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（入所定員29人以下）

【図表5-6-6】必要入所定員総数（単位：人）

| 圏域 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|-------|-------|-------|-------|
| 鹿児島 | 217 | 217 | 217 |
| 南薩 | 226 | 226 | 226 |
| 川薩 | 147 | 147 | 147 |
| 出水 | 107 | 107 | 107 |
| 始良・伊佐 | 182 | 182 | 182 |
| 曾於 | 169 | 169 | 169 |
| 肝属 | 25 | 25 | 25 |
| 熊毛 | 49 | 49 | 49 |
| 奄美 | 0 | 0 | 0 |
| 県計 | 1,122 | 1,122 | 1,122 |

② 介護老人保健施設

【図表5-6-7】必要入所定員総数（単位：人）

| 圏域 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|-------|-------|-------|-------|
| 鹿児島 | 1,899 | 1,899 | 1,899 |
| 南薩 | 858 | 858 | 858 |
| 川薩 | 569 | 569 | 569 |
| 出水 | 396 | 396 | 396 |
| 始良・伊佐 | 892 | 892 | 892 |
| 曾於 | 441 | 391 | 391 |
| 肝属 | 628 | 628 | 628 |
| 熊毛 | 97 | 97 | 97 |
| 奄美 | 606 | 589 | 589 |
| 県計 | 6,386 | 6,319 | 6,319 |

③ 介護医療院

【図表5-6-8】必要入所定員総数 (単位：人)

| 圏域 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|-------|-------|-------|-------|
| 鹿児島 | 300 | 300 | 300 |
| 南薩 | 173 | 173 | 173 |
| 川薩 | 49 | 49 | 49 |
| 出水 | 76 | 76 | 76 |
| 始良・伊佐 | 374 | 402 | 402 |
| 曾於 | 81 | 131 | 131 |
| 肝属 | 142 | 142 | 142 |
| 熊毛 | 0 | 0 | 0 |
| 奄美 | 18 | 33 | 33 |
| 県計 | 1,213 | 1,306 | 1,306 |

④ 介護専用型特定施設

ア 特定施設入居者生活介護（入所定員30人以上）

【図表5-6-9】必要入所定員総数 (単位：人)

| 圏域 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|-------|-------|-------|-------|
| 鹿児島 | 210 | 210 | 212 |
| 南薩 | 73 | 73 | 73 |
| 川薩 | 0 | 0 | 0 |
| 出水 | 69 | 69 | 69 |
| 始良・伊佐 | 0 | 0 | 0 |
| 曾於 | 127 | 127 | 127 |
| 肝属 | 0 | 0 | 0 |
| 熊毛 | 0 | 0 | 0 |
| 奄美 | 83 | 83 | 83 |
| 県計 | 562 | 562 | 564 |

イ 地域密着型特定施設入居者生活介護（入所定員29人以下）

【図表5-6-10】必要入所定員総数 (単位：人)

| 圏域 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|-------|-------|-------|-------|
| 鹿児島 | 83 | 83 | 83 |
| 南薩 | 0 | 0 | 0 |
| 川薩 | 0 | 0 | 0 |
| 出水 | 25 | 25 | 25 |
| 始良・伊佐 | 0 | 0 | 0 |
| 曾於 | 78 | 78 | 78 |
| 肝属 | 50 | 50 | 50 |
| 熊毛 | 20 | 20 | 20 |
| 奄美 | 109 | 109 | 109 |
| 県計 | 365 | 365 | 365 |

⑤ 混合型特定施設

【図表5-6-11】総定員数 (単位：人)

| 圏域 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|-------|-------|-------|-------|
| 鹿児島 | 1,154 | 1,154 | 1,154 |
| 南薩 | 120 | 120 | 120 |
| 川薩 | 125 | 125 | 125 |
| 出水 | 250 | 250 | 250 |
| 始良・伊佐 | 361 | 361 | 361 |
| 曾於 | 90 | 90 | 90 |
| 肝属 | 136 | 136 | 136 |
| 熊毛 | 50 | 50 | 50 |
| 奄美 | 120 | 120 | 120 |
| 県計 | 2,406 | 2,406 | 2,406 |

【図表5-6-12】 推定利用定員総数 (単位：人)

| 圏域 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|-------|-------|-------|-------|
| 鹿児島 | 807 | 807 | 807 |
| 南薩 | 84 | 84 | 84 |
| 川薩 | 87 | 87 | 87 |
| 出水 | 175 | 175 | 175 |
| 始良・伊佐 | 252 | 252 | 252 |
| 曾於 | 63 | 63 | 63 |
| 肝属 | 95 | 95 | 95 |
| 熊毛 | 35 | 35 | 35 |
| 奄美 | 84 | 84 | 84 |
| 県計 | 1,682 | 1,682 | 1,682 |

※ 混合型特定施設の推定利用定員総数は、総定員数の70%で換算

※ 養護老人ホームの特定施設入居者生活介護の指定は、総量規制の対象とせず、市町村と調整を図りながら検討する。

○ 介護老人福祉施設における特例入所

特例入所の運用については、介護老人福祉施設の機能の重点化の趣旨等や地域における実情を踏まえ、各市町村において、必要と認める事情があれば、それも考慮した適切な運用が図られるよう、市町村に対して適切な助言を行います。

2 保健医療計画との整合性の確保

【現状・課題】

- 介護保険事業(支援)計画と保健医療計画については、効率的で質の高い医療・介護の提供体制の構築や在宅医療・介護の充実等による地域包括ケアシステムの構築が一体的に行われるよう、それぞれの計画の整合性を確保することが重要となっています。

【施策の方向】

- 県、市町村の医療・介護担当者や関係団体等の関係者による協議の場で、より緊密な連携を図り、介護保険事業(支援)計画において定めるサービスの量の見込みと、保健医療計画において掲げる在宅医療等の整備目標との整合性の確保を図ります。
- 医療機能ごとの医療需要に基づく病床の必要量等の見直しに伴う介護施設や在宅医療等の追加的需要^{*1}への対応については、医療・介護の連携強化及び在宅サービスの充実に市町村とともに取り組みます。

3 長期入院精神障害者の地域生活移行への対応

【現状・課題】

- 本県の精神障害者については、精神病床の平均在院日数が全国平均より長い(令和4年度366日)といった課題があり、地域移行へ向けた支援の充実を図る必要があります。

*1 在宅医療等の追加的需要…病床の機能分化、連携の推進により生じる追加的な在宅医療・介護施設等の需要のこと。基本的に療養病床からの移行によるものとされる。

【図表5-6-13】平均在院日数の推移 (単位:日)

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|-----|-------|-------|-------|
| 本 県 | 359 | 369 | 366 |
| 全 国 | 277 | 275 | 277 |

[厚生労働省「病院報告」]

【施策の方向】

- 精神障害者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」を目指して、精神病床における入院患者数や地域移行に伴う基盤整備量等について目標値を明確にし、計画的に基盤整備を推進します。
- 障害保健福祉圏域ごとの保健・医療・福祉関係者の協議の場を通じて、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」を推進するため、圏域における現状分析と目標の設定、具体策の検討等を行い、精神科医療機関、その他の医療機関、地域援助事業者、市町村等との重層的な支援体制の構築に努めます。
- 市町村の地域自立支援協議会において、相談支援体制や住まいの確保等必要な基盤整備の協議や関係機関とのネットワーク構築がなされるよう助言を行うとともに、障害保健福祉圏域の目標との連携を図ります。

第7節 介護給付等の適正化の推進

【現状・課題】

- 介護保険制度の定着及び後期高齢者の増加等に伴い、介護給付費は年々増加し、公費負担の増加や介護保険料の上昇につながっています。
- 介護保険制度に対する信頼感を高め、今後も安定的に制度を運営していくためには、高齢者等が個々の有する能力に応じて自立した尊厳ある日常生活ができるよう、真に必要な介護サービスを確保するとともに、不適切・不要なサービスが提供されないよう、各保険者が保険者機能の一環として自らの課題認識の下に介護給付の適正化に取り組むことが必要です。
- 取組に当たっては、保険者や県をはじめ、関係団体等が、介護給付の適正化の基本的な考え方や現状認識を共有しながら一体的に取組を進めていくことが重要です。
- 県では、保険者及び県等が介護給付の適正化事業を効果的・効率的に進めていくため、平成21年3月に「鹿児島県介護給付適正化計画（平成21年度から平成23年度）」を策定し、平成24年度以降3年ごとに内容を見直し、「鹿児島県介護給付適正化プログラム」により取組の推進を図っています。
- 介護給付適正化研修会を開催し、給付適正化事業への取組状況、成果、課題について共有するとともに、主要5事業に関する説明や演習を行い、保険者の取組に対する支援を行っています。
- 平成27年度から「医療情報の突合・縦覧点検」を県国民健康保険団体連合会に委託し、全市町村完全実施となっています。
- ケアマネジメントの適切化に向けた「ケアプランの点検」については、実施率は9割まで達したものの、全市町村で実施されるよう取組の更なる推進が必要です。

- 保険者が行う主要5事業のうち「住宅改修等の点検（福祉用具の点検）」の実施率が最も低く、取組が進まない理由としては、専門的な知識を有する職員等がないこと等が挙げられます。
- リハビリテーション専門職等による住宅改修の施工前点検については、受給者の状態にそぐわない不適切又は不要な住宅改修を排除するために必要とされています。県内では令和元年度は2割ほどの実施率にとどまっていたが、令和4年度は6割の実施率となっています。

【図表5-7-1】介護給付適正化の事業実施状況（保険者が行う主要5事業7項目）

| 項目 | | I 要介護認定の適正化 | II ケアマネジメントの適切化 | | III 事業者のサービス提供体制及び介護報酬請求の適正化 | | | リハビリテーション専門職による住宅改修の施工前点検 |
|-------|--------|-------------|-----------------|------------|------------------------------|---------|-----------------|---------------------------|
| | | | ① 認定調査チェック | ② ケアプランの点検 | ③ 住宅改修等の点検 | | ④ 縦覧点検・医療情報との突合 | |
| | | | | i) 住宅改修の点検 | ii) 福祉用具の点検 | i) 縦覧点検 | ii) 医療情報との突合 | |
| H28年度 | 実施率 | 100.0% | 62.8% | 83.7% | 69.8% | 100.0% | 100.0% | 83.7% |
| R元年度 | 実施率 | 95.3% | 90.7% | 81.4% | 65.1% | 100.0% | 100.0% | 88.4% |
| R4年度 | 実施率 | 100.0% | 95.3% | 90.7% | 44.2% | 100.0% | 100.0% | 90.7% |
| | 実施保険者数 | 43 | 41 | 39 | 19 | 43 | 43 | 39 |
| | | | | | | | | 23.3% |
| | | | | | | | | 62.8% |
| | | | | | | | | 27 |

- (注) 1 ①～⑤は国が示す主要5事業
 2 (実施率) = (実施保険者数 / 県内保険者数) * 100

[介護給付適正化実施状況調査]

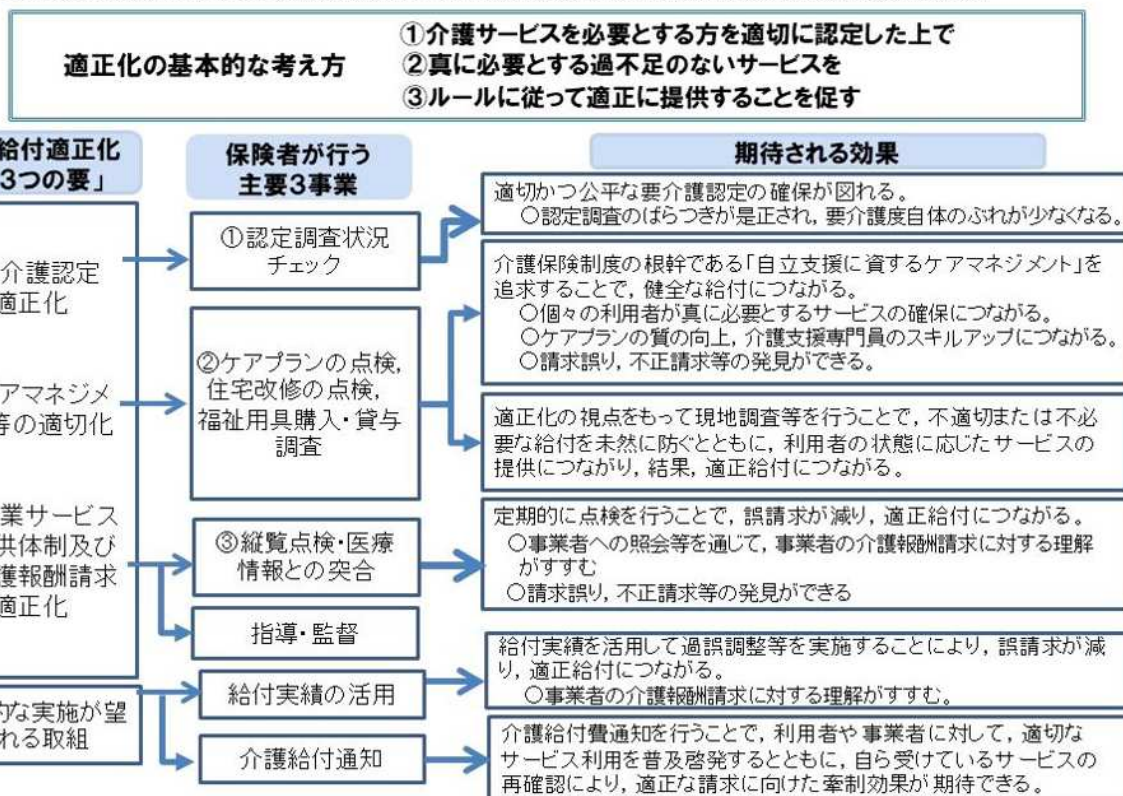
【施策の方向】

- 保険者や県をはじめ、県国民健康保険団体連合会や介護保険事業者など関係団体と共通理解に立ち、高齢者等の自立支援、自己選択に基づく効果的で適切な介護サービスの給付に資する取組を推進します。
- 実施主体である保険者が、自ら自主的・積極的に取り組めるよう研修会の開催や好事例の紹介など広域的視点からの支援に努めます。
- 令和6年度から令和8年度までを計画期間とする「第6期鹿児島県介護給付適正化プログラム」を策定し、これまでの主要5事業を見直し再編された「主要3事業」を柱として、適正化事業の実施、定着及び継続を推進する体制の強化を図ります。
- 国が示す「介護給付適正化計画に関する指針」において全ての保険者において実施することを目指すことが規定されている主要3事業「要介護認定の適正化」「ケアプラン等の点検」「医療情報との突合・縦覧点検」及び市町村が効果的と考える適正化事業を全保険者で取り組めるよう支援するため、保険者における実施状況や目標の達成状況について把握し、それぞれの状況に応じた目標設定や実効的な取組・手法等についての研修、情報提供や助言などの支援を行います。
- 県国民健康保険団体連合会介護給付適正化システムの活用による取組支援を行うとともに、地域包括ケア「見える化」システムの活用により、保険者における現状分析や効果の検証を支援していきます。
- リハビリテーション専門職による住宅改修の施工前点検の体制構築に向けた取組を支援・推進します。

【図表5-7-2】介護給付適正化（主要3事業）のイメージ

介護給付適正化(主要3事業)のイメージ

高齢者等が可能な限り、有する能力に応じて自立した尊厳ある生活ができるよう、適切なサービスを確保するとともに、その結果としての費用の効率化を通じて、介護保険制度への信頼を高め、持続可能な介護保険制度の構築に資する。



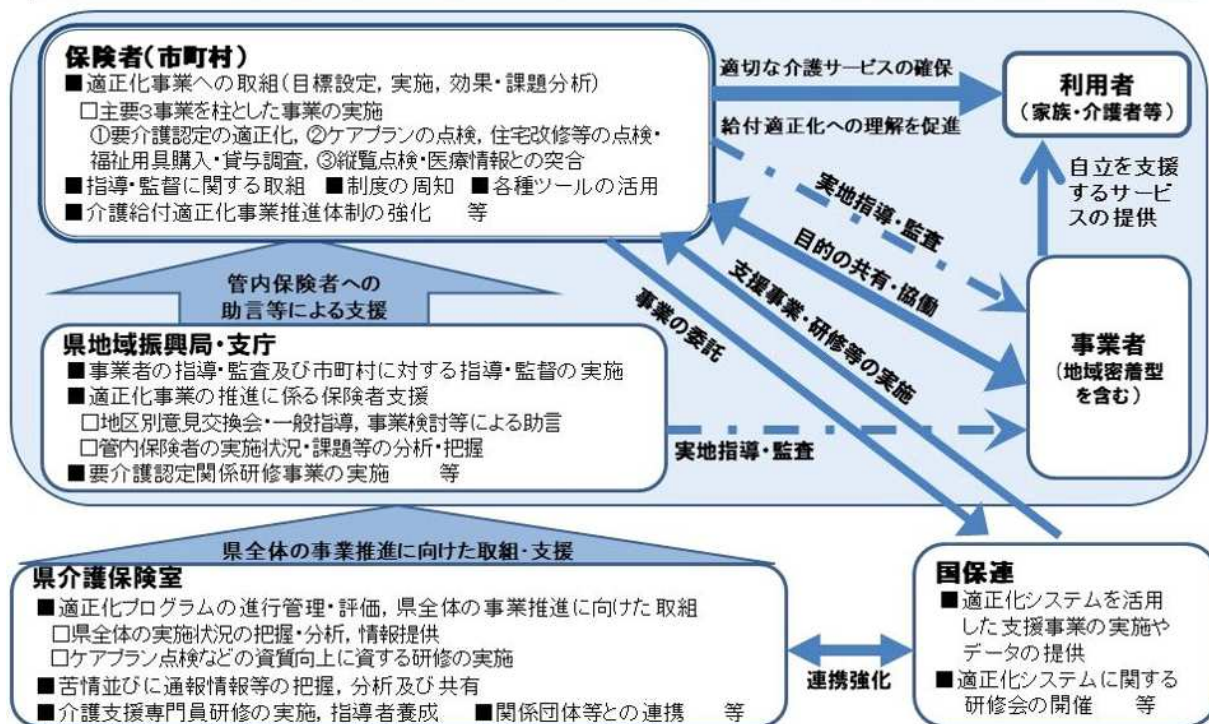
【図表5-7-3】本県における介護給付適正化の推進

本県における介護給付適正化の推進

高齢者等が可能な限り、有する能力に応じて自立した尊厳ある生活ができるよう、適正化の基本的な考え方をふまえながら、県や保険者、事業者や関係団体等が共通理解に立ち、効果的で適切なサービスの給付に資することを目的とします。

介護給付適正化の基本的な考え方

①介護サービスを必要とする方を適切に認定した上で、②真に必要な過不足ないサービスを、③事業者が適切に提供することを促す



第6章 高齢者の快適で安全な生活の確保

第1節 高齢者の住みよいまちづくり

1 福祉のまちづくりの推進

【現状・課題】

- 高齢化が急速に進行する中で、高齢者や障害者等が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に主体的かつ自主的に参加し、生きがいを持って暮らせる地域社会を実現するためには、高齢者等の日常生活や社会生活における自由な活動を制限している様々な障壁を取り除き、高齢者や障害者等が自分の意思で自由に行動し、社会に参加することができる心豊かで住みよい福祉のまちづくりに、県、市町村、事業者及び県民が一体となって取り組む必要があります。
- このため、鹿児島県福祉のまちづくり条例に基づき、バリアフリー研修会の開催や広報誌「ありば」の発行など、思いやりの心の醸成等ソフト面のバリアフリー化と、道路、公園などの公共的施設や公共交通機関等を高齢者や障害者等が安全かつ快適に利用できるよう、ハード面のバリアフリー化を促進するとともに、高齢者等が社会参加しやすい環境づくりに努めています。

【施策の方向】

- 福祉のまちづくりの普及啓発、ボランティア活動の推進、福祉教育の充実及び学習機会の提供等により、ソフト面のバリアフリー化を促進します。
- 道路、公園などの公共的施設を、高齢者や障害者等が安全かつ快適に利用できるよう、条例の整備基準等に適合した県有施設、市町村有施設、民間施設の整備に努めます。
- 高齢者や障害者等の移動の利便性や安全性の向上を図るため、公共交通機関のバリアフリー化の促進に努めます。
- 高齢者や障害者等の歩行の困難な方が公共的施設等を使用しやすくなるよう、県内共通の利用証を発行し、必要な方のための駐車スペースを確保する鹿児島県身障者用駐車場利用証制度（パーキングパーミット制度）の普及啓発に努めます。

2 交通手段の確保

【現状・課題】

- 路線バスは、高齢者等のいわゆる交通弱者にとって必要不可欠な交通手段となっています。
- 近年、運行事業者は、過疎化の進行やモータリゼーションの進展等による利用者の減少により極めて厳しい経営状況に置かれています。また、維持・存続が危ぶまれる集落においては、買い物や通院などの日常生活を支える交通手段の確保などの課題を抱えています。
- 地域住民のセーフティネットとしての交通手段の確保のため、地元市町村や運行事業者等と連携して、地域住民による利用促進や運行系統の見直し等を進めつつ、国等の支援制度の活用により、真に必要なバス路線の維持を図る必要があります。

- コミュニティバスや利用者からの電話予約等に応じて運行するデマンド型交通などの新たな輸送形態の導入などにより、住民のニーズにきめ細かく応える持続可能な地域公共交通体系の構築の促進にも積極的に取り組む必要があります。
- 障害等により、他人の介助なしでは移動が困難であり、公共交通機関を利用することが困難な方に対して、NPO法人等が道路運送法に規定する登録を受け、実費の範囲以内の単価で個別輸送を行う福祉有償運送は、令和5年4月1日現在で、35団体（11市8町1村）で実施されています。
- NPO法人等の活動が広がり、市町村の区域を越える場合は、複数の市町村等で広域的に取り組むことも可能となっています。

【施策の方向】

- 国等の支援制度の活用により、地域住民の生活に必要な広域的・幹線的バス路線等を支援するとともに、市町村によるコミュニティバスやデマンド型交通などの新たな輸送形態の導入について、地域公共交通会議の場等を活用し促進するなど、関係者と連携を図りながら、地域のニーズに応じた地域公共交通体系の確保に努めます。
- 福祉有償運送について、市町村や福祉有償運送を検討するNPO法人等から運営協議会の設置及び運営に関する相談等があった場合には、運営協議会の設立、開催が円滑に進むよう助言を行います。

第2節 高齢者の安全な暮らしづくり

1 交通事故防止対策等の推進

(1) 交通事故防止対策の推進

【現状・課題】

- 高齢者の交通事故死者数は、平成15年から連続して全死者数の過半数を占めており、今後も高齢化が一層加速することが見込まれ、交通事故による高齢死者数の増加が懸念されます。

【図表6-2-1】 高齢者の交通事故死傷者数及び歩行中の死傷者数

| | 令和元年 | 令和2年 | 令和3年 | 令和4年 |
|--------------|------|------|------|------|
| 高齢者の交通事故死者数 | 37人 | 38人 | 26人 | 24人 |
| 高齢者の歩行中の死傷者数 | 231人 | 213人 | 172人 | 146人 |

[県警交通企画課調べ]

【施策の方向】

- 交通安全運動の展開
「交通事故ゼロを目指す交通安全県民運動」や各季の交通安全運動を関係機関・団体と一体となって積極的に展開し、高齢者の交通事故防止を図ります。
- 交通安全一ロアドバイス活動の推進
三師会(医師会、歯科医師会、薬剤師会)、高齢者関係団体、市町村担当部署等と連携し、高齢者への交通安全一ロアドバイス活動を推進します。

■各論 第6章 第2節■

- 「参加・体験・実践型」交通安全教育の推進
交通安全教育車「さわやか号」の活用、運転技能自動評価システムによる実車講習、安全運転サポート車、電動車いすの体験試乗、ナイトスクール等の参加・体験・実践型の安全教育を推進します。
- 高齢者の保護誘導活動の強化
夜光反射材等の交通安全用品の普及促進活動、高齢者家庭を訪問しての個別指導の実施及び街頭における保護誘導活動を強化するとともに、一般運転者の交通マナー向上を図ります。
- 運転免許がなくても安心して暮らせる環境の整備
コミュニティバス等の移動手段の確保や利便性の向上等に係る情報を提供し、高齢者が安心して運転免許を自主返納できる環境づくりを推進します。
- 広報啓発活動の積極的な推進
市町村や事業者等と連携し、県のホームページ、市町村広報誌など各種広報媒体を積極的に活用して広報啓発活動を推進します。
- 高齢者にやさしい交通環境の整備
日常生活の場（生活道路等）における歩行者・自転車の安全確保のため、「ゾーン30プラス」整備を推進するとともに、高齢者に分かりやすい大型・高輝度の標識や音響式歩行者誘導付加装置付信号の設置など、高齢者に配慮した交通規制の実施及び交通安全施設の整備に努め、高齢者の安全な移動に資する、交通の安全・円滑化を図ります。

(2) 農作業事故防止対策の推進

【現状・課題】

- 農作業中の死亡事故は、過去10年間の年間平均で13件発生しており、うち農業機械による事故が約81%を占めており、65歳以上の高齢者の割合が約78%と高くなっています。

【施策の方向】

- 農作業事故防止のため、自治体や関係機関・団体と一体となって、座談会、講習会、事故防止現地研修会等、あらゆる会合の場を利用して啓発活動を実施するとともに、マスメディアや広報誌、ホームページ等、各種広報媒体の積極的な活用による広報啓発活動を実施するなど、農作業事故防止対策を推進します。

2 消費者被害の未然防止

【現状・課題】

- 過去5年間で県に寄せられている消費生活相談は、年間4,300件程度で推移しており、特に60歳以上の高齢者層からの相談が最も多く、相談総件数の約4割を占めています。
- 高齢者の消費者問題については、一人暮らしや判断力が低下した高齢者が、十分な判断ができないまま事業者と契約し、被害に巻き込まれるケース等が発生しています。
- このような消費者被害の未然防止のためには、高齢者本人が問題意識を高めるとともに、家族や周りの方々が日頃から高齢者の様子を気にかけるなど、地域の高齢者等関係機関・団体と高齢者を見守る方々の連携した取組が重要となっています。

【図表6-2-2】消費生活相談件数

(単位：件)

| 区 分 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|-------------|-------|-------|-------|
| 相 談 件 数 | 4,508 | 4,179 | 4,259 |
| うち60歳以上の高齢者 | 1,792 | 1,693 | 1,710 |
| 構 成 比 | 39.8% | 40.5% | 40.2% |

[県消費生活センター調べ]

【施策の方向】

- ホームページ等で悪質商法などの消費者トラブルに関する情報を迅速かつ的確に提供するとともに、高齢者を対象とした消費生活講座を開催し、市町村及び関係機関・団体と連携した消費者啓発を推進します。
- 県消費生活センターと高齢者等関係機関・団体からなる「鹿児島県消費者安全確保地域協議会」において情報共有を行い、関係機関・団体が連携した効果的な取組を推進します。
- 社会福祉協議会や地域で見守り活動を行っている様々な組織、民生委員、ホームヘルパー等見守りネットワークの構成員を対象に、消費者問題についての理解を深めるための講座を開催するとともに、啓発用チラシの配布等により情報を提供し、消費生活相談窓口の周知を図ります。
- 市町村における地域包括支援センター等での消費生活関連を含めた各種相談への対応や、高齢者に接する機会の多い方々を対象とした消費生活講座の開催、啓発チラシを配布するなど地域での見守り活動を支援します。
- 判断能力が低下した認知症などの高齢者等には、市町村と連携を図りながら、成年後見制度や社会福祉協議会が行う福祉サービス利用支援事業の利用を促進します。

3 要援護高齢者対策の推進

【現状・課題】

- 一人暮らしの高齢者が、生きがいを持ち、安心して日常生活を過ごすためには、住民相互の支え合いの環境の中で、在宅での自立した生活を支援する保健・福祉サービスをはじめとする生活全般にわたる各種のサービスが必要です。
- このため、引き続き、以下の施策を推進していく必要があります。
 - ・ 認知症高齢者等の判断能力の低下した方が自立した生活を送れるよう、福祉サービスの利用援助を支援する福祉サービス利用支援事業
 - ・ 高齢者の在宅生活を支援するため、高齢者の安全や利便に配慮した公営住宅（シルバーハウジング）の適正な維持管理、民間事業者によるサービス付き高齢者向け住宅の供給促進や住宅のバリアフリー化を促進するための情報提供（各論第2章第7節参照）

【施策の方向】

- 認知症高齢者等の判断能力の低下した方が自立した生活を送れるよう、福祉サービスの利用を支援する福祉サービス利用支援事業を引き続き実施します。
- 高齢者が生涯安心して暮らせる居住の確保に向け、鹿児島県高齢者居住安定確保計画に基づき、高齢者の居住支援を促進します。（各論第2章第7節参照）

4 防犯対策の推進

【現状・課題】

- 高齢者の増加や地域社会における連帯感の希薄化の進行等に伴い家庭や地域社会の自律的問題解決機能、犯罪抑制機能の低下が懸念されるとともに、犯罪の悪質巧妙化、広域化が進むなど、高齢者を取り巻く環境は厳しい状況にあります。
- このような中で、高齢者がうそ電話詐欺（特殊詐欺）や悪質商法等の被害者となる可能性が高く、高齢者を犯罪から守ることは、高齢者の安全な暮らしを確保する上で重要であり、鹿児島県犯罪のない安全で安心なまちづくり条例及び具体的な防犯対策を定めた「防犯指針」（高齢者・障害者等の安全確保のための指針）等に基づき、犯罪の起きにくい環境づくりや広報・啓発活動を推進しています。
- 今後も、高齢者が被る犯罪被害の防止に向けた取組を一層推進する必要があります。

【施策の方向】

- 広報・啓発活動の推進
「鹿児島県犯罪のない安全で安心なまちづくり条例」及び「防犯指針」（高齢者・障害者等の安全確保のための指針）等に基づき、高齢者の方々など県民の生命・身体・財産などに危害を及ぼす犯罪を防止するための広報・啓発活動を推進します。
- 各種の防犯運動の展開
全国地域安全運動をはじめ、年末年始地域安全運動など、安全で安心なまちづくり県民運動を積極的に展開し、高齢者の犯罪被害防止を図ります。
- 防犯ボランティア団体に対する活動の支援
防犯ボランティア団体への犯罪発生状況等の情報提供や合同パトロールの実施など積極的な活動支援を行い、防犯団体の活動の質を高めることにより、高齢者への犯罪が起きにくい環境づくりを推進します。
- 地域警察官による高齢者宅の訪問など保護活動の推進
交番・駐在所等の地域警察官において、独居高齢者^{*1}等の世帯に対しては、巡回連絡による面接を行い、相談・要望等を把握し、街頭パトロールを通じた声かけなどにより不安の解消と事件・事故の未然防止に努めるとともに、必要に応じて家族や関係機関等と連携した保護活動を行います。

5 防災対策の推進及び災害時における高齢者等の要配慮者^{*2}に対する安全の確保

(1) 住宅用火災警報器の設置による対策

【現状・課題】

- 消防庁統計調査系システム火災報告によると、住宅火災による死者の約6割は高齢者で、その死に至った主な原因（「不明」、「調査中」を除く。）は、「逃げ遅れ」という状況です。
（令和4年中）

*1 独居高齢者…特に生活実態を把握する必要がある65歳以上の1人暮らしの高齢者

*2 要配慮者…高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮を要する者

- 火災の早期発見，早期避難に極めて有効である住宅用火災警報器については，平成23年6月から全ての住宅において設置が義務付けられましたが，住宅用火災警報器設置状況調査によると，本県における住宅用火災警報器の設置率（推計）は88.9%と全国平均（84.3%）を上回っているものの，約1割が未設置の状況です（令和5年6月現在）。引き続き，住宅用火災警報器の一層の普及啓発等に努める必要があります。

【施策の方向】

- 市町村や消防本部とも連携しながら，各種広報媒体や様々な機会を捉えて火災予防思想の普及啓発を図るとともに，住宅用火災警報器の設置促進及び定期的な作動確認などの維持管理を図り，住宅火災の発生や特に高齢者の死者の発生を防止します。

(2) 災害時における高齢者等の要配慮者に対する安全の確保

【現状・課題】

- 近年の災害においては，超高齢社会を迎えて，一人暮らしや寝たきり，病弱な高齢者等の災害時には自力では迅速な避難行動ができない避難行動要支援者^{*3}の避難誘導體制の整備や，高齢者等に配慮した避難所運営のあり方が課題となっています。
- 特に，本県においては，全国平均を上回る早さで高齢化が進み，高齢単身世帯や高齢夫婦世帯の割合が高いことなどから，災害時の安全確保について，市町村や防災関係機関と地域の自主防災組織，福祉関係者との連携によって対策を講じることが必要です。
- また，災害時においては，生活環境の変化により二次的健康被害^{*4}も予想されることから，避難所等で生活される方に対して十分に配慮する必要があります。
- 大規模災害発生時においては，初動期（2日間）医療救護のための医薬品等の安定供給が重要であることから，県内7か所の病院に医薬品等の備蓄を行うとともに，医薬品の優先的な確保に関する協定を県医薬品卸売業協会及び県医療機器協会と締結し，医薬品等の安定的な供給体制を整備しています。
- 高齢者施設等は，日常生活上の支援が必要な人が多数利用していることから，災害等により，ライフラインが長期間寸断され，サービス提供の維持が困難となった場合，利用者の生命・身体に著しい影響を及ぼすおそれがあります。
このため，災害時にあっても最低限のサービス提供が維持できるよう，緊急時の人員招集方法や飲料水，食料，燃料及び電力などの確保策等について検討し，必要な対策を講じることが重要です。

【図表6-2-3】本県の自主防災組織率の推移 (単位：%)

| 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 88.5 | 92.2 | 93.2 | 93.6 | 94.1 | 92.1 |

※R 5については速報値 [県災害対策課調べ]

*3 避難行動要支援者…要配慮者のうち，災害が発生し，又は災害が発生する恐れがある場合に自ら避難することが困難な者であつて，その円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要する者

*4 二次的健康被害…活動低下に伴う生活不活発病や口腔内の不衛生等による誤嚥性肺炎等

【施策の方向】

- 市町村における「個別避難計画」の作成等促進
災害時の避難支援等を実効性のあるものとするため、避難行動要支援者名簿の作成・更新に合わせて、平常時から市町村防災・福祉関係部局、福祉関係者、自主防災組織等の関係者との連携の下、個々の避難行動要支援者に対して避難支援者などを定めた市町村における「個別避難計画」の作成等を促進します。
- 自主防災組織の育成
高齢者等を含む要配慮者の把握や災害情報の伝達等を行う自主防災組織の結成促進及び活性化を図るため、防災に関する実践的知識と技術を有し、地域における防災活動等の指導的役割を担う「地域防災推進員」を養成するとともに、県防災研修センターでの研修・訓練や県地域防災アドバイザーを活用した出前講座を実施し、県民に対し、自主防災組織結成や日常的な活動の重要性について広く周知を図ります。
- 市町村における避難所管理運営体制整備の促進
県の「避難所管理運営マニュアルモデル」を参考に、要配慮者の対応、支援等について定めた「避難所管理運営マニュアル」の策定及び適宜見直しを市町村に要請し、避難所管理運営体制の整備を促進します。
- 市町村における避難所の確保が円滑に進むよう、市町村に対し、災害時に避難所として活用可能な県有施設やホテル・旅館に関する情報提供を行っています。今後も、避難行動要支援者の災害時における安心・安全を確保するため、市町村と連携して必要な支援を行っていきます。
- 市町村における在宅要配慮者の避難支援体制整備の促進
市町村に対し、避難行動要支援者名簿等の整備や防災、福祉関係担当部局との情報の共有化を促進するとともに、要配慮者が相談等の必要な生活支援を受け、安心して生活ができる「福祉避難所」の確保など、避難体制の確立に努めるよう助言します。
- 高齢者など災害時要配慮者のニーズに的確に対応するため、避難所で支援を行う災害派遣医療福祉チームの派遣に関する協定の締結を推進するとともに、災害派遣医療福祉チームの研修を実施します。
- 災害時の二次的健康被害（生活不活発病等）の予防にリハビリ等が重要であることについて普及啓発するとともに、市町村に対し避難所運営等において二次的健康被害予防対策を講じるよう、関係団体と連携し、必要な支援を行っていきます。
- 災害時における救援活動などのボランティア活動の促進
ボランティアセンターの活動を支援し、災害時における救援活動などのボランティア活動を促進します。
- 災害時緊急医薬品等の備蓄及び安定的な供給体制の維持
大規模災害発生時における初動期（2日間）医療救護のために、県内7か所の病院に医薬品等を備蓄し、医薬品等の安定的な供給体制を維持します。
 - ア 緊急医薬品等の備蓄
 - a 備蓄場所
鹿児島市立病院，済生会川内病院，県民健康プラザ鹿屋医療センター，県立大島病院，県立薩南病院，県立北薩病院，霧島市立医師会医療センター
 - b 備蓄品目及び備蓄量

医薬品等230品目，合計8セット（8,000人分）

イ 毒物劇物中毒の解毒剤の備蓄

a 備蓄場所

緊急医薬品等の備蓄してある県内7か所の病院

b 備蓄品目

パム注（有機リン剤中毒解毒剤）等4品目

ウ 業務

a 備蓄医薬品等の更新及び定期的な品質管理

b 県医薬品卸業協会及び県医療機器協会と定期的連絡体制の確認

○ 高齢者施設等に対する事業継続支援

ア 高齢者施設等に対し，事業継続に必要な事項を定める「業務継続計画」（BCP）の策定に必要な情報を提供するとともに，国の通知やガイドラインを踏まえ，集団指導等を通じて必要な助言を行うなど，利用者の安全が確保できるよう，他施設との連携や避難先施設での適切なケアも想定した実効性のある「業務継続計画」の策定や見直しを支援します。

イ 高齢者施設等と連携し，避難訓練の実施や防災啓発活動，必要物資の備蓄・調達状況，避難経路等の確認を行うとともに，関係団体と災害時の応援職員の派遣体制の構築を図ります。

ウ 高齢者施設等が災害による停電・断水時にも，施設機能を維持するための電力・水の確保を自力でできるよう，国の支援制度等を活用し，非常用自家発電設備等の整備を促進します。

(3) 要配慮者利用施設に係る水害及び土砂災害対策

【現状・課題】

- 本県は，台風や梅雨期等の豪雨により毎年のように多くの水害及び土砂災害が発生しています。
- 全国では，要配慮者利用施設における水害若しくは土砂災害の避難情報が発表された際の避難誘導等が適切でなく，利用者の避難行動に遅れが生じたことにより被災する事案が発生しています。
- 水防法及び土砂災害防止法により浸水想定区域又は土砂災害警戒区域に位置し，市町村地域防災計画に位置付けられた要配慮者利用施設については，「避難確保計画の作成」及び「避難訓練の実施」が義務付けられていますが，これらの取組が進んでいない施設があります。

【施策の方向】

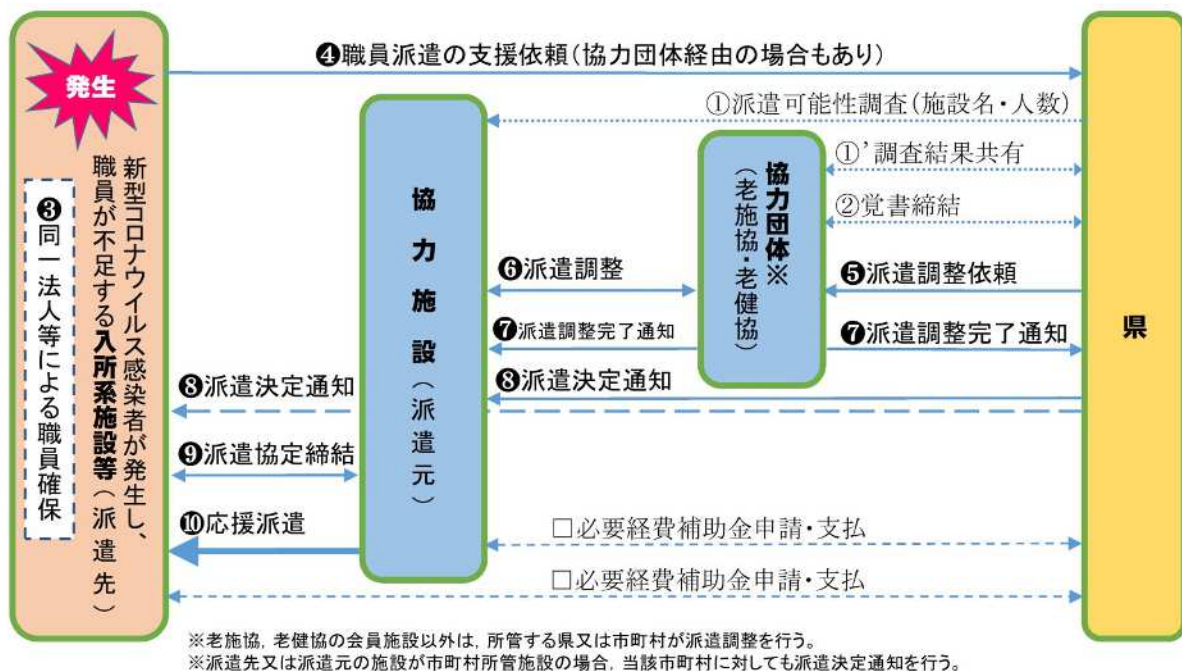
- 浸水想定区域及び土砂災害警戒区域等の指定促進
浸水想定区域及び土砂災害警戒区域等の指定を推進し，要配慮者利用施設利用者の円滑な警戒避難が行われるよう市町村の警戒避難体制の整備の促進を図ります。
- 市町村に対し，浸水想定区域又は土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設を市町村地域防災計画に速やかに位置付けるよう働きかけを行います。
- 「避難確保計画の作成」及び「避難訓練の実施」が義務付けられた要配慮者利用施設がその取組を速やか且つ持続的に実施できるよう関係部局と連携し支援します。

6 感染症対策の推進及び発生時の支援体制の整備

【現状・課題】

- 高齢者施設等で新型コロナウイルス感染症等の感染者が発生した場合に、施設内においてクラスターが発生してしまうケースがあります。
- 高齢者施設等では重症者リスクが高い高齢者が多く生活しており、クラスターが発生した場合、サービス提供の維持が困難となり、利用者の生命・身体に著しい影響を及ぼすおそれがあります。そのため、利用者へのサービス提供が維持できるよう、必要な対策を講じることが重要です。
- 県では、「高齢者施設等における新型コロナ感染者発生対応マニュアル」を作成し、公表しています。
- 県では、高齢者施設内で感染者が発生した場合に備え、発生した施設から他の施設へ感染者等以外の高齢者を受け入れることや発生した施設へ他の施設から応援職員を派遣することについて、体制の構築等を図っているところです。

【図表6-2-4】高齢者施設における応援体制フロー（調整主体：協力団体）



【施策の方向】

- 高齢者施設等に対し、事業継続に必要な事項を定める「業務継続計画」(BCP)の策定に必要な情報を提供するとともに、国の通知やガイドラインを踏まえ、集団指導等を通じて必要な助言を行うなど、事業継続を支援します。
- 高齢者施設等に対して、「高齢者施設等における新型コロナ感染者発生対応マニュアル」に基づく感染防止対策の取組を促進するとともに、感染拡大防止対策に係る研修・訓練の実施について指導を行います。
- 感染症発生時に備え、関係団体と連携して応援体制の構築・充実を図り、必要なサービスを継続して提供できるよう支援を行います。

第7章 介護人材の育成・確保及び介護現場の生産性向上

第1節 介護人材の現状と将来推計

【現状・課題】

- 本県の高齢化率は2040(令和22)年には38.8%と約5人に2人が65歳以上になることが予想されています。既に減少に転じている生産年齢人口の減少が加速する中で、医療・介護双方のニーズを有する85歳以上人口は2040(令和22)年にピークに近づくと見込まれており、今後、介護に対するニーズはますます高まり、介護職員不足が一層深刻化することが予想されています。
- 国立社会保障・人口問題研究所による本県の推計人口、市町村における介護サービス利用者数等に基づく推計によると、2040(令和22)年から2045(令和27)年にかけて、介護職員が8~9千人不足すると見込まれています。

このため、介護人材確保に係る各種施策に取り組んでおり、外国人介護人材についても「かごしま外国人材受入活躍推進戦略」(令和2年3月策定)に基づき、確保を図っているところです。

- 中長期的な介護ニーズ等を勘案し、2040(令和22)年に向けて必要となる介護人材を確保できるよう、介護現場における生産性向上の推進など、引き続き、対策の強化を図る必要があります。

【図表7-1-1】介護職員の将来推計(実人数) (単位:人)

| 区 分 | 介護職員数 (需要推計) | 介護職員数 (供給推計) | 介護職員数 (需要と供給の差) |
|-------------|-----------------|-----------------|--------------------|
| 2026(令和8)年 | 35,820 | 33,248 | 2,572 |
| 2040(令和22)年 | 38,778 | 30,584 | 8,194 |
| 2045(令和27)年 | 37,810 | 28,987 | 8,823 |

[厚生労働省作成の介護人材需給推計ワークシートに基づき県高齢者生き生き推進課推計]

【参考】介護職員の将来推計(常勤換算) (単位:人)

| 区 分 | 介護職員数 (需要推計) | 介護職員数 (供給推計) | 介護職員数 (需要と供給の差) |
|-------------|-----------------|-----------------|--------------------|
| 2026(令和8)年 | 28,663 | 25,072 | 3,591 |
| 2040(令和22)年 | 30,927 | 22,879 | 8,048 |
| 2045(令和27)年 | 30,152 | 21,656 | 8,496 |

[厚生労働省作成の介護人材需給推計ワークシートに基づき県高齢者生き生き推進課推計]

【施策の方向】

- 介護人材の確保・定着へ向けた総合的な取組を実施するため、事業者団体や関係機関などで構成する協議の場を活用し、介護の仕事の社会的評価の向上、労働環境・処遇の改善等に関する取組に向けた検討を行います。

第2節 介護人材の確保対策の推進及び介護現場の生産性向上

【現状・課題】

- さまざまな産業において、人手不足が深刻化する中、本県の令和5年5月時点の介護関係の新規求人倍率は3.57倍で、全産業の1.88倍より高くなっており、介護人材の確保が困難となっています。

また、公益財団法人介護労働安定センターが行っている令和4年度の「介護労働実態調査」によると、令和3年10月1日から令和4年9月30日までの1年間における県内の介護職員の離職率は16.2%、訪問介護員は14.0%となっています。

引き続き、関係団体や市町村と連携を図りながら、介護人材の確保・定着に向けて地域医療介護総合確保基金を活用し「参入促進」「資質向上」「労働環境・処遇の改善」を柱とした各種施策の取組を推進し、また、介護業界独自の取組についても促進する必要があります。

ア 介護支援専門員（ケアマネジャー）

介護支援専門員は、公平・公正・中立な立場で、要介護者等からの相談に応じ、利用者や家族の希望や心身の状況を踏まえた介護サービス計画を作成するとともに、計画に沿って適切な介護サービスが利用できるよう介護サービス事業者等との連絡調整を行うことから、介護保険制度の適切かつ円滑な運営を推進する上で要となる職種であり、制度の理解や定着、在宅介護サービスの拡充などの点で、大きな役割を担っています。

介護支援専門員がその役割を十分に果たすためには、サービス需要の増加に応じた養成が求められるとともに、資質や専門性の向上、活動を支援するための取組が重要であり、専門研修Ⅰ・Ⅱ等の法定研修の受講はもとより、介護支援専門員本人が専門職として自己研鑽に努めることが必要です。

イ 訪問介護員（ホームヘルパー）

訪問介護員は、サービス利用者の居宅において、入浴・排泄・食事などの身体介護のほか、掃除や洗濯などの日常生活上の援助を行います。

令和4年度末までに90,141人が養成研修を修了していますが、訪問介護員については、職員の高齢化や施設介護員と比較して有効求人倍率が高くなっているなど、訪問介護員の不足が一層深刻化しています。未経験者の介護職への参入促進や、要介護認定者や認知症の方等へ必要なケアが提供できるよう、質の高い訪問介護員等の育成が求められています。

ウ 社会福祉士及び介護福祉士

社会福祉士及び介護福祉士は、それぞれ福祉に関する相談援助や介護援助の専門家としての役割を期待されており、今後の福祉ニーズの多様化・高度化に対応するため、その確保に努めてきた結果、県内では令和4年度末で社会福祉士が3,410人、介護福祉士が33,780人登録されています。

少子化及び福祉・介護職場の厳しい労働条件等により、福祉・介護職に就職を希望する者が減少し、また、介護福祉士等養成施設の入学者が減少していることなどから、福祉・介護現場の人材確保が厳しくなりつつあります。

社会福祉士及び介護福祉士については、社会福祉士及び介護福祉士法において、それぞれ契約による福祉サービスの利用や在宅での生活支援等の相談援助のほか、保健・医療・福祉従事者等と連携を図りながら、多様な福祉サービスを効果的に実施するために、その役割の位置づけがなされたところであり、今後とも、その重要性が増していくことから、より一層の人材の確保と質の向上を図る必要があります。

【図表7-2-1】介護支援専門員実務研修修了者数 (単位:人)

| | 平成10～23年度 | 平成24～26年度 | 平成27～29年度 | 平成30～令和2年度 | 令和3～4年度 |
|-----|-----------|-----------|-----------|------------|---------|
| 修了者 | 9,487 | 1,319 | 968 | 372 | 371 |
| 累計 | 9,487 | 10,806 | 11,774 | 12,146 | 12,517 |

[県高齢者生き生き推進課作成]

【図表7-2-2】訪問介護員養成研修修了者 (単位:人)

| 年度 | 基礎 | 1級 | 2級 | 3級 | 初任者 | 計 |
|----------|-----|--------|--------|-------|-------|--------|
| 令和3年度末累計 | 945 | 15,709 | 54,079 | 9,482 | 9,237 | 89,452 |
| 令和4年度 | | | | | 689 | 689 |
| 計 | 945 | 15,709 | 54,079 | 9,482 | 9,926 | 90,141 |

(注) 基礎と1級は介護福祉士養成のための実務者研修へ、2級及び3級は初任者研修へ移行している。

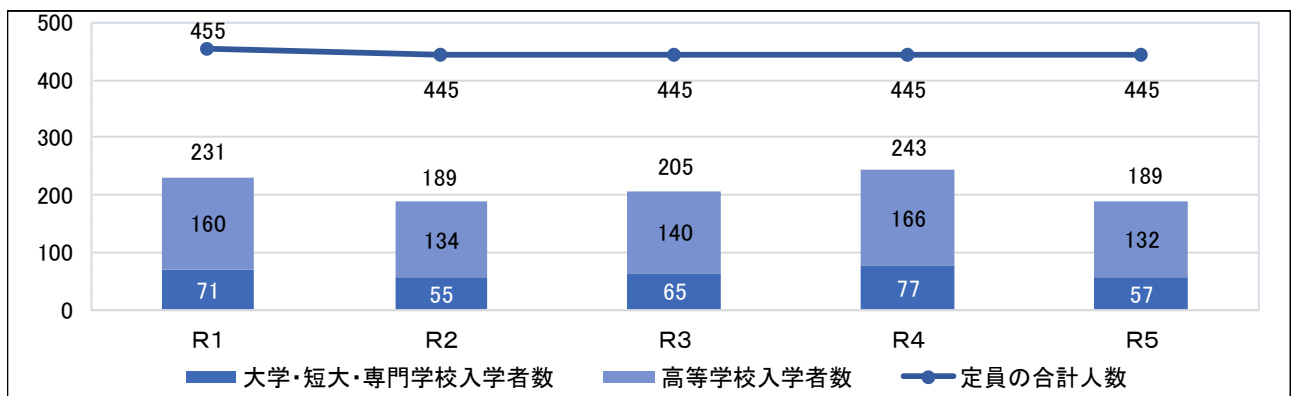
[県高齢者生き生き推進課作成]

【図表7-2-3】社会福祉士及び介護福祉士の年度末登録者数 (単位:人)

| 区分 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|-------|--------|--------|
| 社会福祉士 | 3,234 | 3,410 |
| 介護福祉士 | 32,782 | 33,780 |

[(財)社会福祉振興・試験センター公表[都道府県別登録者数]]

【図表7-2-4】本県の介護福祉士養成学校の入学状況 (単位:人)



[県高齢者生き生き推進課作成]

- 医師や看護師、薬剤師等についても、高齢者が、質の高い保健・医療・福祉に関するサービスを随時、的確に受けられるようにするため、人材の育成や地域的偏在の解消及び復職支援等による人材の確保を図る必要があります。

【図表7-2-5】医師、保健師、准看護師、薬剤師の人口10万人当たりの対比

(単位:人)

| | 医師 | 保健師 | 看護師 | 准看護師 | 薬剤師 |
|----|-------|------|---------|-------|-------|
| 全国 | 269.2 | 44.1 | 1,015.4 | 225.6 | 255.2 |
| 本県 | 293.0 | 64.7 | 1,476.0 | 523.1 | 205.6 |

[令和2年医師・歯科医師・薬剤師統計及び令和2年衛生行政報告例]

■ 各論 第7章 第2節 ■

【図表7-2-6】医師の圏域別就業者数（人口10万人対）（単位：人）

| 医療圏 | 鹿児島 | 南薩 | 川薩 | 出水 | 姶・伊 | 曾於 | 肝属 | 熊毛 | 奄美 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 425.6 | 239.2 | 238.8 | 179.1 | 199.1 | 117.3 | 204.3 | 123.9 | 180.3 |

[令和2年医師・歯科医師・薬剤師統計，令和2年国勢調査人口等基本集計結果]

| 県 | 国 |
|-------|-------|
| 293.0 | 269.2 |

【図表7-2-7】看護師・准看護師の圏域別就業者数（人口10万人対）（単位：人）

| 医療圏 | 鹿児島 | 南薩 | 川薩 | 出水 | 姶・伊 | 曾於 | 肝属 | 熊毛 | 奄美 |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|---------|-------|---------|
| 看護師 | 1,734.7 | 1,455.1 | 1,200.2 | 1,156.0 | 1,429.3 | 890.4 | 1,315.8 | 809.1 | 1,395.3 |
| 准看護師 | 401.5 | 942.3 | 606.3 | 599.0 | 534.2 | 531.8 | 599.4 | 538.6 | 505.4 |

[令和2年衛生行政報告例，看護職員業務従事届を基に医師・介護人材課作成]

| 県 | 国 |
|---------|---------|
| 1,476.0 | 1,015.4 |
| 523.1 | 225.6 |

【図表7-2-8】理学療法士及び作業療法士の従事者数（常勤換算）及び人口対比（単位：人）

| 区分 | 本 県 | | 全 国 | |
|-------|---------|--------|-----------|--------|
| | 従業者数 | 人口10万対 | 従事者数 | 人口10万対 |
| 理学療法士 | 2,794.5 | 176.0 | 100,964.5 | 80.0 |
| 作業療法士 | 1,351.5 | 85.1 | 51,055.7 | 40.5 |
| 言語聴覚士 | 421.2 | 26.5 | 17,905.4 | 14.2 |

[県：令和2年衛生行政報告例，国：令和2年医療施設調査・病院報告]

【図表7-2-9】歯科医師の人口比（単位：人）

| 区分 | 本 県 | | 全 国 | |
|------|-------|--------|---------|--------|
| | 従業者数 | 人口10万対 | 従事者数 | 人口10万対 |
| 歯科医師 | 1,352 | 85.1 | 107,443 | 85.2 |

[令和2年医師・歯科医師・薬剤師統計]

【図表7-2-10】歯科衛生士従事者数及び人口対比（単位：人）

| 区分 | 本 県 | | 全 国 | |
|-------|---------|--------|-----------|--------|
| | 従業者数 | 人口10万対 | 従事者数 | 人口10万対 |
| 歯科衛生士 | 1,752.0 | 110.3 | 131,303.6 | 104.1 |

[県：令和2年衛生行政報告例，国：令和2年医療施設調査・病院報告]

【図表7-2-11】管理栄養士及び栄養士の配置状況

| 区 分 | 管理栄養士・栄養士数 (人) | 給食施設数 | | 配置率 (%) | |
|----------|-------------------|----------------------|-------|------------|------|
| | | うち管理栄養士・ 栄養士の配置あり | | 本 県 | 全 国 |
| 給食施設 | 2,575 | 1,567 | 1,320 | 84.2 | 67.0 |
| 特定給食施設 | 1,399 | 620 | 553 | 89.2 | 75.5 |
| その他の給食施設 | 1,176 | 947 | 767 | 81.0 | 58.5 |

[令和2年衛生行政報告例]

○ 高齢化の進行や要介護度の重度化に伴い，たんの吸引等の医療的ケアを必要とする要介護者が増加傾向にあります。

介護職員によるたんの吸引等については，将来にわたってより安全な提供を行えるよう，今後

とも、たんの吸引等の行為を適切に行える人材の育成とともに、実地研修の指導者となる指導看護師の養成が求められています。

【図表7-2-12】認定特定行為業務従事者認定証交付状況 (単位：人)

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|-------------------------|-------|-------|-------|
| 第1号研修 ^{*1} 修了者 | 12 | 9 | 7 |
| 第2号研修 ^{*2} 修了者 | 153 | 132 | 131 |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

【図表7-2-13】たんの吸引等の研修を行う指導者の養成状況 (単位：人)

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|-----------|-------|-------|-------|
| 指導者講習修了者数 | 55 | 78 | 69 |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

- 令和5年4月時点の介護職員処遇改善加算の取得割合は93%、介護職員等特定処遇改善加算の取得率は61%となっており、介護職員の処遇は改善されつつありますが、本県の介護職員の平均給与は全産業平均給与と比較すると依然として低い状況にあります。

更なる介護職員の処遇改善を推進するため、介護事業所に対し、これらの加算の取得に向けた支援を継続する必要があります。

- 令和6年6月から、経験・技能のある職員に重点的に配分するルールに統一した上で、介護職員等処遇改善加算に一本化される予定です。

【図表7-2-14】介護職員処遇改善加算取得状況 (令和5年4月分)

| 対象事業者数 | 介護職員処遇改善加算請求事業者数 | 取得率(%) | 加算I 請求事業者数 | 加算I 取得率(%) |
|--------|------------------|--------|---------------|---------------|
| 2,383 | 2,223 | 93 | 1,866 | 78 |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

【図表7-2-15】介護職員等特定処遇改善加算請求状況 (令和5年4月分)

| 対象事業者数 | 介護職員等特定処遇改善加算請求事業者数 | 請求率(%) |
|--------|---------------------|--------|
| 2,383 | 1,462 | 61 |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

*1 第1号研修…①口腔内の喀痰吸引、②鼻腔内の喀痰吸引、③気管カニューレ内部の喀痰吸引、④胃ろう又は腸ろうによる経管栄養、⑤経鼻管栄養の5つの喀痰吸引等行為のうち、全ての行為を行う研修

*2 第2号研修…5つの喀痰吸引等行為のうち、1つから4つの行為を行う研修

【図表7-2-16】介護職員の処遇改善加算の見直し（令和6年6月以降）

| 介護職員の処遇改善 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---------------|-------|---------------|-------|---------------|------|------------------|------|------------------|------|------------------|------|---|----------------|------------|----------------|------------|----------------|------------|----------------|------------|
| 介護職員の処遇改善（令和6年6月施行） | 告示改正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>■ 介護現場で働く方々にとって、令和6年度に2.5%、令和7年度に2.0%のベースアップへと確実につながるよう加算率の引き上げを行う。</p> <p>■ 介護職員等の確保に向けて、介護職員の処遇改善のための措置ができるだけ多くの事業所に活用されるよう推進する観点から、介護職員処遇改善加算、介護職員等特定処遇改善加算、介護職員等ベースアップ等支援加算について、現行の各加算・各区分の要件及び加算率を組み合わせた4段階の「介護職員等処遇改善加算」に一本化を行う。</p> <p>※ 一本化後の加算については、事業所内での柔軟な職種間配分を認める。また、人材確保に向けてより効果的な要件とする等の観点から、月額賃金の改善に関する要件及び職場環境等要件を見直す。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【訪問介護、訪問入浴介護★、通所介護、地域密着型通所介護、療養通所介護、認知症対応型通所介護★、通所リハビリテーション★、短期入所生活介護★、短期入所療養介護★、特定施設入居者生活介護★、地域密着型特定施設入居者生活介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、夜間対応型訪問介護、小規模多機能型居宅介護★、認知症対応型共同生活介護★、看護小規模多機能型居宅介護、介護老人福祉施設、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護、介護老人保健施設、介護医療院】</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p><現行></p> <table border="0"> <tr><td>介護職員処遇改善加算(Ⅰ)</td><td>13.7%</td></tr> <tr><td>介護職員処遇改善加算(Ⅱ)</td><td>10.0%</td></tr> <tr><td>介護職員処遇改善加算(Ⅲ)</td><td>5.5%</td></tr> <tr><td>介護職員等特定処遇改善加算(Ⅰ)</td><td>6.3%</td></tr> <tr><td>介護職員等特定処遇改善加算(Ⅱ)</td><td>4.2%</td></tr> <tr><td>介護職員等ベースアップ等支援加算</td><td>2.4%</td></tr> </table> | 介護職員処遇改善加算(Ⅰ) | 13.7% | 介護職員処遇改善加算(Ⅱ) | 10.0% | 介護職員処遇改善加算(Ⅲ) | 5.5% | 介護職員等特定処遇改善加算(Ⅰ) | 6.3% | 介護職員等特定処遇改善加算(Ⅱ) | 4.2% | 介護職員等ベースアップ等支援加算 | 2.4% | <p><改定後></p> <table border="0"> <tr><td>介護職員等処遇改善加算(Ⅰ)</td><td>24.5% (新設)</td></tr> <tr><td>介護職員等処遇改善加算(Ⅱ)</td><td>22.4% (新設)</td></tr> <tr><td>介護職員等処遇改善加算(Ⅲ)</td><td>18.2% (新設)</td></tr> <tr><td>介護職員等処遇改善加算(Ⅳ)</td><td>14.5% (新設)</td></tr> </table> <p>※：加算率はサービス毎の介護職員の常勤換算職員数に基づき設定しており、上記は訪問介護の例。処遇改善加算を除く加算後の総報酬単位数に上記の加算率を乗じる。 ※：上記の訪問介護の場合、現行の3加算の取得状況に基づく加算率と比べて、改定後の加算率は2.1%ポイント引き上げられている。 ※：なお、経過措置区分として、令和6年度末まで介護職員等処遇改善加算(V)(1)～(14)を設け、現行の3加算の取得状況に基づく加算率を維持した上で、今般の改定による加算率の引き上げを受けることができるようにする。</p> | 介護職員等処遇改善加算(Ⅰ) | 24.5% (新設) | 介護職員等処遇改善加算(Ⅱ) | 22.4% (新設) | 介護職員等処遇改善加算(Ⅲ) | 18.2% (新設) | 介護職員等処遇改善加算(Ⅳ) | 14.5% (新設) |
| 介護職員処遇改善加算(Ⅰ) | 13.7% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 介護職員処遇改善加算(Ⅱ) | 10.0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 介護職員処遇改善加算(Ⅲ) | 5.5% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 介護職員等特定処遇改善加算(Ⅰ) | 6.3% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 介護職員等特定処遇改善加算(Ⅱ) | 4.2% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 介護職員等ベースアップ等支援加算 | 2.4% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 介護職員等処遇改善加算(Ⅰ) | 24.5% (新設) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 介護職員等処遇改善加算(Ⅱ) | 22.4% (新設) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 介護職員等処遇改善加算(Ⅲ) | 18.2% (新設) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 介護職員等処遇改善加算(Ⅳ) | 14.5% (新設) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(注) 令和6年度末までの経過措置期間を設け、加算率（上記）並びに月額賃金改善に関する要件及び職場環境等要件に関する激変緩和措置を講じる。

- 労働基準法や労働関係法令の遵守は、介護人材の確保・定着を図る上でも重要な課題であることから、引き続き、介護サービス事業所に対し、労働関係法令の理解と重要性を認識してもらうための取組を進める必要があります。
- (公財)介護労働安定センターが行った令和4年度の「介護労働実態調査」によると、本県の介護職員が抱える働く上での悩み、不安、不満については、「人手が足りない」が52.0%、「仕事内容のわりに賃金が安い」が34.9%、「健康面(感染症、怪我)の不安がある」が29.7%となっています。
- 介護保険制度の創設から20年以上が経過する中で、サービス類型が増加し、介護職員処遇改善加算をはじめとする新たな加算が創設されるなど、指定申請、報酬請求及び指導監査に関する制度及び手続きが複雑化し、事業者、行政双方で文書に係る負担が増加しています。
- 介護報酬を請求するには、サービス提供記録を所定の様式で提出する必要があるため、電子化が進んでいない介護サービス事業所では一度記録した内容を転記する作業が生じており、介護職員の負担となっています。
- 介護分野の文書負担軽減の観点から、指定申請や報酬請求等に係る国が示している標準書式と「電子申請・届出システム」の使用の基本原則化が進められています。
- 介護事業所間、医療・介護間での連携を円滑に進めるため、デジタル技術を活用した医療・介護情報基盤の整備を進める必要があります。

- 今後、介護人材を安定的に確保するためには、元気高齢者や子育てが落ち着いた世代などの多様な人材の参入を促すとともに、介護現場の業務の効率化による介護職員の負担を軽減する生産性向上の取組や、ハラスメント対策を含めた働きやすい職場づくりに向けた取組を推進していくことが重要です。

【施策の方向】

- 介護人材、在宅医療を担う訪問看護師、介護支援専門員、生活支援サービスの担い手及び生活支援コーディネーターなどについて、多様な人材の参入促進、資質の向上、労働環境・処遇の改善等に取り組みます。

1 参入促進

- 介護分野への多様な人材の参入促進を図るため、介護体験・施設見学や「介護の日」のイベント、SNSによる情報発信（※）を行うなど、様々な機会を通じて介護の仕事の社会的評価の向上に努めます。

※ ケア★スタ（フェイスブック、ケア★スタ サミット等）の取組

「ケア★スタ」(Care Star&Care Staff) とは、キラキラ輝く介護職をイメージした愛称で、さまざまな機会を捉えて「ケア★スタ」(介護職) の魅力を発信しています。

- ① 県高齢者生き生き推進課公式フェイスブック及びX (旧Twitter) 「ケア★スタ」における若手介護職員等の紹介
- ② 「ケア★スタ サミット」(若手介護職員等を対象とした意見交換会)
- ③ 若手介護職員が県内の福祉科のある高校で訪問授業を実施

- 高齢者等を対象としたセミナー等を実施し、介護分野への元気高齢者等の参入を促進します。
- 将来の地域福祉を担う人材である小・中学生を対象としたイベントや体験教室を実施し、高齢者や障害のある人、介護の仕事への理解を深めるよう努めます。
- 介護の入門的研修事業等を実施することにより、介護分野への参入のきっかけを作るとともに、介護事業所等において新規に雇用した無資格者に係る人件費及び介護職員初任者研修の受講等に要する経費を助成します。
- 介護人材が不足する中で、幅広い世代の者が、介護分野の周辺業務等へのボランティア活動を行うことに対して地域商品券等に交換可能なポイントを付与する制度の活用により、介護人材や地域で高齢者を支える人材の裾野拡大を図ります。また、地域の高齢者の団体が取り組む互助活動等に対して、地域振興券等に交換可能なポイントを付与する制度を活用することにより、総合事業や生活支援、通いの場の担い手の確保を支援します。
- 介護福祉士など介護分野の人材については、県福祉人材・研修センターが行う無料職業紹介事業や就職説明会等の実施による求人・求職に関する情報等の提供や、キャリア支援専門員による求職者と求人事業所とのマッチング、介護福祉士の資格取得を目指す学生に対応する修学資金や離職した介護職員等に対する再就職準備金等の貸付、離職介護職員に対し支援を行う登録制度の構築等により、確保に努めます。

2 資質向上

- 職位・職責に応じた研修の受講や介護職として必要なスキルアップに向けた研修の受講を促進するため、介護員養成研修や実務者研修等の受講費用や関係団体が実施する各種研修経費への助

■各論 第7章 第2節■

成を行うとともに、介護職員チームリーダー養成研修等を実施し、介護職員のキャリアアップを支援します。

- 介護職員等によるたんの吸引等の行為が、安全かつ適切に実施されるよう、実地研修の指導者となる指導看護師の養成研修を行うとともに、登録研修機関や喀痰吸引等事業者（特定行為事業者）の育成・確保を図ります。
- 高齢者の状態や介護ニーズ等の変化、処遇困難事例などに対応できる質の高い介護支援専門員を育成・確保するため、資格取得時や更新時（5年ごと）の研修及び業務経験などに応じた現任研修を常に新たな内容を取り入れながら実施するとともに、令和6年4月に施行予定である各研修カリキュラムに基づき、地域包括ケアシステムの中で、多職種と連携・協働しながら、利用者の尊厳を旨とした自立支援に資するケアマネジメントを推進し、専門性や資質の向上を図ります。
- 訪問介護員については、利用者のニーズや認知症高齢者等に対応した質の高いサービスを提供できるよう、今後とも介護員養成事業者による初任者研修等の適正な実施と指導等を通じて、資質の向上とその確保を図ります。

3 労働環境・処遇の改善等

- 介護職員処遇改善加算、介護職員等特定処遇改善加算及び介護職員等ベースアップ等支援加算により、賃金改善が図られるとともに、介護事業所におけるキャリア・パス（昇進・研修体系等）が構築されてきたところであり、今後とも、介護職員の確保・定着に向けて、就業実態などの現状把握に努めます。
また、実情に応じて、介護報酬や人員配置基準などについて国に要望するとともに、関係機関と連携して労働環境等の改善を図ります。
- 事業者に対し、賃金改善のための介護職員等処遇改善加算の取得に向けた取組を促進して、介護職員の処遇の改善を図るとともに、将来のキャリアデザインを描けるようなキャリアパスの構築や生涯を通じて働き続けられる環境整備を推進します。
- 介護事業所の中には、労働関係法令についての内容理解及び重要性の認識が不十分な事業所もあることから、今後とも、労働基準監督署等と連携しながら、介護事業所に対する集団指導等において労働法規の遵守に加え、基本的な労働条件の改善等について指導・助言を行います。
ハラスメント対策については、男女雇用機会均等法等において事業者の責務とされていることを踏まえ、必要な措置を講ずるよう指導・助言を行います。
また、介護事業所の経営者や管理者等に対し、雇用管理改善やハラスメントに関する研修等を行うとともに、認証評価制度の導入を検討するなど、意識改革を図りながら労働環境の改善を推進します。
- 介護事業所において子育て世代の就労環境を確保するため、施設内保育施設の設置などの普及啓発に努め、働きながら子育てのできる環境の構築を支援します。

4 介護現場の生産性の向上

- 元気高齢者等の介護現場への参入を促し、介護業務の機能を分化し、身体介護といった専門的業務以外の清掃や配膳、シーツ交換といった周辺業務を担ってもらうことにより、新たな介護人材の確保・定着を推進し、介護職員の負担軽減を図ります。
- 介護職員の働きやすい環境を整備するため、引き続き、身体的負担の軽減や業務の効率化に有効な介護ロボットの導入を支援します。

- 介護記録・情報共有・報酬請求等の業務の効率化を通じて、職員の負担軽減を図るため、引き続き、介護記録から請求業務まで一元的に管理できる介護ソフトやインカム、タブレット端末等のICTの導入を支援します。
- 介護分野のDX化により、市町村において様々なデータの利活用が推進され、介護サービスが効果的かつ効率的に提供されるよう支援に努めます。
また、医療と介護のDX化による連携については、今後とも、国の議論を注視し具体的な内容やスケジュール等について把握に努め、関係機関とも情報共有してまいります。
- 文書負担の軽減を図るため、指定申請や報酬請求等に係る国が定める標準様式及び「電子申請・届出システム」の活用を推進します。
- 広く域内の介護サービスの情報を把握し、地域の実情を踏まえ、福祉関係者、中小企業支援や雇用、教育など多様な関係者・有識者で構成する介護現場革新のための会議の開催、介護生産性向上に向けた支援窓口の設置やモデル事業所等の育成及びその取組の伝播など、総合的かつ横断的に介護現場の生産性の向上の取組を進めます。
- 地域においても介護現場の生産性向上や介護人材確保策の支援を行うなど、市町村、関係団体、教育機関等と連携した取組の促進を図ります。

5 外国人介護人材の受入推進

- 外国人介護人材の県内介護施設への受入れを促進するため、県内介護施設等で就労を希望する特定技能外国人と介護施設等とのマッチングを支援し、介護人材の確保を図ります。
- 経済連携協定（EPA）に基づき入国する外国人介護福祉士候補者が円滑に就労・研修ができるよう、受入施設に対する支援を行うとともに、外国人留学生在が円滑に介護福祉士国家試験に合格し就労できるよう、当該留学生を受け入れた介護福祉士養成施設に対して、カリキュラム外の日本語学習や専門知識の強化等に係る費用を助成し、外国人の介護福祉士資格取得の促進を図ります。
- 県内介護施設での就労を希望する外国人留学生を支援する県内介護施設等に対して、学費等の給付等に係る経費の一部を助成することにより、介護福祉士の確保を図ります。
- 外国人介護人材受入施設に対して、外国人介護職員とのコミュニケーション促進、学習支援、生活支援等に要する費用の一部を助成し、介護施設等で勤務・研修を行う外国人介護職員の円滑な就労を支援します。
- 外国人介護人材が、県内の介護施設等で円滑に就労できるよう、介護に関する技術や日本語などの研修を実施します。

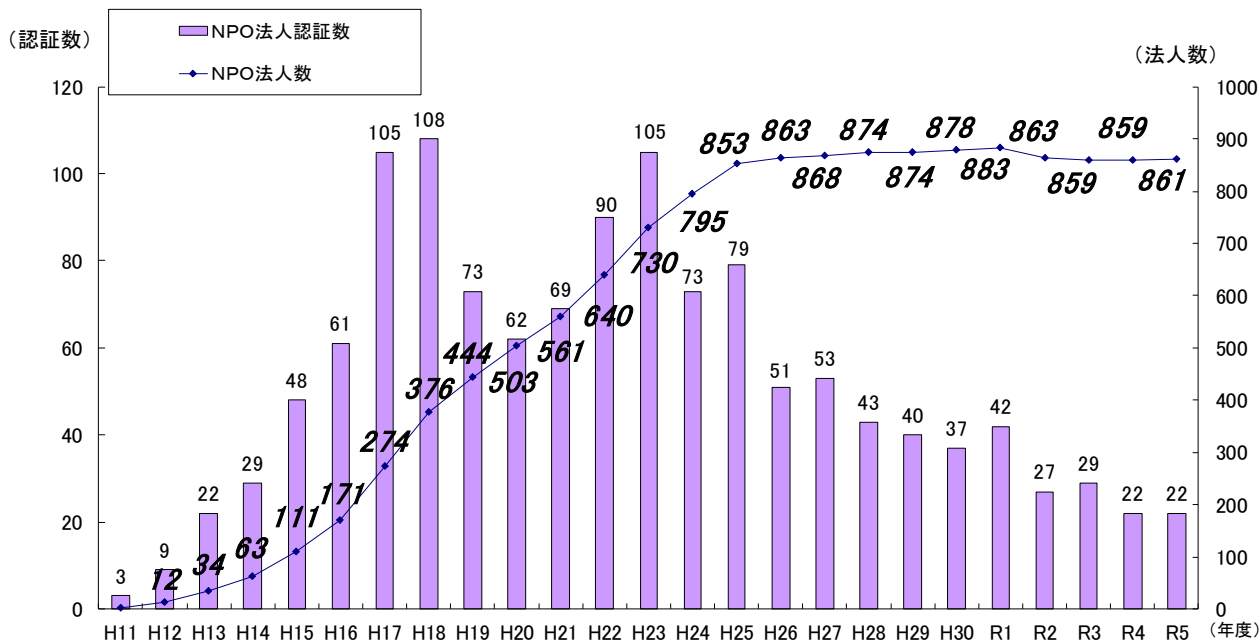
第3節 NPO、ボランティア等の多様な活動の推進

【現状・課題】

- 人口減少や少子高齢化の急速な進行などにより、地域を取り巻く環境が厳しさを増しており、多様化・複雑化する地域課題を解決するためには、地域コミュニティ、NPO、企業などがそれぞれの特性を生かし、役割を最大限に発揮していくことが必要です。

- これらの多様な主体による地域課題の解決に向けた様々な地域づくり活動が積極的に展開されています。
- このような活動を担う人材や団体を育成し、高齢者が抱える課題の解決や高齢者に係る公共サービスの提供を行う取組を一層促進させることが必要です。

【図表7-3-1】NPO法人数の推移



(注1) 各年度のデータは年度末現在。ただし、令和5年度は令和5年11月末現在。

(注2) 解散法人等があるため、認証数の累計は、法人数と一致しない。

(注3) 861法人のうち620法人が保健・医療・福祉分野を定款の活動目的に記載。

[県共生・協働センター調べ]

- ボランティアの育成については、県社会福祉協議会や市町村社会福祉協議会を通じて、県内におけるボランティア情報の提供を進めるとともに、人材の育成・確保に努めています。
- 小・中・高校においては、「総合的な学習の時間」等において福祉や介護に関する体験活動を行うなど、社会福祉についての理解を深めるとともに、地域課題の解決等を通じて社会に主体的に参画する態度の育成に努めています。さらに、高校生介護等体験特別事業等による福祉教育の推進や、次代を担う子どもたちに思いやりの心や助け合いの心など「福祉の心」について理解を深めてもらい、将来、心豊かな社会人に成長してもらうことを目的に児童・生徒のボランティアポイント制度を実施しています。
- 大学生によるボランティア活動が広がりを見せる中、県内の大学生や短期大学生によるボランティア活動の更なる活性化やボランティアサークルの活動促進を図っています。
- 今後、高齢化の進行に伴い、さらに支援を必要とする者の増加が見込まれることから、支援を必要とする人々が住み慣れた地域で安心して生活できるように、ボランティア活動の一層の推進が必要です。
- 福祉に対するニーズがますます複雑化・多様化する中で、ボランティアの多様な取組が期待されています。

【施策の方向】

- 地域のニーズや資源を踏まえつつ積極的に地域活動に取り組むリーダーやコーディネーター等の人材育成を図ります。
- 様々な広報媒体を活用して、共生・協働の地域づくりの意義や県内各地での各種団体の活動状況等について情報発信することにより、助け合い、支え合う意識や、地域づくりに「共に取り組む」気運の醸成に努めます。
- 地域包括ケアシステムの深化・推進の取組とも連携し、地域課題の解決に向けた効果的なコミュニティ・プラットフォームづくりを促進します。
- ボランティアの受け手の特性やニーズに応じて必要なサービスを提供するため、ボランティアのネットワーク化を推進し、ボランティアの需要と供給の効果的な調整を図ります。
- 社会福祉に関する理解を深めるため、ボランティア講座の開催やサマーボランティア体験月間の実施など各種施策を推進するとともに、学校における「総合的な学習の時間」等において福祉に関する体験活動を実施するなど、関係機関と連携を図りながら、地域と連携した総合的な取組の推進に努めます。
また、シニア層のボランティア活動への参加を促進します。
- ボランティア活動に参加しやすい体制づくりを推進することにより、住民が共に参加し、支え合う地域社会づくりを進めるため、ボランティア活動の拠点である県社会福祉協議会や市町村社会福祉協議会のボランティアセンターを通じて、ボランティアに関する啓発や登録・あっせんなどを行い、ボランティアの養成・確保を促進するとともに、活動が円滑に進むよう活動のコーディネートを行います。

第4節 県福祉人材・研修センターの充実等

【現状・課題】

- 福祉・介護分野においては、少子高齢化の下で、労働力人口の減少が見込まれることなどから、高い離職率と相まって常態的に求人募集が行われ、人手不足が生じているという状況にあります。
- 福祉・介護職場の人材定着のため、社会福祉に関する業務に従事する職員等を対象に研修を行い、専門的な知識と技能を習得させ、資質の向上を図っています。
- 県福祉人材・研修センターにおいては、利用者への福祉サービスの質の向上を目的に、専門的知識・技術や豊かな人間性を備えた質の高い人材の養成のほか、魅力ある職場づくりを推進するため、各種研修等の修了者や福祉業務への就労を希望する方々を福祉人材として登録するとともに、求職者と社会福祉施設等との間で就労をあっせんする無料職業紹介事業や就職面談会、キャリア支援専門員による求職者と求人事業所とのマッチング、離職介護福祉士等届出制度を活用した再就業支援等を行っています。
- 介護職の魅力を広く伝え、若者の介護職場への参入を促進するため、介護の仕事の理解促進事業に取り組んでいます。

【図表7-4-1】 求人・求職登録等の状況 (単位：人)

| 区 分 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|------|-------|-------|
| 求人登録 | 7,503 | 7,092 |
| 求職登録 | 892 | 764 |
| 紹 介 | 444 | 401 |
| 採 用 | 39 | 46 |

[県社会福祉課調べ]

【図表7-4-2】 社会福祉事業へ従事しようとする人への面談会等の開催状況

(単位：人)

| 区 分 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|--------|-------|-------|
| 求人事業者数 | 528 | 512 |
| 求職者数 | 1,364 | 1,356 |
| 求職参加者数 | 143 | 154 |
| 就職者数 | 16 | 14 |

[県社会福祉課調べ]

【施策の方向】

- 職員研修については、住民の福祉ニーズに対応したサービスを提供できるような研修や受講者にとって魅力ある研修となるよう、研修内容やコース編成について、更なる充実を図ります。
- 人材確保については、県福祉人材・研修センターによる無料職業紹介事業や就職面談会等を通じて求人事業者・求職者の情報等の提供を行うとともに、キャリア支援専門員による求職者と求人事業所とのマッチングによる就職支援、地域医療介護総合確保基金等を活用した介護の仕事の理解促進事業に取り組むことで、県民の福祉・介護職に関する理解と関心を深め、若者の介護職場への参入を促進するなど、求人事業者、求職者の双方の立場から福祉・介護職場の人材の確保に努めます。
- 離職介護福祉士等届出制度を活用し、登録者へ各種支援策の情報提供を行うことにより、再就業への支援につなげます。
- 若い世代や中高年層の介護・福祉現場への参入を促進するため、市町村、教育委員会、関係団体等と連携し、介護体験の実施等を通じて、介護・福祉に対する理解を深めてもらう取組を行います。
- 高齢者等を対象としたセミナーを行い、既存の参入促進事業への参加を推進します。

第8章 計画の推進対応

計画を効果的に推進していくための方策を定め、適切な進行管理を行います。

第1節 計画の進行管理

生産年齢人口が減少し続ける中で、医療・介護双方のニーズを有する85歳以上人口は2040(令和22)年にピークに近づく見通しです。国・地方を通じて厳しい財政状況が続く中で、高齢者の地域での生活を支えていくよう、本計画を実効性のあるものとするため、計画を評価するための目標を設定し、毎年度、主要な施策等の進捗状況を点検して、適切な進行管理に努めます。

また、進捗状況や状況の変化等に応じて、取組内容等を見直しながら、計画の効果的な推進に努めます。

1 計画における進行管理項目

本計画における各施策に係る目標を【図表8-1-1】に示します。

この目標については、本計画の作成過程における関係機関・団体等の意見や「健康かごしま21」「保健医療計画」など関連する計画における設定目標等を踏まえるとともに、「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」により目標を定めるものとされたことなどを考慮して設定しています。

また、このほか、高齢者の自立支援・重度化防止等の取組については、保険者機能強化推進交付金等における評価指標や本県の実情を踏まえながら、保険者機能の強化に資する市町村の取組に対して、必要な支援に努めます。

2 円滑な進行管理に向けた取組

目標の達成状況については、市町村、関係機関・団体も共有できるよう、県ホームページで公表するとともに、国に報告します。

また、当該達成状況を踏まえ、その後の取組に反映するよう努めます。

【図表8-1-1】鹿児島すこやか長寿プラン2024における目標

第1章 健康づくりと社会参加の推進

| 目標の対応項目 | | 目標項目 | 現況 | 目標値 | |
|---------|-----|----------|---|------------------|-------|
| 章 節 | 項 目 | | | | |
| 1 | 1 | 健康づくりの推進 | 長寿健診受診率 | 25.2% | 31.2% |
| | | | 76歳・78歳・80歳の口腔健診受診率 | 11.0% (78歳除く) | 12.0% |
| | | | 低栄養ハイリスクアプローチに取り組む市町村数 ※ハイリスクアプローチ: 栄養士等の訪問による個別指導 | 13市町村 | 23市町村 |
| | | | 口腔機能低下のハイリスクアプローチに取り組む市町村数 ※ハイリスクアプローチ: 歯科衛生士等の訪問による個別指導 | 11市町村 | 19市町村 |

第2章 地域包括ケアシステムの深化及び推進に向けた取組

| 目標の対応項目 | | 目標項目 | 現況 | 目標値 | |
|---------|-----|---------------------------|--|---------------|-------|
| 章 節 | 項 目 | | | | |
| 2 | 1 | 地域包括ケアシステムの深化及び推進に向けた体制整備 | 総合事業の評価、見直しに取り組んだ市町村数 | — | 全市町村 |
| | | | 地域ケア会議において複数の個別事例から地域課題を明らかにし、具体的なサービスの創出や、関係者間において具体的な協議の対応を行っている市町村数 | 23市町村 (R4) | 全市町村 |
| 2 | 3 | 介護予防の推進 | 「週1回以上、毎回運動を実施する」住民主体の通いの場に参加している高齢者の割合 | 3.7% (R4) | 5.0% |
| | | | 「月1回以上」住民主体の通いの場に参加している高齢者の割合 | 10% (R3) | 13% |
| 2 | 5 | 在宅医療・介護連携の推進 | 在宅療養支援病院・在宅療養支援診療所数 | 330ヶ所 (R3) | 360ヶ所 |
| | | | 退院調整率 | 90.1% (R4) | 95.0% |
| | | | 訪問看護ステーション利用実人員(高齢者人口1,000人当たり) | 17.3人 (R3) | 20.7人 |
| | | | 24時間体制訪問看護ステーションの割合 | 85.2% (R2) | 92.7% |
| | | | ACPの周知に取り組む市町村数 ※ACP(アドバンス・ケア・プランニング): 人生の最終段階において、自分自身が望む医療やケアについて、家族や医療・ケアチーム等と繰り返し話し合い共有する取組 | 34市町村 | 全市町村 |

第3章 認知症施策の推進と高齢者の尊厳の確保

| 目標の対応項目 | | 目標項目 | 現況 | 目標値 | |
|---------|-----|---------------------|----------------------------|----------------------------|----------|
| 章 節 | 項 目 | | | | |
| 3 | 1 | 認知症の相談窓口を知っている県民の割合 | 65歳以上58.4% 40歳～64歳55.0% | 65歳以上68.0% 40歳～64歳62.0% | |
| 3 | 2 | チームオレンジを整備する市町村数 | 8市町村 | 全市町村 | |
| 3 | 4 | 認知症の人やその家族への支援の充実 | 本人ミーティング等に取り組む市町村数 | 10市町村 | 20市町村 |
| | | | 認知症サポーターの養成数 | 204,362人 | 233,000人 |

第5章 介護給付等対象サービス基盤の充実

| 目標の対応項目 | | 目標項目 | 現況 | 目標値 | |
|---------|-----|--------------|--------------------------|-------|-------|
| 章 節 | 項 目 | | | | |
| 5 | 7 | 介護給付等の適正化の推進 | 給付実績帳票を活用したケアプラン点検実施市町村数 | 38市町村 | 全市町村 |
| | | | 専門職による住宅改修の施工前点検の体制構築 | 27市町村 | 33市町村 |

第7章 介護人材の育成・確保及び介護現場の生産性向上

| 目標の対応項目 | | 目標項目 | 現況 | 目標値 | |
|---------|-----|--------------------------|-----------------------|--------|--------|
| 章 節 | 項 目 | | | | |
| 7 | 2 | 介護人材の確保対策の推進及び介護現場の生産性向上 | 介護人材確保ポイント事業のポイント交換人数 | 1,062人 | 2,300人 |
| | | | 介護サービス事業所等におけるICT導入比率 | 40.5% | 64.5% |
| | | | 介護保険施設等における介護ロボット導入比率 | 19.2% | 43.2% |

第2節 関係機関・団体等との連携

1 医師会等との連携

高齢者が住み慣れた家庭や地域の中で安心して暮らしていくためには、生活習慣病の早期発見・早期治療及び入院加療・中間施設・在宅医療へと、一貫した保健・医療・福祉サービスの充実が必要です。

そのためには、地域医療の充実が重要であり、地域医療の担い手である開業医・開業歯科医等の役割はますます大きくなっています。

また、緊急入院や長期医療を伴う療養サービスが必要なことから、医師、歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、ケースワーカー、訪問介護員や介護支援専門員（ケアマネジャー）など、保健・医療・福祉関係者が連携した在宅ケアの充実も重要です。

在宅医療を充実し、地域の実情に応じたシステムづくりを促進するために、医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、栄養士会等との連携を図ります。

2 民生委員・児童委員、社会福祉協議会との連携

社会福祉に対するニーズが複雑化・多様化し、地域福祉の推進が重要な課題となっていることから、地域福祉を推進する上で、重要な担い手である民生委員・児童委員等に対し、住民のニーズの把握のために必要な情報の提供や研修を行うことにより連携を強化していきます。

社会福祉協議会については、地域福祉推進の中核として、ボランティア活動の推進、在宅福祉サービスの実施、福祉教育など、多様な地域福祉活動を主体的に実施することが期待されており、社会福祉協議会の基盤強化の促進を図るとともに、行政等との連携を推進します。

また、介護保険以外の福祉サービスの苦情等のうち、事業者段階の苦情解決体制では解決が困難なものや、権利侵害に関わる緊急案件の行政機関への通報等の業務に対応するため、引き続き、県社会福祉協議会に公正・中立な立場の「運営適正化委員会（苦情解決委員会）」を設置し、個人の立場に立った適切な福祉サービスが受けられるよう支援し、利用者からサービスに関する苦情や意見が出しやすい環境づくりを支援します。

3 地域の多様な主体との協働

高齢化が進行する中で、援護を必要とする人々にきめ細やかな福祉サービスを提供するためには、公的な福祉施策の充実と合わせて、地域における自治会、ボランティア、NPO等の多様な主体の参加と協力を得ることが重要です。

一方、保健・医療・福祉等やまちづくりなどの幅広い分野で、自治会やボランティア、NPO等などの自主的な取組が進んできているところであり、これら地域の多様な主体の自主性・自立性を尊重しつつ、保健・医療・福祉等の各種施策の展開の中で地域の多様な主体との協働を推進していくことが求められています。

このようなことから、地域全体で高齢者を温かく見守り、行政では対応が難しい福祉ニーズに対応するため、専門職や行政だけでなく、地域における多様な主体との協働を積極的に推進します。

第3節 推進体制の充実

県高齢者保健福祉計画は、高齢者の保健・医療・福祉全般にわたる計画であることから、高齢者が必要とする保健・医療・福祉サービスを計画的・効果的に提供できるように支援するため、県民一人ひとりの理解と協力のもとに、市町村や関係機関・団体等との連携を図りながら、庁内の関係部局が連携して計画の推進に当たることが必要です。

このため、県高齢社会対策推進本部を推進母体として、保健・福祉関連の施策だけでなく、広く産業振興、労働政策、住宅政策、まちづくり、生涯学習、交通安全、生活保安、危機管理、地域振興、共生・協働、消費生活等の施策と一体となって、計画を推進します。

■ 圏域編 ～鹿児島圏域～ ■

■ 圏域編 ■

～鹿児島圏域～

構成市町村（内訳：鹿児島市，日置市，いちき串木野市，三島村，十島村）

1 高齢者の状況 (単位：人，%)

| 区分 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | 令和2年 | 令和3年 | 令和4年 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総人口 | 690,906 | 688,887 | 679,508 | 668,916 | 666,793 | 663,874 |
| 高齢者人口 | 137,115 | 151,655 | 170,854 | 195,082 | 188,563 | 190,131 |
| 前期高齢者 | 71,036 | 72,516 | 85,146 | 98,340 | 95,772 | 94,969 |
| 後期高齢者 | 66,079 | 79,139 | 85,708 | 96,742 | 92,791 | 95,162 |
| 高齢化率 | 19.8 | 22.2 | 25.7 | 29.2 | 28.3 | 28.6 |

[令和2年までは国勢調査，令和3年～令和4年は県年齢別推計人口調査]

(総人口には年齢不詳が含まれる)

2 人口推計 (単位：人，%)

| 区分 | 令和7年 | 令和12年 | 令和17年 | 令和22年 | 令和27年 | 令和32年 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総人口 | 654,684 | 636,240 | 616,320 | 594,738 | 571,601 | 547,827 |
| 高齢者人口 | 206,226 | 210,510 | 212,394 | 216,668 | 217,376 | 214,062 |
| 前期高齢者 | 93,092 | 83,644 | 79,389 | 83,358 | 85,836 | 80,255 |
| 後期高齢者 | 113,134 | 126,866 | 133,005 | 133,310 | 131,540 | 133,807 |
| 高齢化率 | 31.5 | 33.1 | 34.5 | 36.4 | 38.0 | 39.1 |

[国立社会保障・人口問題研究所 [日本の地域別将来推計人口 (令和5年推計)]]

3 要介護（支援）認定者（第1号被保険者）の推移 (単位：人)

| 区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 第1号被保険者数(A) | 199,098 | 200,057 | 200,755 | 201,817 | 200,876 |
| 要支援1 | 6,554 | 6,617 | 6,723 | 7,307 | 7,937 |
| 要支援2 | 5,271 | 5,324 | 5,418 | 5,775 | 6,350 |
| 要介護1 | 9,153 | 9,179 | 9,289 | 9,944 | 11,135 |
| 要介護2 | 5,571 | 5,702 | 5,823 | 6,163 | 6,982 |
| 要介護3 | 4,478 | 4,455 | 4,491 | 4,762 | 5,425 |
| 要介護4 | 4,972 | 4,956 | 4,979 | 5,247 | 6,019 |
| 要介護5 | 3,962 | 4,025 | 4,057 | 4,261 | 4,830 |
| 計(B) | 39,961 | 40,258 | 40,780 | 43,459 | 48,678 |
| 認定率(B/A) | 20.1% | 20.1% | 20.3% | 21.5% | 24.2% |

[各市町村介護保険事業計画の推計値を県高齢者生き生き推進課で集計]

4 施設整備状況（令和5年度末実績見込み） (単位：施設数（定員数）)

| 施設種別 | 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) | 介護老人保健施設 | 介護療養型医療施設 | 介護医療院 | 特定施設入居者生活介護 (養護・軽費老人ホーム除く) |
|------|-------------------------|------------|-----------|---------|-------------------------------|
| | 64 (3,577) | 27 (1,908) | 0 (0) | 9 (368) | 18 (988) |

| 施設種別 | 認知症高齢者グループ ホーム | 養護老人ホーム | 軽費老人ホーム | 住宅型有料 老人ホーム | サービス付き高齢者向け住宅 (特定施設除く) |
|------|-------------------|---------|----------|----------------|---------------------------|
| | 150 (2,497) | 6 (325) | 18 (646) | 162 (4,152) | 46 (1,313) |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

5 サービス利用者等の見込み

(1) 介護サービス

① 介護給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 訪問介護(回数) | 1,163,776 | 1,167,938 | 1,167,398 | 1,240,014 | 1,408,723 |
| (2) 訪問入浴介護(回数) | 12,058 | 12,574 | 13,266 | 12,884 | 14,540 |
| (3) 訪問看護(回数) | 297,629 | 323,168 | 351,622 | 320,354 | 361,547 |
| (4) 訪問リハビリテーション(回数) | 290,026 | 294,559 | 298,960 | 323,392 | 366,836 |
| (5) 居宅療養管理指導(人数) | 90,288 | 91,344 | 92,328 | 100,044 | 113,544 |
| (6) 通所介護(回数) | 729,758 | 746,699 | 763,363 | 822,364 | 930,463 |
| (7) 通所リハビリテーション(回数) | 468,524 | 493,492 | 520,082 | 473,012 | 530,924 |
| (8) 短期入所生活介護(日数) | 118,990 | 124,790 | 131,612 | 124,592 | 141,184 |
| (9) 短期入所療養介護(日数) | 14,809 | 14,741 | 14,798 | 15,742 | 17,604 |
| (10) 特定施設入居者生活介護(人数) | 7,356 | 7,440 | 7,524 | 7,656 | 8,616 |
| (11) 福祉用具貸与(人数) | 135,120 | 138,156 | 140,784 | 151,740 | 171,696 |
| (12) 特定福祉用具販売(人数) | 2,148 | 2,160 | 2,196 | 2,328 | 2,640 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護(人数) | 9,996 | 10,500 | 11,016 | 10,392 | 11,832 |
| (2) 夜間対応型訪問介護(人数) | 120 | 132 | 228 | 228 | 288 |
| (3) 認知症対応型通所介護(回数) | 40,880 | 42,553 | 44,143 | 41,333 | 46,602 |
| (4) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 6,432 | 6,552 | 6,696 | 6,204 | 6,996 |
| (5) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 29,064 | 29,688 | 30,180 | 31,068 | 35,064 |
| (6) 地域密着型特定施設入居者生活介護(人数) | 972 | 972 | 984 | 1,056 | 1,200 |
| (7) 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(人数) | 2,328 | 2,328 | 2,328 | 2,448 | 2,700 |
| (8) 看護小規模多機能型居宅介護(人数) | 3,000 | 3,084 | 3,168 | 3,192 | 3,624 |
| (9) 地域密着型通所介護(回数) | 504,396 | 508,262 | 514,877 | 557,611 | 631,100 |
| 3 住宅改修(人数) | 1,692 | 1,656 | 1,668 | 1,788 | 2,016 |
| 4 居宅介護支援(人数) | 185,916 | 188,184 | 191,748 | 206,232 | 232,728 |
| 5 施設サービス | | | | | |
| 介護老人福祉施設(人数) | 36,624 | 37,620 | 38,628 | 37,884 | 42,852 |
| 介護老人保健施設(人数) | 20,028 | 20,028 | 20,028 | 21,480 | 23,988 |
| 介護医療院(人数) | 3,468 | 3,552 | 3,612 | 3,612 | 4,092 |

② 予防給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 介護予防訪問入浴介護(回数) | 94 | 94 | 94 | 94 | 94 |
| (2) 介護予防訪問看護(回数) | 22,312 | 24,090 | 26,045 | 23,726 | 25,727 |
| (3) 介護予防訪問リハビリテーション(回数) | 24,115 | 24,545 | 24,874 | 26,327 | 29,254 |
| (4) 介護予防居宅療養管理指導(人数) | 4,404 | 4,560 | 4,692 | 5,052 | 5,520 |
| (5) 介護予防通所リハビリテーション(人数) | 27,288 | 28,752 | 30,312 | 30,600 | 33,276 |
| (6) 介護予防短期入所生活介護(日数) | 1,542 | 1,602 | 1,662 | 1,446 | 1,566 |
| (7) 介護予防短期入所療養介護(日数) | 539 | 539 | 539 | 539 | 637 |
| (8) 介護予防特定施設入居者生活介護(人数) | 1,080 | 1,104 | 1,104 | 1,152 | 1,248 |
| (9) 介護予防福祉用具貸与(人数) | 38,916 | 39,312 | 39,540 | 42,420 | 46,308 |
| (10) 特定介護予防福祉用具販売(人数) | 840 | 864 | 852 | 912 | 996 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 認知症対応型通所介護(回数) | 276 | 276 | 276 | 276 | 276 |
| (2) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 708 | 708 | 732 | 780 | 852 |
| (3) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 144 | 144 | 144 | 156 | 180 |
| 3 住宅改修(人数) | 1,332 | 1,368 | 1,368 | 1,464 | 1,596 |
| 4 介護予防支援(人数) | 56,628 | 57,684 | 58,668 | 62,916 | 68,556 |

(2) 介護外サービス

| 区 分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|---------------------|-------|-------|-------|
| 養護老人ホーム(人／月) | 325 | 325 | 325 |
| 軽費老人ホーム(ケアハウス)(人／月) | 646 | 646 | 646 |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

～南薩圏域～

構成市町村（内訳：枕崎市，指宿市，南さつま市，南九州市）

1 高齢者の状況

（単位：人，％）

| 区分 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | 令和2年 | 令和3年 | 令和4年 |
|-------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 総人口 | 155,840 | 45,803 | 135,668 | 125,011 | 122,802 | 120,417 |
| 高齢者人口 | 49,400 | 48,650 | 49,061 | 50,105 | 50,086 | 50,004 |
| 前期高齢者 | 22,930 | 19,875 | 20,706 | 23,239 | 23,891 | 23,769 |
| 後期高齢者 | 26,470 | 28,775 | 28,355 | 26,866 | 26,195 | 26,235 |
| 高齢化率 | 31.7 | 33.4 | 36.2 | 40.1 | 40.8 | 41.5 |

[令和2年までは国勢調査, 令和3年～令和4年は県年齢別推計人口調査]
（総人口には年齢不詳が含まれる）

2 人口推計

（単位：人，％）

| 区分 | 令和7年 | 令和12年 | 令和17年 | 令和22年 | 令和27年 | 令和32年 |
|-------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|
| 総人口 | 114,457 | 104,859 | 95,815 | 87,265 | 78,969 | 71,104 |
| 高齢者人口 | 49,290 | 46,413 | 43,015 | 39,778 | 36,832 | 33,957 |
| 前期高齢者 | 21,535 | 17,167 | 13,947 | 12,817 | 12,735 | 12,330 |
| 後期高齢者 | 27,755 | 29,246 | 29,068 | 26,961 | 24,097 | 21,627 |
| 高齢化率 | 43.1 | 44.3 | 44.9 | 45.6 | 46.6 | 47.8 |

[国立社会保障・人口問題研究所 [日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）]

3 要介護（支援）認定者（第1号被保険者）の推移

（単位：人）

| 区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 第1号被保険者数(A) | 50,003 | 49,748 | 49,205 | 46,577 | 39,490 |
| 要支援1 | 1,099 | 1,090 | 1,085 | 1,078 | 1,087 |
| 要支援2 | 1,104 | 1,101 | 1,098 | 1,079 | 1,066 |
| 要介護1 | 2,149 | 2,156 | 2,151 | 2,126 | 2,162 |
| 要介護2 | 1,519 | 1,515 | 1,508 | 1,474 | 1,447 |
| 要介護3 | 1,351 | 1,355 | 1,343 | 1,302 | 1,314 |
| 要介護4 | 1,466 | 1,455 | 1,443 | 1,408 | 1,438 |
| 要介護5 | 1,028 | 1,019 | 1,015 | 976 | 982 |
| 計(B) | 9,716 | 9,691 | 9,643 | 9,443 | 9,496 |
| 認定率(B/A) | 19.4% | 19.5% | 19.6% | 20.3% | 24.0% |

[各市町村介護保険事業計画の推計値を県高齢者生き生き推進課で集計]

4 施設整備状況（令和5年度末実績見込み）

（単位：施設数（定員数））

| 施設種別 | 介護老人福祉施設 （特別養護老人ホーム） | 介護老人保健施設 | 介護療養型医療施設 | 介護医療院 | 特定施設入居者生活介護 （養護・軽費老人ホーム除く） |
|------|-------------------------|----------|-----------|---------|-------------------------------|
| | 27 (1,332) | 11 (848) | 0 (0) | 4 (176) | 2 (56) |

| 施設種別 | 認知症高齢者グループ ホーム | 養護老人ホーム | 軽費老人ホーム | 住宅型有料 老人ホーム | サービス付き高齢者向け住宅 （特定施設除く） |
|------|-------------------|---------|---------|----------------|---------------------------|
| | 35 (466) | 4 (290) | 3 (100) | 28 (387) | 7 (177) |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

5 サービス利用者等の見込み

(1) 介護サービス

① 介護給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 訪問介護(回数) | 129,959 | 132,533 | 124,339 | 121,670 | 129,341 |
| (2) 訪問入浴介護(回数) | 1,372 | 1,372 | 1,372 | 1,039 | 1,039 |
| (3) 訪問看護(回数) | 38,264 | 37,013 | 35,996 | 34,654 | 34,967 |
| (4) 訪問リハビリテーション(回数) | 21,377 | 20,561 | 20,251 | 18,080 | 18,679 |
| (5) 居宅療養管理指導(人数) | 8,328 | 8,196 | 8,076 | 7,740 | 8,064 |
| (6) 通所介護(回数) | 136,200 | 133,372 | 131,668 | 129,776 | 130,357 |
| (7) 通所リハビリテーション(回数) | 165,194 | 165,175 | 164,171 | 158,279 | 159,822 |
| (8) 短期入所生活介護(日数) | 37,060 | 36,235 | 35,728 | 34,816 | 36,044 |
| (9) 短期入所療養介護(日数) | 8,526 | 8,413 | 8,504 | 7,812 | 7,601 |
| (10) 特定施設入居者生活介護(人数) | 1,596 | 1,608 | 1,596 | 1,536 | 1,464 |
| (11) 福祉用具貸与(人数) | 25,572 | 25,368 | 25,200 | 24,444 | 24,936 |
| (12) 特定福祉用具販売(人数) | 732 | 732 | 732 | 684 | 648 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護(人数) | 456 | 444 | 444 | 408 | 444 |
| (2) 夜間対応型訪問介護(人数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (3) 認知症対応型通所介護(回数) | 4,544 | 4,544 | 4,309 | 4,165 | 3,930 |
| (4) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 4,332 | 4,284 | 4,476 | 4,380 | 4,284 |
| (5) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 5,832 | 5,808 | 5,772 | 5,532 | 5,496 |
| (6) 地域密着型特定施設入居者生活介護(人数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (7) 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(人数) | 2,688 | 2,688 | 2,688 | 2,568 | 2,532 |
| (8) 看護小規模多機能型居宅介護(人数) | 1,332 | 1,308 | 1,632 | 1,584 | 1,584 |
| (9) 地域密着型通所介護(回数) | 65,058 | 64,448 | 63,641 | 59,725 | 61,408 |
| 3 住宅改修(人数) | 684 | 684 | 684 | 648 | 660 |
| 4 居宅介護支援(人数) | 38,136 | 37,704 | 37,248 | 36,276 | 36,600 |
| 5 施設サービス | | | | | |
| 介護老人福祉施設(人数) | 13,908 | 13,908 | 13,908 | 12,924 | 12,732 |
| 介護老人保健施設(人数) | 10,464 | 10,464 | 10,464 | 10,128 | 10,128 |
| 介護医療院(人数) | 2,220 | 2,220 | 2,220 | 2,100 | 2,088 |

② 予防給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 介護予防訪問入浴介護(回数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 介護予防訪問看護(回数) | 5,850 | 5,845 | 5,840 | 5,644 | 5,482 |
| (3) 介護予防訪問リハビリテーション(回数) | 5,077 | 5,213 | 5,095 | 5,363 | 5,363 |
| (4) 介護予防居宅療養管理指導(人数) | 696 | 696 | 696 | 672 | 672 |
| (5) 介護予防通所リハビリテーション(人数) | 10,296 | 10,284 | 10,200 | 10,056 | 9,984 |
| (6) 介護予防短期入所生活介護(日数) | 634 | 634 | 634 | 634 | 634 |
| (7) 介護予防短期入所療養介護(日数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (8) 介護予防特定施設入居者生活介護(人数) | 36 | 36 | 36 | 36 | 36 |
| (9) 介護予防福祉用具貸与(人数) | 9,120 | 9,132 | 9,084 | 9,000 | 9,000 |
| (10) 特定介護予防福祉用具販売(人数) | 408 | 408 | 408 | 360 | 372 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 認知症対応型通所介護(回数) | 109 | 109 | 109 | 109 | 109 |
| (2) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 204 | 204 | 204 | 216 | 240 |
| (3) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 |
| 3 住宅改修(人数) | 492 | 492 | 492 | 492 | 480 |
| 4 介護予防支援(人数) | 15,216 | 15,204 | 15,192 | 14,988 | 14,952 |

(2) 介護外サービス

| 区 分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|---------------------|-------|-------|-------|
| 養護老人ホーム(人／月) | 290 | 290 | 290 |
| 軽費老人ホーム(ケアハウス)(人／月) | 100 | 100 | 100 |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

～川薩圏域～

構成市町村（内訳：薩摩川内市，さつま町）

1 高齢者の状況 （単位：人，％）

| 区分 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | 令和2年 | 令和3年 | 令和4年 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総人口 | 128,058 | 123,698 | 118,476 | 112,646 | 111,601 | 110,299 |
| 高齢者人口 | 35,456 | 35,420 | 36,775 | 38,308 | 38,116 | 38,004 |
| 前期高齢者 | 16,271 | 14,447 | 15,752 | 17,808 | 18,138 | 17,926 |
| 後期高齢者 | 19,185 | 20,973 | 21,023 | 20,500 | 19,978 | 20,078 |
| 高齢化率 | 27.7 | 28.7 | 31.1 | 34.0 | 34.2 | 34.5 |

[令和2年までは国勢調査, 令和3年～令和4年は県年齢別推計人口調査]
（総人口には年齢不詳が含まれる）

2 人口推計 （単位：人，％）

| 区分 | 令和7年 | 令和12年 | 令和17年 | 令和22年 | 令和27年 | 令和32年 |
|-------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|
| 総人口 | 105,995 | 100,047 | 94,376 | 88,972 | 83,586 | 78,210 |
| 高齢者人口 | 38,109 | 37,264 | 35,904 | 35,061 | 33,898 | 32,538 |
| 前期高齢者 | 16,573 | 14,335 | 12,785 | 12,536 | 12,644 | 12,009 |
| 後期高齢者 | 21,536 | 22,929 | 23,119 | 22,525 | 21,254 | 20,529 |
| 高齢化率 | 36.0 | 37.2 | 38.0 | 39.4 | 40.6 | 41.6 |

[国立社会保障・人口問題研究所 [日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）]]

3 要介護（支援）認定者（第1号被保険者）の推移 （単位：人）

| 区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 第1号被保険者数(A) | 38,280 | 38,155 | 37,986 | 36,785 | 32,997 |
| 要支援1 | 816 | 804 | 798 | 796 | 813 |
| 要支援2 | 911 | 903 | 892 | 869 | 887 |
| 要介護1 | 1,693 | 1,683 | 1,655 | 1,633 | 1,676 |
| 要介護2 | 1,284 | 1,276 | 1,268 | 1,235 | 1,262 |
| 要介護3 | 1,017 | 1,004 | 993 | 970 | 985 |
| 要介護4 | 1,230 | 1,221 | 1,210 | 1,167 | 1,189 |
| 要介護5 | 642 | 633 | 625 | 609 | 617 |
| 計(B) | 7,593 | 7,524 | 7,441 | 7,279 | 7,429 |
| 認定率(B/A) | 19.8% | 19.7% | 19.6% | 19.8% | 22.5% |

[各市町村介護保険事業計画の推計値を県高齢者生き生き推進課で集計]

4 施設整備状況（令和5年度末実績見込み） （単位：施設数（定員数））

| 施設種別 | 介護老人福祉施設 （特別養護老人ホーム） | 介護老人保健施設 | 介護療養型医療施設 | 介護医療院 | 特定施設入居者生活介護 （養護・軽費老人ホーム除く） |
|------|-------------------------|----------|-----------|--------|-------------------------------|
| | 25 (1,146) | 8 (586) | 0 (0) | 2 (65) | 0 (0) |

| 施設種別 | 認知症高齢者グループ ホーム | 養護老人ホーム | 軽費老人ホーム | 住宅型有料 老人ホーム | サービス付き高齢者向け住宅 （特定施設除く） |
|------|-------------------|---------|---------|----------------|---------------------------|
| | 26 (422) | 4 (250) | 2 (80) | 12 (281) | 5 (134) |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

5 サービス利用者等の見込み

(1) 介護サービス

① 介護給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 訪問介護(回数) | 104,387 | 103,610 | 102,954 | 98,656 | 100,462 |
| (2) 訪問入浴介護(回数) | 2,364 | 2,364 | 2,255 | 2,125 | 2,250 |
| (3) 訪問看護(回数) | 31,447 | 31,385 | 30,935 | 29,858 | 30,270 |
| (4) 訪問リハビリテーション(回数) | 16,352 | 16,248 | 16,248 | 15,493 | 16,001 |
| (5) 居宅療養管理指導(人数) | 6,324 | 6,228 | 6,096 | 6,012 | 6,192 |
| (6) 通所介護(回数) | 114,178 | 113,561 | 112,913 | 108,782 | 111,524 |
| (7) 通所リハビリテーション(回数) | 97,744 | 97,002 | 96,451 | 92,792 | 94,681 |
| (8) 短期入所生活介護(日数) | 30,968 | 30,052 | 29,365 | 28,723 | 28,691 |
| (9) 短期入所療養介護(日数) | 6,974 | 6,692 | 6,576 | 6,431 | 6,190 |
| (10) 特定施設入居者生活介護(人数) | 1,404 | 1,380 | 1,368 | 1,356 | 1,356 |
| (11) 福祉用具貸与(人数) | 21,108 | 20,820 | 20,328 | 19,992 | 20,400 |
| (12) 特定福祉用具販売(人数) | 540 | 540 | 540 | 528 | 528 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護(人数) | 528 | 528 | 516 | 516 | 516 |
| (2) 夜間対応型訪問介護(人数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (3) 認知症対応型通所介護(回数) | 9,683 | 9,683 | 9,472 | 9,277 | 9,623 |
| (4) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 2,136 | 2,112 | 2,052 | 2,028 | 2,076 |
| (5) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 5,196 | 5,208 | 5,364 | 5,208 | 5,268 |
| (6) 地域密着型特定施設入居者生活介護(人数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (7) 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(人数) | 1,680 | 1,680 | 1,680 | 1,644 | 1,716 |
| (8) 看護小規模多機能型居宅介護(人数) | 348 | 348 | 348 | 348 | 348 |
| (9) 地域密着型通所介護(回数) | 27,576 | 27,271 | 26,866 | 26,188 | 27,089 |
| 3 住宅改修(人数) | 420 | 408 | 408 | 408 | 420 |
| 4 居宅介護支援(人数) | 32,040 | 31,644 | 30,948 | 30,444 | 31,152 |
| 5 施設サービス | | | | | |
| 介護老人福祉施設(人数) | 11,736 | 11,736 | 11,736 | 11,256 | 11,364 |
| 介護老人保健施設(人数) | 6,924 | 6,924 | 6,924 | 6,636 | 6,720 |
| 介護医療院(人数) | 1,284 | 1,284 | 1,284 | 1,272 | 1,296 |

② 予防給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------------------|--------|--------|-------|--------|--------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 介護予防訪問入浴介護(回数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 介護予防訪問看護(回数) | 3,307 | 3,307 | 3,307 | 3,223 | 3,307 |
| (3) 介護予防訪問リハビリテーション(回数) | 1,964 | 1,964 | 1,964 | 1,964 | 1,964 |
| (4) 介護予防居宅療養管理指導(人数) | 504 | 504 | 504 | 480 | 492 |
| (5) 介護予防通所リハビリテーション(人数) | 5,976 | 5,952 | 5,916 | 5,748 | 5,868 |
| (6) 介護予防短期入所生活介護(日数) | 1,114 | 1,114 | 1,054 | 1,054 | 1,054 |
| (7) 介護予防短期入所療養介護(日数) | 91 | 91 | 91 | 91 | 91 |
| (8) 介護予防特定施設入居者生活介護(人数) | 84 | 84 | 84 | 84 | 84 |
| (9) 介護予防福祉用具貸与(人数) | 6,084 | 6,012 | 5,952 | 5,832 | 5,940 |
| (10) 特定介護予防福祉用具販売(人数) | 264 | 264 | 264 | 264 | 264 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 認知症対応型通所介護(回数) | 52 | 52 | 52 | 52 | 52 |
| (2) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 456 | 456 | 456 | 444 | 444 |
| (3) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 36 | 36 | 36 | 36 | 36 |
| 3 住宅改修(人数) | 276 | 276 | 276 | 264 | 264 |
| 4 介護予防支援(人数) | 10,140 | 10,020 | 9,924 | 9,756 | 9,936 |

(2) 介護外サービス

| 区 分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|---------------------|-------|-------|-------|
| 養護老人ホーム(人／月) | 250 | 250 | 250 |
| 軽費老人ホーム(ケアハウス)(人／月) | 80 | 80 | 80 |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

～出水圏域～

構成市町村（内訳：阿久根市，出水市，長島町）

1 高齢者の状況 （単位：人，％）

| 区分 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | 令和2年 | 令和3年 | 令和4年 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総人口 | 94,937 | 89,880 | 85,387 | 80,969 | 80,008 | 78,839 |
| 高齢者人口 | 26,733 | 26,851 | 27,973 | 29,123 | 29,181 | 29,174 |
| 前期高齢者 | 13,183 | 11,489 | 12,081 | 13,454 | 13,773 | 13,621 |
| 後期高齢者 | 13,550 | 15,362 | 15,892 | 15,669 | 15,408 | 15,553 |
| 高齢化率 | 28.2 | 29.9 | 32.9 | 36.0 | 36.5 | 37.0 |

[令和2年までは国勢調査, 令和3年～令和4年は県年齢別推計人口調査]
（総人口には年齢不詳が含まれる）

2 人口推計 （単位：人，％）

| 区分 | 令和7年 | 令和12年 | 令和17年 | 令和22年 | 令和27年 | 令和32年 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総人口 | 75,722 | 70,589 | 65,582 | 60,919 | 56,302 | 51,769 |
| 高齢者人口 | 29,127 | 28,248 | 27,029 | 26,096 | 24,916 | 23,662 |
| 前期高齢者 | 12,521 | 10,758 | 9,476 | 9,187 | 9,094 | 8,587 |
| 後期高齢者 | 16,606 | 17,490 | 17,553 | 16,909 | 15,822 | 15,075 |
| 高齢化率 | 38.5 | 40.0 | 41.2 | 42.8 | 44.3 | 45.7 |

[国立社会保障・人口問題研究所 [日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）]]

3 要介護（支援）認定者（第1号被保険者）の推移 （単位：人）

| 区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 第1号被保険者数(A) | 29,392 | 29,342 | 29,156 | 28,397 | 26,337 |
| 要支援1 | 1,001 | 1,004 | 1,004 | 1,030 | 1,111 |
| 要支援2 | 703 | 706 | 710 | 711 | 767 |
| 要介護1 | 1,373 | 1,397 | 1,412 | 1,428 | 1,559 |
| 要介護2 | 746 | 752 | 753 | 758 | 804 |
| 要介護3 | 691 | 702 | 705 | 705 | 747 |
| 要介護4 | 796 | 803 | 800 | 807 | 864 |
| 要介護5 | 543 | 551 | 551 | 556 | 596 |
| 計(B) | 5,853 | 5,915 | 5,935 | 5,995 | 6,448 |
| 認定率(B/A) | 19.9% | 20.2% | 20.4% | 21.1% | 24.5% |

[各市町村介護保険事業計画の推計値を県高齢者生き生き推進課で集計]

4 施設整備状況（令和5年度末実績見込み） （単位：施設数（定員数））

| 施設種別 | 介護老人福祉施設 （特別養護老人ホーム） | 介護老人保健施設 | 介護療養型医療施設 | 介護医療院 | 特定施設入居者生活介護 （養護・軽費老人ホーム除く） |
|------|-------------------------|----------|-----------|--------|-------------------------------|
| | 12 (597) | 6 (379) | 0 (0) | 1 (70) | 5 (174) |

| 施設種別 | 認知症高齢者グループ ホーム | 養護老人ホーム | 軽費老人ホーム | 住宅型有料 老人ホーム | サービス付き高齢者向け住宅 （特定施設除く） |
|------|-------------------|---------|---------|----------------|---------------------------|
| | 17 (252) | 4 (220) | 3 (84) | 7 (118) | 6 (142) |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

5 サービス利用者等の見込み

(1) 介護サービス

① 介護給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 訪問介護(回数) | 133,922 | 136,068 | 136,657 | 141,720 | 155,110 |
| (2) 訪問入浴介護(回数) | 2,513 | 2,590 | 2,478 | 2,694 | 2,824 |
| (3) 訪問看護(回数) | 55,594 | 56,550 | 56,348 | 57,626 | 62,300 |
| (4) 訪問リハビリテーション(回数) | 8,628 | 8,867 | 9,259 | 9,163 | 9,733 |
| (5) 居宅療養管理指導(人数) | 5,172 | 5,316 | 5,340 | 5,400 | 5,856 |
| (6) 通所介護(回数) | 100,799 | 102,331 | 103,182 | 106,190 | 115,465 |
| (7) 通所リハビリテーション(回数) | 57,948 | 59,344 | 59,846 | 60,433 | 65,290 |
| (8) 短期入所生活介護(日数) | 28,625 | 29,304 | 29,596 | 30,234 | 33,086 |
| (9) 短期入所療養介護(日数) | 2,287 | 2,279 | 2,274 | 2,214 | 2,278 |
| (10) 特定施設入居者生活介護(人数) | 2,268 | 2,304 | 2,280 | 2,268 | 2,388 |
| (11) 福祉用具貸与(人数) | 18,552 | 18,948 | 19,164 | 19,224 | 20,700 |
| (12) 特定福祉用具販売(人数) | 408 | 420 | 420 | 384 | 396 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護(人数) | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 |
| (2) 夜間対応型訪問介護(人数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (3) 認知症対応型通所介護(回数) | 6,216 | 6,338 | 6,338 | 6,461 | 7,432 |
| (4) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 1,428 | 1,440 | 1,452 | 1,524 | 1,572 |
| (5) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 3,312 | 3,372 | 3,384 | 3,420 | 3,636 |
| (6) 地域密着型特定施設入居者生活介護(人数) | 300 | 312 | 312 | 312 | 360 |
| (7) 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(人数) | 1,224 | 1,224 | 1,224 | 1,248 | 1,248 |
| (8) 看護小規模多機能型居宅介護(人数) | 0 | 0 | 216 | 264 | 348 |
| (9) 地域密着型通所介護(回数) | 27,234 | 27,820 | 27,925 | 28,052 | 30,925 |
| 3 住宅改修(人数) | 240 | 240 | 252 | 324 | 324 |
| 4 居宅介護支援(人数) | 24,972 | 25,248 | 25,512 | 25,704 | 27,876 |
| 5 施設サービス | | | | | |
| 介護老人福祉施設(人数) | 6,060 | 6,060 | 6,060 | 6,144 | 6,576 |
| 介護老人保健施設(人数) | 4,848 | 4,848 | 4,848 | 4,932 | 5,220 |
| 介護医療院(人数) | 1,032 | 1,032 | 1,032 | 1,056 | 1,152 |

② 予防給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 介護予防訪問入浴介護(回数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 介護予防訪問看護(回数) | 10,661 | 10,669 | 10,726 | 10,595 | 11,375 |
| (3) 介護予防訪問リハビリテーション(回数) | 4,382 | 4,343 | 4,316 | 4,446 | 4,660 |
| (4) 介護予防居宅療養管理指導(人数) | 480 | 492 | 492 | 492 | 528 |
| (5) 介護予防通所リハビリテーション(人数) | 5,508 | 5,544 | 5,592 | 5,724 | 6,252 |
| (6) 介護予防短期入所生活介護(日数) | 690 | 690 | 690 | 690 | 749 |
| (7) 介護予防短期入所療養介護(日数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (8) 介護予防特定施設入居者生活介護(人数) | 228 | 228 | 228 | 216 | 228 |
| (9) 介護予防福祉用具貸与(人数) | 10,788 | 10,872 | 10,872 | 11,016 | 11,808 |
| (10) 特定介護予防福祉用具販売(人数) | 144 | 144 | 144 | 144 | 144 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 認知症対応型通所介護(回数) | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 |
| (2) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 180 | 180 | 180 | 192 | 192 |
| (3) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 |
| 3 住宅改修(人数) | 216 | 216 | 216 | 288 | 312 |
| 4 介護予防支援(人数) | 13,896 | 13,956 | 14,016 | 14,220 | 15,336 |

(2) 介護外サービス

| 区 分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|---------------------|-------|-------|-------|
| 養護老人ホーム(人／月) | 220 | 220 | 220 |
| 軽費老人ホーム(ケアハウス)(人／月) | 84 | 84 | 84 |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

～始良・伊佐圏域～

構成市町村（内訳：霧島市，伊佐市，始良市，湧水町）

1 高齢者の状況 （単位：人，％）

| 区 分 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | 令和2年 | 令和3年 | 令和4年 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総人口 | 246,214 | 243,195 | 238,167 | 233,055 | 232,392 | 231,785 |
| 高齢者人口 | 60,133 | 62,371 | 67,912 | 72,738 | 72,637 | 73,111 |
| 前期高齢者 | 29,121 | 27,174 | 30,836 | 35,237 | 35,889 | 35,668 |
| 後期高齢者 | 31,012 | 35,197 | 37,076 | 37,501 | 36,748 | 37,443 |
| 高齢化率 | 24.4 | 25.7 | 28.7 | 31.2 | 31.3 | 31.5 |

[令和2年までは国勢調査，令和3年～令和4年は県年齢別推計人口調査]

（総人口には年齢不詳が含まれる）

2 人口推計 （単位：人，％）

| 区 分 | 令和7年 | 令和12年 | 令和17年 | 令和22年 | 令和27年 | 令和32年 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総人口 | 226,207 | 218,166 | 209,646 | 201,014 | 192,298 | 183,419 |
| 高齢者人口 | 75,082 | 75,483 | 74,737 | 75,170 | 74,980 | 73,956 |
| 前期高齢者 | 33,467 | 29,995 | 27,495 | 28,215 | 29,535 | 28,395 |
| 後期高齢者 | 41,615 | 45,488 | 47,242 | 46,955 | 45,445 | 45,561 |
| 高齢化率 | 33.2 | 34.6 | 35.6 | 37.4 | 39.0 | 40.3 |

[国立社会保障・人口問題研究所 [日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）]]

3 要介護（支援）認定者（第1号被保険者）の推移 （単位：人）

| 区 分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 第1号被保険者数(A) | 74,575 | 74,715 | 74,761 | 74,475 | 73,364 |
| 要支援1 | 1,868 | 1,871 | 1,876 | 1,946 | 2,218 |
| 要支援2 | 1,548 | 1,569 | 1,575 | 1,607 | 1,816 |
| 要介護1 | 2,782 | 2,767 | 2,755 | 2,852 | 3,272 |
| 要介護2 | 1,901 | 1,908 | 1,908 | 1,969 | 2,246 |
| 要介護3 | 1,565 | 1,582 | 1,592 | 1,606 | 1,876 |
| 要介護4 | 1,882 | 1,900 | 1,889 | 1,932 | 2,248 |
| 要介護5 | 1,041 | 1,038 | 1,041 | 1,051 | 1,213 |
| 計(B) | 12,587 | 12,635 | 12,636 | 12,963 | 14,889 |
| 認定率(B/A) | 16.9% | 16.9% | 16.9% | 17.4% | 20.3% |

[各市町村介護保険事業計画の推計値を県高齢者生き生き推進課で集計]

4 施設整備状況（令和5年度末実績見込み） （単位：施設数（定員数））

| 施設種別 | 介護老人福祉施設 （特別養護老人ホーム） | 介護老人保健施設 | 介護療養型医療施設 | 介護医療院 | 特定施設入居者生活介護 （養護・軽費老人ホーム除く） |
|------|-------------------------|----------|-----------|---------|-------------------------------|
| | 24 (1,430) | 11 (865) | 2 (14) | 7 (327) | 10 (226) |

| 施設種別 | 認知症高齢者グループ ホーム | 養護老人ホーム | 軽費老人ホーム | 住宅型有料 老人ホーム | サービス付き高齢者向け住宅 （特定施設除く） |
|------|-------------------|---------|---------|----------------|---------------------------|
| | 50 (726) | 6 (325) | 5 (230) | 42 (1,247) | 14 (307) |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

5 サービス利用者等の見込み

(1) 介護サービス

① 介護給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 訪問介護(回数) | 238,811 | 245,758 | 253,914 | 256,910 | 283,855 |
| (2) 訪問入浴介護(回数) | 1,615 | 1,682 | 1,747 | 1,727 | 1,800 |
| (3) 訪問看護(回数) | 89,084 | 90,274 | 91,297 | 92,393 | 101,422 |
| (4) 訪問リハビリテーション(回数) | 47,083 | 47,226 | 47,522 | 50,806 | 59,396 |
| (5) 居宅療養管理指導(人数) | 9,672 | 9,768 | 9,768 | 10,284 | 11,952 |
| (6) 通所介護(回数) | 244,139 | 246,691 | 247,801 | 257,476 | 297,638 |
| (7) 通所リハビリテーション(回数) | 128,381 | 129,008 | 128,940 | 133,682 | 151,673 |
| (8) 短期入所生活介護(日数) | 52,079 | 53,138 | 53,497 | 54,599 | 61,346 |
| (9) 短期入所療養介護(日数) | 6,917 | 7,110 | 7,409 | 7,560 | 8,604 |
| (10) 特定施設入居者生活介護(人数) | 2,940 | 2,976 | 2,988 | 3,024 | 3,372 |
| (11) 福祉用具貸与(人数) | 41,616 | 41,988 | 41,952 | 43,140 | 49,380 |
| (12) 特定福祉用具販売(人数) | 948 | 972 | 996 | 996 | 1,080 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護(人数) | 1,332 | 1,368 | 1,740 | 1,836 | 2,112 |
| (2) 夜間対応型訪問介護(人数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (3) 認知症対応型通所介護(回数) | 16,817 | 16,996 | 17,174 | 18,484 | 22,040 |
| (4) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 5,064 | 5,136 | 5,172 | 5,100 | 5,748 |
| (5) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 8,832 | 8,988 | 9,108 | 9,144 | 10,092 |
| (6) 地域密着型特定施設入居者生活介護(人数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (7) 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(人数) | 2,172 | 2,172 | 2,172 | 2,220 | 2,328 |
| (8) 看護小規模多機能型居宅介護(人数) | 1,560 | 1,584 | 1,980 | 2,040 | 2,316 |
| (9) 地域密着型通所介護(回数) | 115,374 | 117,013 | 117,608 | 119,449 | 131,662 |
| 3 住宅改修(人数) | 648 | 672 | 696 | 732 | 768 |
| 4 居宅介護支援(人数) | 52,476 | 53,052 | 53,280 | 54,372 | 61,320 |
| 5 施設サービス | | | | | |
| 介護老人福祉施設(人数) | 13,236 | 13,236 | 13,236 | 13,152 | 15,036 |
| 介護老人保健施設(人数) | 9,288 | 9,348 | 9,408 | 9,384 | 10,800 |
| 介護医療院(人数) | 4,176 | 4,548 | 4,560 | 4,692 | 5,184 |

② 予防給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 介護予防訪問入浴介護(回数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 介護予防訪問看護(回数) | 18,860 | 19,308 | 19,594 | 20,297 | 21,596 |
| (3) 介護予防訪問リハビリテーション(回数) | 10,636 | 10,936 | 11,116 | 11,822 | 13,144 |
| (4) 介護予防居宅療養管理指導(人数) | 816 | 840 | 852 | 888 | 972 |
| (5) 介護予防通所リハビリテーション(人数) | 9,564 | 9,624 | 9,660 | 9,984 | 11,148 |
| (6) 介護予防短期入所生活介護(日数) | 1,024 | 1,024 | 1,024 | 1,111 | 1,271 |
| (7) 介護予防短期入所療養介護(日数) | 48 | 48 | 48 | 0 | 0 |
| (8) 介護予防特定施設入居者生活介護(人数) | 288 | 288 | 288 | 276 | 276 |
| (9) 介護予防福祉用具貸与(人数) | 17,124 | 17,268 | 17,328 | 17,376 | 19,488 |
| (10) 特定介護予防福祉用具販売(人数) | 504 | 516 | 516 | 528 | 528 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 認知症対応型通所介護(回数) | 358 | 358 | 358 | 358 | 358 |
| (2) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 1,068 | 1,080 | 1,104 | 1,056 | 1,164 |
| (3) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 48 | 48 | 48 | 60 | 72 |
| 3 住宅改修(人数) | 660 | 672 | 684 | 684 | 684 |
| 4 介護予防支援(人数) | 22,692 | 22,944 | 23,124 | 23,592 | 26,220 |

(2) 介護外サービス

| 区 分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|---------------------|-------|-------|-------|
| 養護老人ホーム(人／月) | 335 | 335 | 335 |
| 軽費老人ホーム(ケアハウス)(人／月) | 230 | 230 | 230 |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

～曾於圏域～

構成市町村（内訳：曾於市，志布志市，大崎町）

1 高齢者の状況

（単位：人，％）

| 区分 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | 令和2年 | 令和3年 | 令和4年 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総人口 | 92,360 | 86,470 | 81,277 | 75,024 | 73,562 | 72,286 |
| 高齢者人口 | 28,719 | 28,169 | 28,796 | 29,238 | 29,230 | 29,080 |
| 前期高齢者 | 14,899 | 12,051 | 11,735 | 13,497 | 13,909 | 13,755 |
| 後期高齢者 | 13,820 | 16,118 | 17,061 | 15,741 | 15,321 | 15,325 |
| 高齢化率 | 31.1 | 32.6 | 35.5 | 39.0 | 39.7 | 40.2 |

[令和2年までは国勢調査, 令和3年～令和4年は県年齢別推計人口調査]

（総人口には年齢不詳が含まれる）

2 人口推計

（単位：人，％）

| 区分 | 令和7年 | 令和12年 | 令和17年 | 令和22年 | 令和27年 | 令和32年 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総人口 | 68,082 | 62,337 | 56,969 | 52,069 | 47,338 | 42,898 |
| 高齢者人口 | 28,945 | 27,391 | 25,221 | 23,133 | 21,264 | 19,821 |
| 前期高齢者 | 12,875 | 10,473 | 8,226 | 7,197 | 7,092 | 7,303 |
| 後期高齢者 | 16,070 | 16,918 | 16,995 | 15,936 | 14,172 | 12,518 |
| 高齢化率 | 42.5 | 43.9 | 44.3 | 44.4 | 44.9 | 46.2 |

[国立社会保障・人口問題研究所 [日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）]]

3 要介護（支援）認定者（第1号被保険者）の推移

（単位：人）

| 区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 第1号被保険者数(A) | 29,774 | 29,557 | 29,243 | 27,639 | 23,259 |
| 要支援1 | 607 | 607 | 602 | 583 | 596 |
| 要支援2 | 630 | 625 | 622 | 602 | 619 |
| 要介護1 | 1,082 | 1,073 | 1,068 | 1,031 | 1,091 |
| 要介護2 | 1,054 | 1,053 | 1,049 | 1,009 | 1,074 |
| 要介護3 | 810 | 800 | 792 | 771 | 832 |
| 要介護4 | 856 | 857 | 847 | 828 | 870 |
| 要介護5 | 605 | 596 | 593 | 570 | 603 |
| 計(B) | 5,644 | 5,611 | 5,573 | 5,394 | 5,685 |
| 認定率(B/A) | 19.0% | 19.0% | 19.1% | 19.5% | 24.4% |

[各市町村介護保険事業計画の推計値を県高齢者生き生き推進課で集計]

4 施設整備状況（令和5年度末実績見込み）

（単位：施設数（定員数））

| 施設種別 | 介護老人福祉施設 （特別養護老人ホーム） | 介護老人保健施設 | 介護療養型医療施設 | 介護医療院 | 特定施設入居者生活介護 （養護・軽費老人ホーム除く） |
|------|-------------------------|----------|-----------|--------|-------------------------------|
| | 17 (749) | 6 (441) | 0 (0) | 2 (81) | 8 (240) |

| 施設種別 | 認知症高齢者グループ ホーム | 養護老人ホーム | 軽費老人ホーム | 住宅型有料 老人ホーム | サービス付き高齢者向け住宅 （特定施設除く） |
|------|-------------------|---------|---------|----------------|---------------------------|
| | 18 (263) | 3 (160) | 2 (40) | 11 (143) | 1 (23) |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

5 サービス利用者等の見込み

(1) 介護サービス

① 介護給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 訪問介護(回数) | 110,428 | 110,428 | 111,638 | 106,831 | 113,300 |
| (2) 訪問入浴介護(回数) | 1,798 | 1,798 | 1,798 | 1,687 | 1,798 |
| (3) 訪問看護(回数) | 21,617 | 21,582 | 21,322 | 19,811 | 21,029 |
| (4) 訪問リハビリテーション(回数) | 5,496 | 5,498 | 5,501 | 4,982 | 5,443 |
| (5) 居宅療養管理指導(人数) | 4,872 | 4,932 | 4,956 | 4,716 | 4,896 |
| (6) 通所介護(回数) | 132,163 | 132,764 | 133,378 | 125,851 | 133,432 |
| (7) 通所リハビリテーション(回数) | 72,463 | 72,334 | 72,629 | 70,177 | 72,947 |
| (8) 短期入所生活介護(日数) | 23,191 | 23,191 | 23,260 | 21,511 | 23,658 |
| (9) 短期入所療養介護(日数) | 5,582 | 5,594 | 5,593 | 5,664 | 5,478 |
| (10) 特定施設入居者生活介護(人数) | 2,244 | 2,256 | 2,268 | 2,196 | 2,292 |
| (11) 福祉用具貸与(人数) | 15,252 | 15,240 | 15,180 | 13,944 | 15,192 |
| (12) 特定福祉用具販売(人数) | 264 | 264 | 264 | 252 | 264 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護(人数) | 48 | 48 | 48 | 48 | 48 |
| (2) 夜間対応型訪問介護(人数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (3) 認知症対応型通所介護(回数) | 1,084 | 1,447 | 1,722 | 1,722 | 1,722 |
| (4) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 972 | 972 | 984 | 948 | 1,020 |
| (5) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 3,348 | 3,420 | 3,384 | 3,300 | 3,456 |
| (6) 地域密着型特定施設入居者生活介護(人数) | 864 | 864 | 876 | 912 | 948 |
| (7) 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(人数) | 1,872 | 1,872 | 1,872 | 1,692 | 1,836 |
| (8) 看護小規模多機能型居宅介護(人数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (9) 地域密着型通所介護(回数) | 45,611 | 45,896 | 45,792 | 43,662 | 46,814 |
| 3 住宅改修(人数) | 216 | 216 | 216 | 204 | 216 |
| 4 居宅介護支援(人数) | 24,876 | 24,816 | 24,720 | 23,316 | 24,864 |
| 5 施設サービス | | | | | |
| 介護老人福祉施設(人数) | 7,128 | 7,128 | 7,128 | 6,768 | 6,972 |
| 介護老人保健施設(人数) | 5,496 | 4,896 | 4,896 | 4,860 | 4,896 |
| 介護医療院(人数) | 1,020 | 1,620 | 1,620 | 1,632 | 1,656 |

② 予防給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------------------|-------|-------|-------|--------|--------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 介護予防訪問入浴介護(回数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 介護予防訪問看護(回数) | 2,040 | 2,040 | 2,040 | 1,914 | 2,040 |
| (3) 介護予防訪問リハビリテーション(回数) | 1,519 | 1,519 | 1,519 | 1,370 | 1,519 |
| (4) 介護予防居宅療養管理指導(人数) | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 |
| (5) 介護予防通所リハビリテーション(人数) | 3,768 | 3,780 | 3,780 | 3,672 | 3,756 |
| (6) 介護予防短期入所生活介護(日数) | 391 | 391 | 391 | 391 | 391 |
| (7) 介護予防短期入所療養介護(日数) | 65 | 82 | 88 | 90 | 97 |
| (8) 介護予防特定施設入居者生活介護(人数) | 144 | 144 | 144 | 144 | 144 |
| (9) 介護予防福祉用具貸与(人数) | 3,888 | 3,900 | 3,888 | 3,648 | 3,768 |
| (10) 特定介護予防福祉用具販売(人数) | 72 | 72 | 72 | 72 | 72 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 認知症対応型通所介護(回数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 156 | 156 | 156 | 156 | 156 |
| (3) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 |
| 3 住宅改修(人数) | 180 | 180 | 180 | 180 | 180 |
| 4 介護予防支援(人数) | 6,780 | 6,780 | 6,744 | 6,468 | 6,672 |

(2) 介護外サービス

| 区 分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|---------------------|-------|-------|-------|
| 養護老人ホーム(人／月) | 160 | 160 | 160 |
| 軽費老人ホーム(ケアハウス)(人／月) | 40 | 40 | 40 |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

～肝属圏域～

構成市町村（内訳：鹿屋市，垂水市，東串良町，錦江町，南大隅町，肝付町）

1 高齢者の状況 （単位：人，％）

| 区分 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | 令和2年 | 令和3年 | 令和4年 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総人口 | 170,477 | 164,082 | 156,787 | 148,804 | 147,088 | 145,142 |
| 高齢者人口 | 48,009 | 48,021 | 49,601 | 50,738 | 50,530 | 50,440 |
| 前期高齢者 | 24,142 | 20,150 | 20,672 | 23,364 | 24,012 | 23,887 |
| 後期高齢者 | 23,867 | 27,871 | 28,929 | 27,374 | 26,518 | 26,553 |
| 高齢化率 | 28.2 | 29.3 | 31.8 | 34.1 | 34.4 | 34.8 |

[令和2年までは国勢調査, 令和3年～令和4年は県年齢別推計人口調査]
（総人口には年齢不詳が含まれる）

2 人口推計 （単位：人，％）

| 区分 | 令和7年 | 令和12年 | 令和17年 | 令和22年 | 令和27年 | 令和32年 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総人口 | 138,691 | 130,597 | 123,017 | 115,960 | 109,073 | 102,392 |
| 高齢者人口 | 50,542 | 49,400 | 46,980 | 45,281 | 43,628 | 41,878 |
| 前期高齢者 | 22,493 | 19,728 | 16,442 | 15,468 | 16,035 | 15,778 |
| 後期高齢者 | 28,049 | 29,672 | 30,538 | 29,813 | 27,593 | 26,100 |
| 高齢化率 | 36.4 | 37.8 | 38.2 | 39.0 | 40.0 | 40.9 |

[国立社会保障・人口問題研究所 [日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）]]

3 要介護（支援）認定者（第1号被保険者）の推移 （単位：人）

| 区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 第1号被保険者数(A) | 51,300 | 51,151 | 50,819 | 49,080 | 45,069 |
| 要支援1 | 994 | 979 | 969 | 942 | 1,011 |
| 要支援2 | 1,199 | 1,181 | 1,172 | 1,150 | 1,268 |
| 要介護1 | 1,975 | 1,950 | 1,928 | 1,905 | 2,111 |
| 要介護2 | 1,612 | 1,607 | 1,598 | 1,548 | 1,746 |
| 要介護3 | 1,374 | 1,376 | 1,374 | 1,344 | 1,509 |
| 要介護4 | 1,639 | 1,636 | 1,626 | 1,575 | 1,762 |
| 要介護5 | 985 | 973 | 970 | 939 | 1,027 |
| 計(B) | 9,778 | 9,702 | 9,637 | 9,403 | 10,434 |
| 認定率(B/A) | 19.1% | 19.0% | 19.0% | 19.2% | 23.2% |

[各市町村介護保険事業計画の推計値を県高齢者生き生き推進課で集計]

4 施設整備状況（令和5年度末実績見込み） （単位：施設数（定員数））

| 施設種別 | 介護老人福祉施設 （特別養護老人ホーム） | 介護老人保健施設 | 介護療養型医療施設 | 介護医療院 | 特定施設入居者生活介護 （養護・軽費老人ホーム除く） |
|------|-------------------------|----------|-----------|---------|-------------------------------|
| | 17 (1,074) | 9 (649) | 0 (0) | 4 (141) | 3 (76) |

| 施設種別 | 認知症高齢者グループ ホーム | 養護老人ホーム | 軽費老人ホーム | 住宅型有料 老人ホーム | サービス付き高齢者向け住宅 （特定施設除く） |
|------|-------------------|---------|---------|----------------|---------------------------|
| | 57 (774) | 5 (290) | 2 (50) | 53 (1,057) | 4 (110) |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

5 サービス利用者等の見込み

(1) 介護サービス

① 介護給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 訪問介護(回数) | 290,908 | 287,965 | 285,331 | 288,731 | 323,980 |
| (2) 訪問入浴介護(回数) | 2,778 | 2,978 | 3,072 | 1,952 | 2,101 |
| (3) 訪問看護(回数) | 41,182 | 41,690 | 41,934 | 38,453 | 42,746 |
| (4) 訪問リハビリテーション(回数) | 22,572 | 22,649 | 23,034 | 21,540 | 23,424 |
| (5) 居宅療養管理指導(人数) | 7,944 | 7,872 | 7,824 | 7,476 | 8,328 |
| (6) 通所介護(回数) | 253,417 | 253,703 | 253,462 | 239,812 | 271,139 |
| (7) 通所リハビリテーション(回数) | 92,876 | 92,830 | 92,629 | 89,738 | 100,931 |
| (8) 短期入所生活介護(日数) | 59,038 | 58,619 | 58,453 | 55,303 | 61,687 |
| (9) 短期入所療養介護(日数) | 5,528 | 5,609 | 5,522 | 5,204 | 5,708 |
| (10) 特定施設入居者生活介護(人数) | 1,128 | 1,128 | 1,128 | 1,104 | 1,176 |
| (11) 福祉用具貸与(人数) | 35,712 | 35,568 | 35,352 | 34,068 | 38,268 |
| (12) 特定福祉用具販売(人数) | 696 | 732 | 768 | 744 | 768 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護(人数) | 1,968 | 1,968 | 1,968 | 1,932 | 2,328 |
| (2) 夜間対応型訪問介護(人数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (3) 認知症対応型通所介護(回数) | 4,949 | 4,850 | 4,850 | 4,681 | 6,022 |
| (4) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 2,940 | 2,988 | 3,012 | 3,048 | 3,036 |
| (5) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 8,424 | 8,412 | 8,364 | 7,932 | 8,964 |
| (6) 地域密着型特定施設入居者生活介護(人数) | 612 | 612 | 612 | 612 | 756 |
| (7) 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(人数) | 216 | 216 | 204 | 168 | 144 |
| (8) 看護小規模多機能型居宅介護(人数) | 936 | 936 | 900 | 864 | 828 |
| (9) 地域密着型通所介護(回数) | 113,674 | 112,628 | 111,752 | 108,226 | 121,633 |
| 3 住宅改修(人数) | 432 | 444 | 444 | 492 | 528 |
| 4 居宅介護支援(人数) | 48,516 | 48,312 | 48,108 | 46,908 | 52,740 |
| 5 施設サービス | | | | | |
| 介護老人福祉施設(人数) | 13,092 | 13,092 | 13,092 | 12,336 | 13,296 |
| 介護老人保健施設(人数) | 7,680 | 7,680 | 7,680 | 7,308 | 7,704 |
| 介護医療院(人数) | 1,644 | 1,644 | 1,644 | 1,596 | 1,848 |

② 予防給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 介護予防訪問入浴介護(回数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 介護予防訪問看護(回数) | 5,474 | 5,623 | 5,708 | 4,781 | 5,020 |
| (3) 介護予防訪問リハビリテーション(回数) | 3,734 | 3,868 | 4,001 | 3,426 | 4,488 |
| (4) 介護予防居宅療養管理指導(人数) | 432 | 444 | 456 | 384 | 396 |
| (5) 介護予防通所リハビリテーション(人数) | 6,612 | 6,564 | 6,552 | 6,072 | 6,804 |
| (6) 介護予防短期入所生活介護(日数) | 3,565 | 3,360 | 3,360 | 3,080 | 2,898 |
| (7) 介護予防短期入所療養介護(日数) | 65 | 65 | 65 | 0 | 0 |
| (8) 介護予防特定施設入居者生活介護(人数) | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 |
| (9) 介護予防福祉用具貸与(人数) | 11,736 | 11,820 | 11,940 | 10,800 | 11,556 |
| (10) 特定介護予防福祉用具販売(人数) | 204 | 216 | 216 | 168 | 180 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 認知症対応型通所介護(回数) | 120 | 120 | 120 | 0 | 0 |
| (2) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 324 | 336 | 336 | 348 | 336 |
| (3) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 36 | 36 | 36 | 12 | 12 |
| 3 住宅改修(人数) | 300 | 312 | 324 | 228 | 240 |
| 4 介護予防支援(人数) | 15,576 | 15,516 | 15,528 | 14,100 | 15,372 |

(2) 介護外サービス

| 区 分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|---------------------|-------|-------|-------|
| 養護老人ホーム(人／月) | 290 | 290 | 290 |
| 軽費老人ホーム(ケアハウス)(人／月) | 50 | 50 | 50 |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

～熊毛圏域～

構成市町村（内訳：西之表市，中種子町，南種子町，屋久島町）

1 高齢者の状況

（単位：人，％）

| 区分 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | 令和2年 | 令和3年 | 令和4年 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総人口 | 47,904 | 45,454 | 42,760 | 39,550 | 38,895 | 38,168 |
| 高齢者人口 | 13,913 | 13,942 | 14,320 | 14,850 | 14,903 | 14,860 |
| 前期高齢者 | 7,133 | 6,171 | 6,149 | 6,980 | 7,144 | 7,067 |
| 後期高齢者 | 6,780 | 7,771 | 8,171 | 7,870 | 7,759 | 7,793 |
| 高齢化率 | 29.0 | 30.7 | 33.5 | 37.5 | 38.3 | 38.9 |

[令和2年までは国勢調査, 令和3年～令和4年は県年齢別推計人口調査]

（総人口には年齢不詳が含まれる）

2 人口推計

（単位：人，％）

| 区分 | 令和7年 | 令和12年 | 令和17年 | 令和22年 | 令和27年 | 令和32年 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総人口 | 36,710 | 33,944 | 31,372 | 28,988 | 26,702 | 24,450 |
| 高齢者人口 | 14,798 | 14,217 | 13,423 | 12,821 | 12,197 | 11,451 |
| 前期高齢者 | 6,643 | 5,553 | 4,716 | 4,542 | 4,568 | 4,279 |
| 後期高齢者 | 8,155 | 8,664 | 8,707 | 8,279 | 7,629 | 7,172 |
| 高齢化率 | 40.3 | 41.9 | 42.8 | 44.2 | 45.7 | 46.8 |

[国立社会保障・人口問題研究所 [日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）]]

3 要介護（支援）認定者（第1号被保険者）の推移

（単位：人）

| 区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 第1号被保険者数(A) | 14,979 | 14,870 | 14,726 | 14,285 | 12,781 |
| 要支援1 | 329 | 326 | 324 | 332 | 340 |
| 要支援2 | 258 | 255 | 253 | 255 | 261 |
| 要介護1 | 492 | 489 | 483 | 487 | 499 |
| 要介護2 | 432 | 433 | 436 | 439 | 455 |
| 要介護3 | 354 | 353 | 354 | 364 | 379 |
| 要介護4 | 543 | 539 | 542 | 539 | 568 |
| 要介護5 | 268 | 272 | 269 | 271 | 266 |
| 計(B) | 2,676 | 2,667 | 2,661 | 2,687 | 2,768 |
| 認定率(B/A) | 17.9% | 17.9% | 18.1% | 18.8% | 21.7% |

[各市町村介護保険事業計画の推計値を県高齢者生き生き推進課で集計]

4 施設整備状況（令和5年度末実績見込み）

（単位：施設数（定員数））

| 施設種別 | 介護老人福祉施設 （特別養護老人ホーム） | 介護老人保健施設 | 介護療養型医療施設 | 介護医療院 | 特定施設入居者生活介護 （養護・軽費老人ホーム除く） |
|------|-------------------------|----------|-----------|-------|-------------------------------|
| | 8 (449) | 1 (97) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (20) |

| 施設種別 | 認知症高齢者グループ ホーム | 養護老人ホーム | 軽費老人ホーム | 住宅型有料 老人ホーム | サービス付き高齢者向け住宅 （特定施設除く） |
|------|-------------------|---------|---------|----------------|---------------------------|
| | 9 (117) | 1 (50) | 0 (0) | 7 (59) | 1 (13) |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

5 サービス利用者等の見込み

(1) 介護サービス

① 介護給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 訪問介護(回数) | 112,378 | 111,682 | 111,804 | 113,162 | 115,206 |
| (2) 訪問入浴介護(回数) | 170 | 170 | 170 | 170 | 170 |
| (3) 訪問看護(回数) | 24,202 | 24,210 | 24,362 | 24,629 | 25,692 |
| (4) 訪問リハビリテーション(回数) | 9,685 | 9,685 | 9,685 | 9,866 | 9,863 |
| (5) 居宅療養管理指導(人数) | 1,332 | 1,344 | 1,356 | 1,392 | 1,512 |
| (6) 通所介護(回数) | 60,230 | 60,349 | 60,474 | 60,156 | 61,805 |
| (7) 通所リハビリテーション(回数) | 12,919 | 12,774 | 12,892 | 13,207 | 13,938 |
| (8) 短期入所生活介護(日数) | 43,646 | 43,402 | 43,381 | 43,466 | 44,402 |
| (9) 短期入所療養介護(日数) | 10,928 | 10,864 | 10,864 | 10,774 | 11,064 |
| (10) 特定施設入居者生活介護(人数) | 480 | 480 | 480 | 468 | 444 |
| (11) 福祉用具貸与(人数) | 9,048 | 9,000 | 9,048 | 9,036 | 9,288 |
| (12) 特定福祉用具販売(人数) | 180 | 180 | 180 | 180 | 168 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護(人数) | 84 | 84 | 84 | 84 | 96 |
| (2) 夜間対応型訪問介護(人数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (3) 認知症対応型通所介護(回数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (4) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 564 | 540 | 540 | 540 | 564 |
| (5) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 1,284 | 1,380 | 1,440 | 1,500 | 1,572 |
| (6) 地域密着型特定施設入居者生活介護(人数) | 204 | 204 | 204 | 216 | 240 |
| (7) 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(人数) | 588 | 588 | 588 | 588 | 588 |
| (8) 看護小規模多機能型居宅介護(人数) | 0 | 324 | 324 | 324 | 324 |
| (9) 地域密着型通所介護(回数) | 32,272 | 32,008 | 31,924 | 32,686 | 32,978 |
| 3 住宅改修(人数) | 132 | 132 | 132 | 132 | 132 |
| 4 居宅介護支援(人数) | 13,848 | 13,800 | 13,752 | 13,800 | 14,292 |
| 5 施設サービス | | | | | |
| 介護老人福祉施設(人数) | 4,548 | 4,548 | 4,548 | 4,572 | 4,728 |
| 介護老人保健施設(人数) | 1,056 | 1,056 | 1,056 | 1,044 | 1,068 |
| 介護医療院(人数) | 24 | 24 | 24 | 24 | 24 |

② 予防給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------------------|-------|-------|-------|--------|--------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 介護予防訪問入浴介護(回数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 介護予防訪問看護(回数) | 3,577 | 3,577 | 3,577 | 3,577 | 3,457 |
| (3) 介護予防訪問リハビリテーション(回数) | 3,161 | 3,161 | 3,161 | 3,305 | 3,305 |
| (4) 介護予防居宅療養管理指導(人数) | 132 | 132 | 132 | 132 | 144 |
| (5) 介護予防通所リハビリテーション(人数) | 540 | 552 | 552 | 564 | 576 |
| (6) 介護予防短期入所生活介護(日数) | 887 | 887 | 887 | 887 | 839 |
| (7) 介護予防短期入所療養介護(日数) | 158 | 158 | 158 | 158 | 158 |
| (8) 介護予防特定施設入居者生活介護(人数) | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 |
| (9) 介護予防福祉用具貸与(人数) | 2,340 | 2,328 | 2,340 | 2,340 | 2,364 |
| (10) 特定介護予防福祉用具販売(人数) | 96 | 96 | 96 | 96 | 84 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 認知症対応型通所介護(回数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 48 | 48 | 48 | 48 | 48 |
| (3) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 |
| 3 住宅改修(人数) | 72 | 72 | 72 | 84 | 96 |
| 4 介護予防支援(人数) | 3,144 | 3,120 | 3,120 | 3,168 | 3,192 |

(2) 介護外サービス

| 区 分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|---------------------|-------|-------|-------|
| 養護老人ホーム(人／月) | 50 | 50 | 50 |
| 軽費老人ホーム(ケアハウス)(人／月) | 0 | 0 | 0 |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

～奄美圏域～

構成市町村（内訳：奄美市，大和村，宇検村，瀬戸内町，龍郷町，喜界町，徳之島町
天城町，伊仙町，和泊町，知名町，与論町）

1 高齢者の状況 （単位：人，％）

| 区分 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | 令和2年 | 令和3年 | 令和4年 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総人口 | 126,483 | 118,773 | 110,147 | 104,281 | 102,933 | 101,500 |
| 高齢者人口 | 35,081 | 34,613 | 34,442 | 36,574 | 36,843 | 36,893 |
| 前期高齢者 | 15,811 | 13,648 | 14,252 | 17,433 | 18,210 | 18,498 |
| 後期高齢者 | 19,270 | 20,965 | 20,190 | 19,141 | 18,633 | 18,395 |
| 高齢化率 | 27.7 | 29.1 | 31.3 | 35.1 | 35.8 | 36.3 |

[令和2年までは国勢調査，令和3年～令和4年は県年齢別推計人口調査]

（総人口には年齢不詳が含まれる）

2 人口推計 （単位：人，％）

| 区分 | 令和7年 | 令和12年 | 令和17年 | 令和22年 | 令和27年 | 令和32年 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総人口 | 97,424 | 91,013 | 85,071 | 79,502 | 74,035 | 68,533 |
| 高齢者人口 | 37,082 | 36,453 | 34,910 | 33,941 | 32,838 | 31,302 |
| 前期高齢者 | 17,583 | 14,653 | 11,969 | 11,527 | 12,000 | 11,513 |
| 後期高齢者 | 19,499 | 21,800 | 22,941 | 22,414 | 20,838 | 19,789 |
| 高齢化率 | 38.1 | 40.1 | 41.0 | 42.7 | 44.4 | 45.7 |

[国立社会保障・人口問題研究所 [日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）]]

3 要介護（支援）認定者（第1号被保険者）の推移 （単位：人）

| 区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 第1号被保険者数(A) | 37,890 | 38,006 | 37,862 | 37,027 | 33,938 |
| 要支援1 | 676 | 680 | 684 | 706 | 736 |
| 要支援2 | 817 | 811 | 804 | 815 | 871 |
| 要介護1 | 1,252 | 1,251 | 1,251 | 1,275 | 1,412 |
| 要介護2 | 1,192 | 1,181 | 1,184 | 1,195 | 1,282 |
| 要介護3 | 1,101 | 1,112 | 1,113 | 1,122 | 1,210 |
| 要介護4 | 1,223 | 1,221 | 1,221 | 1,225 | 1,305 |
| 要介護5 | 638 | 633 | 633 | 634 | 677 |
| 計(B) | 6,899 | 6,889 | 6,890 | 6,972 | 7,493 |
| 認定率(B/A) | 18.2% | 18.1% | 18.2% | 18.8% | 22.1% |

[各市町村介護保険事業計画の推計値を県高齢者生き生き推進課で集計]

4 施設整備状況（令和5年度末実績見込み） （単位：施設数（定員数））

| 施設種別 | 介護老人福祉施設 （特別養護老人ホーム） | 介護老人保健施設 | 介護療養型医療施設 | 介護医療院 | 特定施設入居者生活介護 （養護・軽費老人ホーム除く） |
|------|-------------------------|----------|-----------|--------|-------------------------------|
| | 20 (1,035) | 9 (606) | 0 (0) | 1 (18) | 6 (195) |

| 施設種別 | 認知症高齢者グループ ホーム | 養護老人ホーム | 軽費老人ホーム | 住宅型有料 老人ホーム | サービス付き高齢者向け住宅 （特定施設除く） |
|------|-------------------|---------|---------|----------------|---------------------------|
| | 34 (321) | 5 (275) | 2 (72) | 6 (89) | 4 (71) |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

5 サービス利用者等の見込み

(1) 介護サービス

① 介護給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 訪問介護(回数) | 232,769 | 233,965 | 234,941 | 233,976 | 249,238 |
| (2) 訪問入浴介護(回数) | 2,236 | 2,015 | 2,008 | 1,964 | 2,090 |
| (3) 訪問看護(回数) | 32,592 | 32,941 | 33,079 | 33,356 | 35,376 |
| (4) 訪問リハビリテーション(回数) | 22,246 | 22,627 | 22,750 | 22,578 | 23,852 |
| (5) 居宅療養管理指導(人数) | 6,864 | 6,816 | 6,852 | 6,924 | 7,464 |
| (6) 通所介護(回数) | 76,338 | 76,678 | 76,793 | 77,068 | 82,132 |
| (7) 通所リハビリテーション(回数) | 66,422 | 66,900 | 67,109 | 70,882 | 75,806 |
| (8) 短期入所生活介護(日数) | 37,160 | 37,506 | 37,217 | 36,450 | 37,770 |
| (9) 短期入所療養介護(日数) | 13,271 | 13,454 | 13,666 | 14,411 | 15,506 |
| (10) 特定施設入居者生活介護(人数) | 1,704 | 1,704 | 1,704 | 1,728 | 1,824 |
| (11) 福祉用具貸与(人数) | 22,524 | 22,620 | 22,668 | 22,644 | 24,288 |
| (12) 特定福祉用具販売(人数) | 564 | 564 | 552 | 540 | 588 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護(人数) | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 |
| (2) 夜間対応型訪問介護(人数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (3) 認知症対応型通所介護(回数) | 3,841 | 3,841 | 3,637 | 3,733 | 4,009 |
| (4) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 2,940 | 3,192 | 3,312 | 3,588 | 4,020 |
| (5) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 4,008 | 4,032 | 4,056 | 4,056 | 4,380 |
| (6) 地域密着型特定施設入居者生活介護(人数) | 1,296 | 1,296 | 1,296 | 1,272 | 1,272 |
| (7) 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(人数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (8) 看護小規模多機能型居宅介護(人数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (9) 地域密着型通所介護(回数) | 57,305 | 57,984 | 58,537 | 61,126 | 65,540 |
| 3 住宅改修(人数) | 528 | 540 | 540 | 540 | 564 |
| 4 居宅介護支援(人数) | 30,300 | 30,444 | 30,492 | 30,684 | 33,000 |
| 5 施設サービス | | | | | |
| 介護老人福祉施設(人数) | 11,868 | 11,868 | 11,832 | 11,568 | 11,976 |
| 介護老人保健施設(人数) | 6,996 | 6,900 | 6,828 | 6,840 | 7,128 |
| 介護医療院(人数) | 252 | 348 | 432 | 708 | 780 |

② 予防給付

(単位：回，日，人／年間)

| サービス区分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和12年度 | 令和22年度 |
|-------------------------|-------|-------|-------|--------|--------|
| 1 居宅サービス | | | | | |
| (1) 介護予防訪問入浴介護(回数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 介護予防訪問看護(回数) | 4,675 | 4,675 | 4,722 | 5,136 | 5,483 |
| (3) 介護予防訪問リハビリテーション(回数) | 5,689 | 5,689 | 5,689 | 5,492 | 5,762 |
| (4) 介護予防居宅療養管理指導(人数) | 696 | 672 | 684 | 720 | 756 |
| (5) 介護予防通所リハビリテーション(人数) | 2,977 | 2,977 | 3,001 | 3,373 | 3,589 |
| (6) 介護予防短期入所生活介護(日数) | 901 | 901 | 901 | 901 | 901 |
| (7) 介護予防短期入所療養介護(日数) | 138 | 138 | 138 | 138 | 138 |
| (8) 介護予防特定施設入居者生活介護(人数) | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 |
| (9) 介護予防福祉用具貸与(人数) | 7,260 | 7,200 | 7,236 | 7,308 | 7,692 |
| (10) 特定介護予防福祉用具販売(人数) | 235 | 235 | 235 | 247 | 259 |
| 2 地域密着型サービス | | | | | |
| (1) 認知症対応型通所介護(回数) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 小規模多機能型居宅介護(人数) | 456 | 456 | 468 | 480 | 528 |
| (3) 認知症対応型共同生活介護(人数) | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 |
| 3 住宅改修(人数) | 360 | 360 | 360 | 384 | 384 |
| 4 介護予防支援(人数) | 8,748 | 8,748 | 8,772 | 8,904 | 9,252 |

(2) 介護外サービス

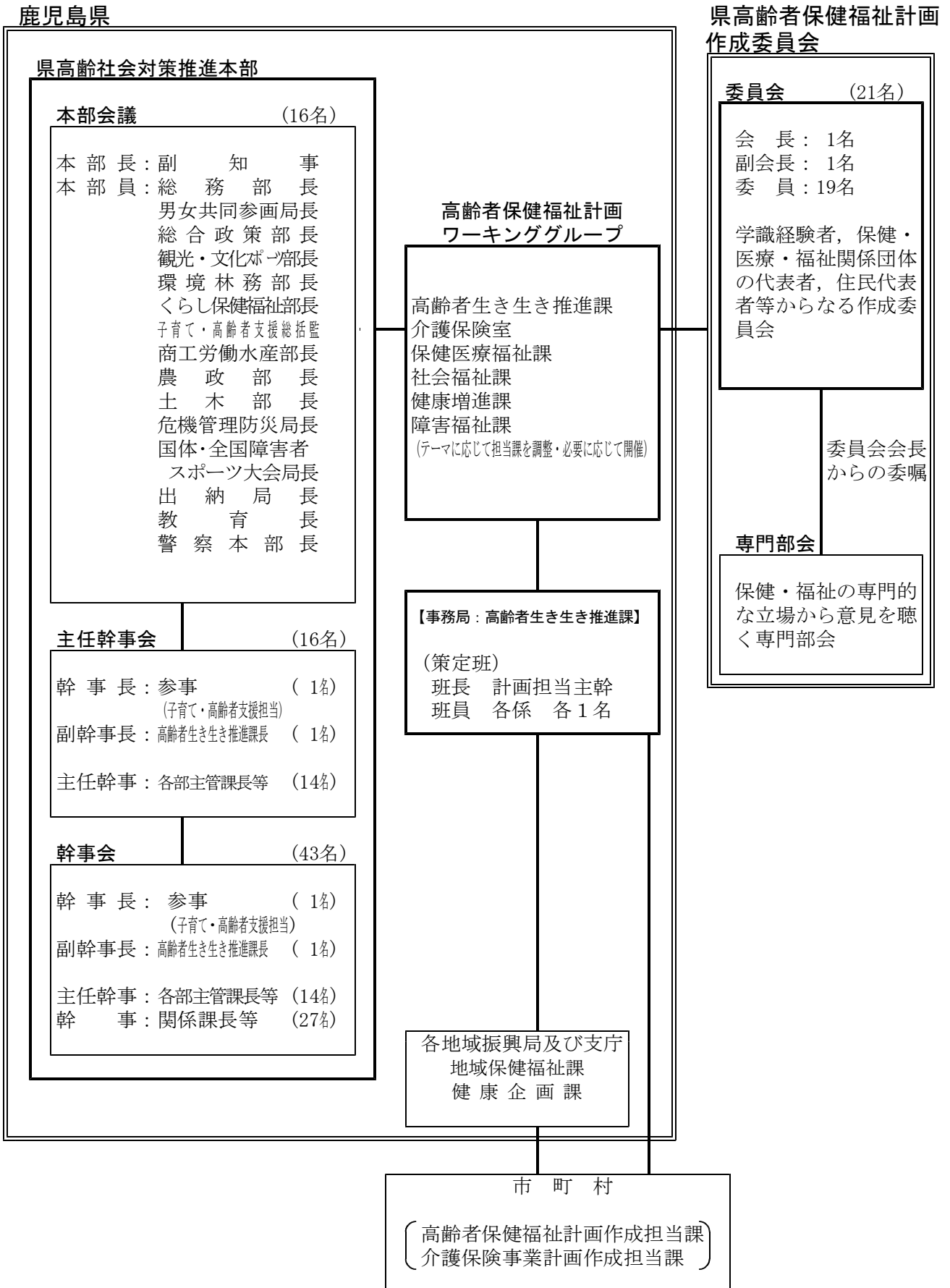
| 区 分 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|---------------------|-------|-------|-------|
| 養護老人ホーム(人／月) | 275 | 275 | 275 |
| 軽費老人ホーム(ケアハウス)(人／月) | 72 | 72 | 72 |

[県高齢者生き生き推進課調べ]

■ 参考資料 ■

■ 参考資料 ■

1 鹿児島県高齢者保健福祉計画作成の体制



(1) 鹿児島県高齢者保健福祉計画作成委員会設置要綱

(設置)

第1条 令和3年3月に作成した鹿児島県高齢者保健福祉計画（鹿児島すこやか長寿プラン2021）の見直しを行い、新たな計画（以下「県計画」という。）を老人福祉法（昭和38年法律第133号）第20条の9及び介護保険法（平成9年法律第123号）第118条の規定に基づき作成するに当たり、また、地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律（平成元年法律第64号）第4条の規定による都道府県計画（介護分）を作成し、又は変更するに当たり、広く保健福祉関係機関・団体等から意見を聴くため、「鹿児島県高齢者保健福祉計画作成委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について所掌する。

- (1) 高齢者の保健・福祉ニーズに関する社会環境の現状と将来予測に関すること。
- (2) 目標年度における保健・福祉サービスの目標量の設定に関すること。
- (3) 保健・福祉サービスの供給体制のあり方に関すること。
- (4) 地域医療介護総合確保基金(介護分)に関すること。
- (5) その他県計画の作成等に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、24名以内の委員をもって組織する。

- 2 委員は、学識経験者、保健医療関係者、福祉関係者の代表者及び関係機関・団体等の代表者等のうちから知事が委嘱する。
- 3 委員の任期は令和6年3月31日までとする。

(運営)

第4条 委員会に会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によりこれを定める。
- 3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。
- 5 委員会は、会長が招集し、その議長となる。

(専門部会の設置)

第5条 委員会に、より専門的な立場から助言等を得るため、専門部会として計画作成部会及び地域医療介護総合確保基金(介護分)部会を置く。

- 2 県計画の作成等に関する事項については計画作成部会から、また、地域医療介護総合確保基金(介護分)に関する事項については、地域医療介護総合確保基金(介護分)部会から助言等を得ることとする。
- 3 専門部会の委員は、委員会委員及び学識経験者等から知事が委嘱又は任命する。
- 4 専門部会の委員の任期は令和6年3月31日までとする。

(事務局の設置)

第6条 委員会及び専門部会の事務局をくらし保健福祉部高齢者生き生き推進課に置く。

(雑則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は会長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和3年7月1日から施行する。

■ 参考資料 ■

【鹿児島県高齢者保健福祉計画作成委員会委員】

| 区分 | 所属団体名 | 役職名 | 氏名 | 備考 |
|------------------|--------------------------|----------------|--------|-------|
| 住民代表等 | 鹿児島県老人クラブ連合会 | 会長 | 吉村 敏行 | |
| | 鹿児島県民生委員児童委員協議会 | 会長 | 渡邊 正人 | |
| | 認知症のひとと家族の会 鹿児島県支部 | 会長 | 上妻 厚男 | |
| | 特定非営利活動法人 地域サポートよしのねぎぼうず | 理事長 | 永山 恵子 | |
| 関係団体 | 鹿児島県医師会 | 常任理事 | 黒木 康文 | 副会長 |
| | 鹿児島県歯科医師会 | 理事 | 有村 健二 | |
| | 鹿児島県薬剤師会 | 常務理事 | 沼田 真由美 | |
| | 鹿児島県看護協会 | 専務理事 | 今村 恵 | |
| | 鹿児島県栄養士会 | 会長 | 油田 幸子 | |
| | 鹿児島県理学療法士協会 | 会長 | 平名 章二 | |
| | 鹿児島県介護福祉士会 | 会長 | 田中 安平 | |
| | 鹿児島県社会福祉協議会 | 常務理事兼事務局長 | 田崎 寛二 | 会長 |
| | 鹿児島県地域包括・在宅介護支援センター協議会 | 会長 | 石原 大吾 | |
| | 鹿児島県老人福祉施設協議会 | 会長 | 柿添 信義 | |
| | 鹿児島県老人保健施設協会 | 理事 | 川上 秀一 | |
| | 鹿児島県介護支援専門員協議会 | 会長 | 來仙 隆洋 | |
| | 学識経験者 | 鹿児島国際大学 福祉社会学部 | 教授 | 高橋 信行 |
| 鹿児島純心女子大学 看護栄養学部 | | 教授 | 田中 みゆき | |
| 行政等 | 鹿児島県市長会 | 枕崎市長 | 前田 祝成 | |
| | 鹿児島県町村会 | 瀬戸内町長 | 鎌田 愛人 | |
| | 鹿児島県後期高齢者医療広域連合 | 事務局長 | 松元 祐成 | |

【鹿児島県高齢者保健福祉計画作成委員会専門部会委員】

| 所属団体名 | 役職名 | 氏名 |
|----------------|--------------|--------|
| 鹿児島県社会福祉協議会 | 地域福祉部長 | 古市 智子 |
| 鹿児島県老人福祉施設協議会 | 会長 | 柿添 信義 |
| 鹿児島県老人保健施設協会 | 理事 | 川上 秀一 |
| 鹿児島県医師会 | 常任理事 | 黒木 康文 |
| 鹿児島県歯科医師会 | 理事 | 有村 健二 |
| 鹿児島国際大学 福祉社会学部 | 教授 | 高橋 信行 |
| 鹿児島県看護協会 | 専務理事 | 今村 恵 |
| 鹿児島県ホームヘルパー協会 | 会長 | 松下 みゆき |
| 南九州市長寿介護課 | 課長 | 福元 睦美 |
| 龍郷町保健福祉課 | 課長 | 加藤 寛之 |
| 鹿児島県くらし保健福祉部 | 子育て・高齢者支援総括監 | 岩田 俊郎 |

(2) 鹿児島県高齢社会対策推進本部設置要綱

(設置)

第1条 高齢者対策について、関係部局相互の密接な連携を確保し、その総合的かつ効果的な推進を図るため、鹿児島県高齢社会対策推進本部（以下「推進本部」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 推進本部は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 鹿児島県高齢者保健福祉計画に基づく施策の総合的推進に関すること。
- (2) 高齢者対策に関する知事部局、教育委員会及び警察本部の連絡調整に関すること。

(組織)

第3条 推進本部は、本部長及び本部員をもって組織する。

- 2 本部長は、副知事（くらし保健福祉部担当）をもって充てる。
- 3 本部員は、別表本部員の欄に掲げる者をもって充てる。

(本部長の職務)

第4条 本部長は、推進本部を代表し、統括する。

(会議)

第5条 推進本部に本部会議を置く。

- 2 本部会議は、本部長が招集し、本部長が議長となる。

(主任幹事会及び幹事会)

第6条 推進本部に主任幹事会及び幹事会を置く。

- 2 主任幹事会は、幹事長及び副幹事長並びに主任幹事をもって組織する。
- 3 幹事会は、幹事長、副幹事長及び主任幹事並びに幹事をもって組織する。
- 4 幹事長はくらし保健福祉部参事（子育て・高齢者支援担当）を、副幹事長は高齢者生き生き推進課長をもって充てる。
- 5 主任幹事及び幹事は、別表主任幹事及び幹事の欄に掲げる者をもって充てる。
- 6 幹事長は、主任幹事会及び幹事会に必要と認める者の出席を求めることができる。
- 7 主任幹事会及び幹事会は、本部長の命を受け、推進本部の事務を処理する。
- 8 幹事長は、主任幹事会及び幹事会を招集し、会議の議長となる。
- 9 副幹事長は、幹事長を補佐し、幹事長に事故あるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(庶務)

第7条 本部会議及び主任幹事会並びに幹事会の庶務は、くらし保健福祉部高齢者生き生き推進課において処理する。

(雑則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、推進本部に関し必要な事項は、本部長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和62年5月1日から施行する。

(中略)

附 則

この要綱は、令和4年4月1日から施行する。

■ 参考資料 ■

別表（第3条，第6条関係）

| 本 部 員 | 主任幹事 | 幹 事 |
|---|---|---|
| <p>総務部長</p> <p>男女共同参画局長</p> <p>総合政策部長</p> <p>観光・文化スポーツ部長</p> <p>環境林務部長</p> <p>くらし保健福祉部長</p> <p>子育て・高齢者支援総括監</p> <p>商工労働水産部長</p> <p>農政部長</p> <p>土木部長</p> <p>危機管理防災局長</p> <p>国体・全国障害者スポーツ大会局長</p> <p>出納局長</p> <p>教育長</p> <p>警察本部長</p> | <p>人事課長</p> <p>青少年男女共同参画課長</p> <p>総合政策課長</p> <p>PR観光課長</p> <p>環境林務課長</p> <p>保健医療福祉課長</p> <p>商工政策課長</p> <p>農政課長</p> <p>監理課長</p> <p>危機管理課長</p> <p>総務企画課長</p> <p>会計課長</p> <p>総務福利課長</p> <p>人身安全・少年課長</p> | <p>くらし共生協働課長 消費者行政推進室長</p> <p>交通政策課長</p> <p>森林経営課長</p> <p>国民健康保険課長 社会福祉課長 健康増進課長 障害福祉課長 障害者支援室長 薬務課長</p> <p>子ども家庭課長 介護保険室長</p> <p>雇用労政課長 外国人材政策推進室長 水産振興課長</p> <p>経営技術課長</p> <p>砂防課長 住宅政策室長</p> <p>災害対策課長 消防保安課長</p> <p>社会教育課長 義務教育課長 保健体育課長</p> <p>生活安全企画課長 地域課長 生活環境課長 交通企画課長</p> |

2 鹿児島県高齢者保健福祉計画作成の主な経緯

| 年 月 日 | 内 容 |
|------------------|---------------------------------|
| 令和4年11月～令和5年2月 | 介護予防日常生活圏域ニーズ調査・高齢者等実態調査（市町村実施） |
| 令和5年3月8日 | 全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議（動画配信） |
| 令和5年3月31日 | 介護保険制度等に係る市町村等説明会（書面開催） |
| 令和5年6月9日～23日 | 市町村等介護保険新任担当者研修会（動画配信） |
| 令和5年6月9日～23日 | 介護保険事務担当者会議（県地域振興局・支庁）（動画配信） |
| 令和5年7月12日 | 県高齢社会対策推進本部幹事会 |
| 令和5年7月31日 | 全国介護保険担当課長会議（w e b開催） |
| 令和5年8月28日 | 介護保険事業計画策定等に係る市町村説明会（w e b開催） |
| 令和5年9月5日 | 県高齢者保健福祉計画作成委員会（第1回） |
| 令和5年9月29日～10月20日 | 市町村介護保険事業計画に係る市町村ヒアリング |
| 令和5年10月12日 | 県高齢者保健福祉計画作成委員会専門部会（第1回） |
| 令和5年10月19日～11月1日 | 医療・介護の体制整備に係る協議（地域医療構想調整会議） |
| 令和5年11月15日 | 県高齢者保健福祉計画作成委員会専門部会（第2回） |
| 令和5年12月12日 | 令和5年第4回県議会（環境厚生委員会） |
| 令和5年12月20日～ | 市町村介護保険事業計画に係る市町村ヒアリング |
| 令和6年1月26日 | （第9期県高齢者保健福祉計画（素案）について） |
| 令和5年12月26日～ | 市町村介護保険事業計画に係る市町村ヒアリング |
| 令和6年1月25日 | 県民からの意見募集（パブリック・コメント） |
| 令和6年2月16日 | 県高齢者保健福祉計画作成委員会（第2回） |
| 令和6年3月27日 | 県高齢社会対策推進本部会議 |
| 令和6年3月下旬 | 県高齢者保健福祉計画（第9期計画）の決定 |